

令和7（2025）年度

# 大学院 経済学研究科

## 講義案内

講義コード	12C0101101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小林 隆史	開講期	第1期
科目名	環境政策特論3					小林 隆史		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	社会課題を取り上げ、それらが生じる要因を考察し、モデル化を検討する。これによって、課題に対する論理的な思考力を得ること、それを他者に効果的に伝える力を得ることを目的とする。								
到達目標	社会課題における要因について論理的に考察できるようになる。自身で選んだテーマにおけるモデルを発表できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うことが必要である。授業で利用する参考書を事前に読むことが重要である。また、自身にとって興味のある課題を選定するために、ニュース等に目を向け、適宜紹介される論文を読むこと。								
授業計画	【第1回】社会課題とモデル化 【第2回】テキスト輪読・発表 【第3回】テキスト輪読・発表 【第4回】テキスト輪読・発表 【第5回】テキスト輪読・発表 【第6回】レポートテーマ発表 【第7回】論文の分析手法・結果の解説 【第8回】論文の分析手法・結果の解説 【第9回】論文の分析手法・結果の解説 【第10回】レポート発表とディスカッション 【第11回】レポート発表とディスカッション 【第12回】レポート発表とディスカッション 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業内での発表（30％）と、取り組み姿勢（30％）、レポート等の課題（40％）で評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジュメについてコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会学アプローチによる課題解決』大澤 義明（編集、著）、他（学芸出版社）2023、『都市モデル読本』栗田 治（著）、古山 正雄（監修）（共立出版）2004、『巨大地震による複合災害－発生メカニズム・被害・都市や地域の復』八木 勇治・大澤 義明（編集、著）、他（学芸出版社）2015、『思考の方法学』栗田 治（講談社）2023								
教員からのお知らせ	テキストは受講生の興味、関心によって設定する。参考文献については、授業中に説明する。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「プレゼンテーション」・「グループディスカッション」について、授業内で「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0101201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小林 隆史	開講期	第2期
科目名	環境政策特論4					小林 隆史		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	社会課題を取り上げ、それらが生じる問題の要因を考察し、モデル化する。また、そのモデルについてデータによる実証分析を試みる。これによって、課題に対する論理的な思考力を得ること、それを他者に効果的に伝える力を得ること、データの扱い方を身につけることを目的とする。								
到達目標	社会課題における要因について論理的に考察できるようになる。自身で選んだテーマにおけるモデルにおいて、データを用いた実証分析を行えるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うことが必要である。授業で利用する参考書を事前に読むことが重要である。また、自身にとって興味のある課題を選定するために、ニュース等に目を向け、適宜紹介される論文を読むこと。データによる実証分析において相応の分析時間を確保すること。								
授業計画	【第1回】環境問題とモデルの実証分析 【第2回】テーマ発表・ディスカッション 【第3回】データ分析手法の紹介と実習（GIS） 【第4回】データ分析手法の紹介と実習（空間相互作用） 【第5回】データ分析手法の紹介と実習（多変量解析） 【第6回】一次発表とディスカッション 【第7回】一次発表とディスカッション 【第8回】論文の分析手法・結果の解説 【第9回】論文の分析手法・結果の解説 【第10回】論文の分析手法・結果の解説 【第11回】二次発表とディスカッション 【第12回】二次発表とディスカッション 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業内での発表（30％）と、取り組み姿勢（30％）、レポート等の課題（40％）で評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジュメについてコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会学アプローチによる課題解決』大澤 義明（編集、著）、他（学芸出版社）2023、『都市モデル読本』栗田 治（著）、古山 正雄（監修）（共立出版）2004、『巨大地震による複合災害－発生メカニズム・被害・都市や地域の復』八木 勇治・大澤 義明（編集、著）、他（学芸出版社）2015、『思考の方法学』栗田 治（講談社）2023								
教員からのお知らせ	テキストは受講生の興味、関心によって設定する。参考文献については、授業中に説明する。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「プレゼンテーション」・「グループディスカッション」について、授業内で「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0101501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	佐伯 順子	開講期	第1期
科目名	国際環境特論3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研3」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で紹介する環境問題の中から、一つ選択し、その問題と講じられている対策について調査します。調査した内容をレポートにまとめ、授業で発表できるように準備します。調査では、特にその対策の効果と課題に着目し、今後どのように対応していくべきかの提案をします。(計60時間)								
授業計画	【第1回】地球上で起こっている環境問題の概要と歴史 【第2回】環境問題と国際的な枠組み 【第3回】地球温暖化(1)メカニズムと現象、研究 【第4回】地球温暖化(2)政策的な取組 【第5回】地球温暖化(3)地球温暖化問題とエネルギー資源 【第6回】地球温暖化(4)対策(省エネ、技術開発)、適応策と緩和策 【第7回】地球温暖化(5)企業の取組 【第8回】環境汚染(1)大気汚染 【第9回】環境汚染(2)土壌汚染、水質汚濁(富栄養化)、残留農業 【第10回】水資源(1)水の需要と供給 【第11回】水資源(2)環境への影響 【第12回】水資源(3)水マネジメント 【第13回】プレゼンテーションとまとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢(40%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門-予防的順応的管理-』松田裕之(共立出版)2008、『地球の論点——現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点——現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート(英治出版)2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠(裳華房)2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫(日刊工業新聞社)2012、『TNFD 企業戦略』デロイトトーマツグループ(中央経済社)2024、『資源の循環利用とはなにか——バズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士(岩波書店)2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン(新潮文庫)1974、『GEO-5 地球環境概観 第5次報告書-私達が望む未来の環境(上)』国連環境計画(環境報告研)2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄(大学教育出版)2020、『資源と環境の経済学-ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介(昭和堂)2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								
その他									

講義コード	12C0101601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	国際環境特論4				佐伯 順子			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。 なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研4」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	企業の環境経営を調査し、関心のある1企業をピックアップします。その企業の環境に対する取り組みを深掘りして調査し、授業で紹介し、またその調査内容をレポートにまとめます。(計60時間)								
授業計画	【第1回】生態系環境 (1) 生物を取り巻く環境 【第2回】生態系環境 (2) 生物多様性と生態系のメカニズムと重要性 【第3回】生態系環境 (3) 海の生態系 【第4回】生態系環境 (4) 生物資源(バイオマス)の利用と環境保全 【第5回】生態系環境 (5) 外来種 【第6回】資源循環 (1) プラスチック問題 【第7回】資源循環 (2) 資源枯渇 【第8回】資源循環 (3) 廃棄物問題 【第9回】資源循環 (4) リサイクル 【第10回】環境経営 (1) 企業の取組事例 【第11回】環境経営 (2) 環境への影響の評価方法 【第12回】環境経営 (3) 企業に求められる努力 【第13回】プレゼンテーションとまとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢(40%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之(共立出版)2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート(英治出版)2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠(裳華房)2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫(日刊工業新聞社)2012、『TNFD 企業戦略』デロイトトーマツグループ(中央経済社)2024、『資源の循環利用とはなにか—— バツをグズに変える新しい経済システム』細田 衛士(岩波書店)2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン(新潮文庫)1974、『GEO-5 地球環境概観 第5次報告書-私達が望む未来の環境(上)』国連環境計画(環境報告研)2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄(大学教育出版)2020、『資源と環境の経済学-ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介(昭和堂)2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。 プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。 期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								
その他									

講義コード	12C0101701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	地域農業環境特論1				北原 克宣		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ修士論文）が執筆できるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】論文①に関する報告・討論 【第2回】論文②に関する報告・討論 【第3回】論文③に関する報告・討論 【第4回】論文④に関する報告・討論 【第5回】論文⑤に関する報告・討論 【第6回】論文⑥に関する報告・討論 【第7回】論文⑦に関する報告・討論 【第8回】論文⑧に関する報告・討論 【第9回】論文⑨に関する報告・討論 【第10回】論文⑩に関する報告・討論 【第11回】論文⑪に関する報告・討論 【第12回】論文⑫に関する報告・討論 【第13回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	発表に対するコメントを授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義の際にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0101801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	地域農業環境特論2				北原 克宣		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ修士論文）が執筆できるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】論文⑬に関する報告・討論 【第2回】論文⑭に関する報告・討論 【第3回】論文⑮に関する報告・討論 【第4回】論文⑯に関する報告・討論 【第5回】論文⑰に関する報告・討論 【第6回】論文⑱に関する報告・討論 【第7回】論文⑲に関する報告・討論 【第8回】論文⑳に関する報告・討論 【第9回】研究発表・討論 【第10回】研究発表・討論 【第11回】研究発表・討論 【第12回】研究発表・討論 【第13回】農業・食料・環境問題の現代的課題								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	発表に対するコメントを授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義の際にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0102301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	第1期
科目名	<b>都市環境特論3</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、社会科学的視点と自然科学的視点の両面から経済と環境および環境問題について理解する。地球環境の変遷を踏まえ、資源やエネルギー、社会技術の面から人間社会における経済活動の発展と、それに伴う環境への影響について概観する。さまざまな環境問題の事例を紹介し、それらの原因となった社会経済活動や環境負荷となる排出物質の関係を理解して、問題に応じた環境政策について検討する。								
到達目標	環境という概念を理解し、それを把握するためには多分野にまたがる分析方法があることを学ぶ。環境問題とは何か、また、人間社会が与える影響について理解することができる。それらの諸問題の対策として講じられてきた環境政策について学び、効果や課題について議論することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時の作成ノートをもとにして、当該内容の確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、インターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 イントロダクション</li> <li>【第2回】 環境とは</li> <li>【第3回】 文明と環境</li> <li>【第4回】 農業技術と工業技術</li> <li>【第5回】 資源・エネルギーの変化</li> <li>【第6回】 社会と環境影響</li> <li>【第7回】 物質とは</li> <li>【第8回】 環境問題の発生</li> <li>【第9回】 公害問題</li> <li>【第10回】 大気環境</li> <li>【第11回】 酸性雨</li> <li>【第12回】 地球温暖化</li> <li>【第13回】 まとめ</li> </ul>								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5％とし、期末試験を95％とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『地球環境テキストブック「環境科学」』吉原利一編（オーム社）2010								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0102401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	第2期
科目名	<b>都市環境特論4</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、社会科学的視点と自然科学的視点の両面から経済と環境および環境問題について理解する。水質汚濁問題をはじめとする典型的な環境問題に関して具体事例を紹介しつつ、社会における経済活動と環境負荷との関係をモデル化することにより環境問題のメカニズムや構造について学ぶことを目的とする。								
到達目標	環境における物質循環システム、環境問題の発生メカニズムなどに関するモデル分析の方法を学ぶことで、環境と経済との相互関係や仕組み、科学的な見方について理解するとともに、定量的な分析を実施することができる。また、そのような分析が実際の政策においてどのように適用されているかを学ぶ。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時の作成ノートをもとにして、当該内容の確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、インターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 水環境と水質汚濁（1）</li> <li>【第2回】 水環境と水質汚濁（2）</li> <li>【第3回】 水環境政策</li> <li>【第4回】 土壌環境と土壌汚染</li> <li>【第5回】 環境と食</li> <li>【第6回】 生態系と生物多様性</li> <li>【第7回】 環境政策とその変遷</li> <li>【第8回】 システムモデルの考え方</li> <li>【第9回】 経済指標と環境指標</li> <li>【第10回】 物質フロー分析</li> <li>【第11回】 環境・経済システムモデル（1）</li> <li>【第12回】 環境・経済システムモデル（2）</li> <li>【第13回】 まとめ</li> </ul>								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5％とし、期末試験を95％とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『河川汚濁のモデル解析』国松孝男・村岡浩爾（技報堂出版）1989								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0102701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期														
科目名	<b>マルクス経済学特論3</b>				中村 宗之		第1期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は博士後期課程「マルクス経済学特研3」との合同授業である。																						
到達目標	「マルクス経済学特論3」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研3」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論3」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研3」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス</td> <td>【第8回】教科書の検討と議論(7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】教科書の検討と議論(1)</td> <td>【第9回】教科書の検討と議論(8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】教科書の検討と議論(2)</td> <td>【第10回】教科書の検討と議論(9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】教科書の検討と議論(3)</td> <td>【第11回】参加者による報告(1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】教科書の検討と議論(4)</td> <td>【第12回】参加者による報告(2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】教科書の検討と議論(5)</td> <td>【第13回】前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】教科書の検討と議論(6)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第8回】教科書の検討と議論(7)	【第2回】教科書の検討と議論(1)	【第9回】教科書の検討と議論(8)	【第3回】教科書の検討と議論(2)	【第10回】教科書の検討と議論(9)	【第4回】教科書の検討と議論(3)	【第11回】参加者による報告(1)	【第5回】教科書の検討と議論(4)	【第12回】参加者による報告(2)	【第6回】教科書の検討と議論(5)	【第13回】前期のまとめ	【第7回】教科書の検討と議論(6)	
【第1回】ガイダンス	【第8回】教科書の検討と議論(7)																						
【第2回】教科書の検討と議論(1)	【第9回】教科書の検討と議論(8)																						
【第3回】教科書の検討と議論(2)	【第10回】教科書の検討と議論(9)																						
【第4回】教科書の検討と議論(3)	【第11回】参加者による報告(1)																						
【第5回】教科書の検討と議論(4)	【第12回】参加者による報告(2)																						
【第6回】教科書の検討と議論(5)	【第13回】前期のまとめ																						
【第7回】教科書の検討と議論(6)																							
成績評価の方法	「マルクス経済学特論3」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出レポートの内容(50%)により評価する。 「マルクス経済学特研3」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出論文の内容(50%)により評価する。																						
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『アナキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック(木鐸社)1995年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン(信山社)2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン(ミネルヴァ書房)2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド(藤原書店)2008年、『完訳 統治二論(岩波文庫)』ジョン・ロック(岩波書店)2010年、『国家と革命(講談社学術文庫)』レーニン(講談社)2011年、『国家民営化論』笠井潔(光文社)2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー(青木書店)1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠(岩波書店)1989年、『現代の社会主義(講談社学術文庫)』伊藤誠(講談社)1992年																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams等でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	12C0102801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第2期														
科目名	<b>マルクス経済学特論4</b>				中村 宗之		第2期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は博士後期課程「マルクス経済学特研4」との合同授業である。																						
到達目標	「マルクス経済学特論4」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研4」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論4」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研4」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】教科書の検討と議論(1)</td> <td>【第8回】教科書の検討と議論(8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】教科書の検討と議論(2)</td> <td>【第9回】教科書の検討と議論(9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】教科書の検討と議論(3)</td> <td>【第10回】教科書の検討と議論(10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】教科書の検討と議論(4)</td> <td>【第11回】参加者による報告(1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】教科書の検討と議論(5)</td> <td>【第12回】参加者による報告(2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】教科書の検討と議論(6)</td> <td>【第13回】後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】教科書の検討と議論(7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】教科書の検討と議論(1)	【第8回】教科書の検討と議論(8)	【第2回】教科書の検討と議論(2)	【第9回】教科書の検討と議論(9)	【第3回】教科書の検討と議論(3)	【第10回】教科書の検討と議論(10)	【第4回】教科書の検討と議論(4)	【第11回】参加者による報告(1)	【第5回】教科書の検討と議論(5)	【第12回】参加者による報告(2)	【第6回】教科書の検討と議論(6)	【第13回】後期のまとめ	【第7回】教科書の検討と議論(7)	
【第1回】教科書の検討と議論(1)	【第8回】教科書の検討と議論(8)																						
【第2回】教科書の検討と議論(2)	【第9回】教科書の検討と議論(9)																						
【第3回】教科書の検討と議論(3)	【第10回】教科書の検討と議論(10)																						
【第4回】教科書の検討と議論(4)	【第11回】参加者による報告(1)																						
【第5回】教科書の検討と議論(5)	【第12回】参加者による報告(2)																						
【第6回】教科書の検討と議論(6)	【第13回】後期のまとめ																						
【第7回】教科書の検討と議論(7)																							
成績評価の方法	「マルクス経済学特論4」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出レポートの内容(50%)により評価する。 「マルクス経済学特研4」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出論文の内容(50%)により評価する。																						
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『アナキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック(木鐸社)2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン(信山社)2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン(ミネルヴァ書房)2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド(藤原書店)2008年、『完訳 統治二論(岩波文庫)』ジョン・ロック(岩波書店)2010年、『国家と革命(講談社学術文庫)』レーニン(講談社)2011年、『国家民営化論』笠井潔(光文社)2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー(青木書店)1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠(岩波書店)1989年、『現代の社会主義(講談社学術文庫)』伊藤誠(講談社)1992年																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams等でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	12C0102901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第1期
科目名	マクロ経済学特論1								
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学習内容・授業外学習時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤)本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0103001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	マクロ経済学特論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学習内容・授業外学習時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤)本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									



講義コード	12C0103101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 ゼイ	開講期	第1期
科目名	<b>マクロ経済学特論3</b>				王 ゼイ		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は大学院初級レベルのマクロ経済学について講義する。主に現代マクロ経済学の基本的な考え方、代表的な動学マクロ経済モデルについて学ぶ。								
到達目標	この授業では、以下の3点を到達目標とする。 ①現代マクロ経済学の基本的な考え方を理解すること。 ②代表的な動学マクロ経済モデルを習得すること。 ③簡単なマクロ経済モデルの数値シミュレーションができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料と指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。								
授業計画	【第1回】現代マクロ経済学の基本的な考え方(1) 【第2回】現代マクロ経済学の基本的な考え方(2) 【第3回】数学準備(1) 【第4回】数学準備(2) 【第5回】ソローモデル(1) 【第6回】ソローモデル(2) 【第7回】ラムゼーモデル(1)			【第8回】ラムゼーモデル(2) 【第9回】ラムゼーモデル(3) 【第10回】世帯重複モデル(1) 【第11回】世帯重複モデル(2) 【第12回】世帯重複モデル(3) 【第13回】まとめ					
成績評価の方法	小テスト(40%)と期末試験(60%)で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック、課題の配布と提出などはすべて Microsoft Teams を通じて行われる。								
教科書 指定図書 参考書									
教員からのお知らせ	この科目は第2期の「マクロ経済学特論4」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。必要に応じて、ノートパソコンを持参していただくことがある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。そのほかの時間帯に関しては、大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。								

講義コード	12C0103201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 ゼイ	開講期	第2期
科目名	<b>マクロ経済学特論4</b>				王 ゼイ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は大学院初級レベルのマクロ経済学について講義する。主に現代マクロ経済学の基本的な考え方、代表的な動学マクロ経済モデルについて学ぶ。								
到達目標	この授業では、以下の3点を到達目標とする。 ①現代マクロ経済学の基本的な考え方を理解すること。 ②代表的な動学マクロ経済モデルを習得すること。 ③簡単なマクロ経済モデルの数値シミュレーションができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料と指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。								
授業計画	【第1回】リアルビジネスサイクルモデル(1) 【第2回】リアルビジネスサイクルモデル(2) 【第3回】リアルビジネスサイクルモデル(3) 【第4回】リアルビジネスサイクルモデル(4) 【第5回】リアルビジネスサイクルモデル(5) 【第6回】ニューケインジアンモデル(1) 【第7回】ニューケインジアンモデル(2)			【第8回】ニューケインジアンモデル(3) 【第9回】ニューケインジアンモデル(4) 【第10回】ニューケインジアンモデル(5) 【第11回】動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション(1) 【第12回】動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション(2) 【第13回】まとめ					
成績評価の方法	小テスト(40%)と期末試験(60%)で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック、課題の配布と提出などはすべて Microsoft Teams を通じて行われる。								
教科書 指定図書 参考書									
教員からのお知らせ	この科目は第1期の「マクロ経済学特論3」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。必要に応じて、ノートパソコンを持参していただくことがある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。そのほかの時間帯に関しては、大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。								

講義コード	12C0103301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	<b>ミクロ経済学特論 1</b>				小野崎 保		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。 なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研1」との合同授業である。								
到達目標	(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学の視点から考えることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) 授業内容に関連する練習問題に取り組むこと。 これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】文献の輪読および討論 (1) 【第2回】文献の輪読および討論 (2) 【第3回】文献の輪読および討論 (3) 【第4回】文献の輪読および討論 (4) 【第5回】文献の輪読および討論 (5) 【第6回】文献の輪読および討論 (6) 【第7回】文献の輪読および討論 (7) 【第8回】文献の輪読および討論 (8) 【第9回】文献の輪読および討論 (9) 【第10回】文献の輪読および討論 (10) 【第11回】文献の輪読および討論 (11) 【第12回】文献の輪読および討論 (12) 【第13回】文献の輪読および討論 (13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および試験 (80%)								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0103401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	<b>ミクロ経済学特論 2</b>				小野崎 保		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。 なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研2」との合同授業である。								
到達目標	(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学的に分析し、課題を見つけ政策提言をすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) 授業内容に関連する練習問題に取り組むこと。 これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】文献の輪読および討論 (1) 【第2回】文献の輪読および討論 (2) 【第3回】文献の輪読および討論 (3) 【第4回】文献の輪読および討論 (4) 【第5回】文献の輪読および討論 (5) 【第6回】文献の輪読および討論 (6) 【第7回】文献の輪読および討論 (7) 【第8回】文献の輪読および討論 (8) 【第9回】文献の輪読および討論 (9) 【第10回】文献の輪読および討論 (10) 【第11回】文献の輪読および討論 (11) 【第12回】文献の輪読および討論 (12) 【第13回】文献の輪読および討論 (13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および試験 (80%)								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0103501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	渡部 真弘	開講期	第1期
科目名	ミクロ経済学特論3				渡部 真弘		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は博士後期課程「ミクロ経済学特研3」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特論3」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特研3」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特論3」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特研3」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 標準型表現：囚人のジレンマ 【第3回】 標準型表現：最適反応とナッシュ均衡：戦略が離散的である場合 【第4回】 標準型表現：最適反応とナッシュ均衡：戦略が連続的である場合 【第5回】 標準型表現：クールノー均衡（1）：利潤最大化行動、最適反応、クラメールの公式 【第6回】 標準型表現：クールノー均衡（2）：余剰分析の準備 【第7回】 標準型表現：クールノー均衡（3）：余剰分析 【第8回】 標準型表現：支配される戦略の逐次的消去 【第9回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡 【第10回】 展開型表現：後ろ向き帰納法 【第11回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（1） 【第12回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（2） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第3回～授業第12回）を実施する。 「ミクロ経済学特論3」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% 「ミクロ経済学特研3」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特論3」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特研3」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009, 『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0103601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	ミクロ経済学特論4				渡部 真弘			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は博士後期課程「ミクロ経済学特研4」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特論4」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特研4」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特論4」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特研4」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 完全ベイジアン均衡（1） 【第3回】 完全ベイジアン均衡（2） 【第4回】 シグナリング（1） 【第5回】 シグナリング（2） 【第6回】 交互提案交渉（1） 【第7回】 交互提案交渉（2） 【第8回】 交互提案交渉（3） 【第9回】 ナッシュ交渉解（1） 【第10回】 ナッシュ交渉解（2） 【第11回】 シャプレー値、コア（1） 【第12回】 シャプレー値、コア（2） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第3回～授業第12回）を実施する。 「ミクロ経済学特論4」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% 「ミクロ経済学特研4」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特論4」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特研4」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009, 『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0103701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第1期														
科目名	<b>経済統計学特論 1</b>				王 在喆		第1期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	経済統計資料の奥に経済社会の活動の真相が見える。したがって、経済統計資料を読み、統計情報を正しく理解することも経済社会の変化を把握するには欠かせない手段の一つである。本講義では、経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、現実の経済社会の動向を経済統計資料に基づいて分析する方法を明らかにする。したがって、講義では『国民経済計算』(SNA)を用いた国民経済の分析や『産業連関表』に基づいた産業構造の分析などが紹介される。分析の事例としては、日本経済はもとより、中国経済をとりあげることもある。 なお、本講義は修士課程の院生および博士課程の院生のために開設された合同授業である。																						
到達目標	①経済分析の面白さを実感することができる。 ②経済統計資料の重要性を認識することができる。 ③経済社会の変化を分析する基本技法を習得することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	①『日本経済新聞』の社説や経済関係の記事をよく読むこと。 ②Excelなど応用ソフトの操作方法を独学すること。 ③与えられた研究課題を完成するために文献の調査や学習を行うこと。 ④授業の内容を理解するために復習すること。 必要な授業外学修時間は60時間以上である。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 授業の目標と進め方、成績評価の方法、概要、経済統計資料について</td> <td>【第8回】 日本の産業連関表②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 国民経済計算 (SNA) ①</td> <td>【第9回】 Excelによる演習①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 国民経済計算 (SNA) ②</td> <td>【第10回】 Excelによる演習②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 産業連関分析①</td> <td>【第11回】 日本の産業連関表による構造分析①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 産業連関分析②</td> <td>【第12回】 日本の産業連関表による構造分析②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 産業連関分析③</td> <td>【第13回】 授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 日本の産業連関表①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 授業の目標と進め方、成績評価の方法、概要、経済統計資料について	【第8回】 日本の産業連関表②	【第2回】 国民経済計算 (SNA) ①	【第9回】 Excelによる演習①	【第3回】 国民経済計算 (SNA) ②	【第10回】 Excelによる演習②	【第4回】 産業連関分析①	【第11回】 日本の産業連関表による構造分析①	【第5回】 産業連関分析②	【第12回】 日本の産業連関表による構造分析②	【第6回】 産業連関分析③	【第13回】 授業内容のまとめ	【第7回】 日本の産業連関表①	
【第1回】 授業の目標と進め方、成績評価の方法、概要、経済統計資料について	【第8回】 日本の産業連関表②																						
【第2回】 国民経済計算 (SNA) ①	【第9回】 Excelによる演習①																						
【第3回】 国民経済計算 (SNA) ②	【第10回】 Excelによる演習②																						
【第4回】 産業連関分析①	【第11回】 日本の産業連関表による構造分析①																						
【第5回】 産業連関分析②	【第12回】 日本の産業連関表による構造分析②																						
【第6回】 産業連関分析③	【第13回】 授業内容のまとめ																						
【第7回】 日本の産業連関表①																							
成績評価の方法	修士課程受講生：中間レポート：50%、期末レポート50%。 博士課程受講生：中間レポート：30%、期末レポート30%、研究発表（1回）40%。 ※研究発表：授業内発表、授業内容関連のもの。																						
フィードバックの内容	提出レポートや授業内発表などについてコメントする。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『経済統計』中島隆信、木村福成、北村行伸、新保一成（東洋経済新報社）2000、『実証経済分析の基礎』中島隆信、吉岡完治（編）（慶應義塾大学出版会）1997、『人文・社会科学お統計学』東京大学教養学部統計学教室（東京大学出版会）1995																						
教員からのお知らせ	教科書は一回目の授業で受講生と相談して決める。																						
オフィスアワー	2号棟511研究室、木曜日18:00-19:00（6限）																						
アクティブラーニングの内容	この授業では、演習形式で行う場合もあるため、教室では意見共有を重視し、また授業外での能動的な学習も推奨している。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	12C0103801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第2期														
科目名	<b>経済統計学特論 2</b>				王 在喆		第2期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	経済統計資料の奥に経済社会の活動の真相が見える。したがって、経済統計資料を読み、統計情報を正しく理解することも経済社会の変化を把握するには欠かせない手段の一つである。本講義では、経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、現実の経済社会の動向を経済統計資料に基づいて分析する方法を明らかにする。したがって、講義では『国民経済計算』(SNA)を用いた国民経済の分析や『産業連関表』に基づいた産業構造の分析などが紹介される。分析の事例としては、日本経済はもとより、中国経済をとりあげることもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。また、「経済統計学特論 1」もしくは「経済統計学特研 1」履修済みの大学院生の履修が望まれる。																						
到達目標	①経済分析の面白さを実感することができる。 ②経済統計資料の重要性を認識することができる。 ③経済社会の変化を分析する基本技法を習得することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	①『日本経済新聞』の社説や経済関係の記事をよく読むこと。 ②Excelなど応用ソフトの操作方法を独学すること。 ③与えられた研究課題を完成するために文献の調査や学習を行うこと。 ④授業の内容を理解するために復習すること。 必要な授業外学修時間は60時間以上である。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 中国の産業連関表</td> <td>【第8回】 工業統計②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 日本・中国国際産業連関表</td> <td>【第9回】 商業統計①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 日中両国産業構造の比較①</td> <td>【第10回】 商業統計②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 日中両国産業構造の比較②</td> <td>【第11回】 サービス統計①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 一次統計と二次統計</td> <td>【第12回】 サービス統計②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 物価指数とデフレーター</td> <td>【第13回】 授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 工業統計①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 中国の産業連関表	【第8回】 工業統計②	【第2回】 日本・中国国際産業連関表	【第9回】 商業統計①	【第3回】 日中両国産業構造の比較①	【第10回】 商業統計②	【第4回】 日中両国産業構造の比較②	【第11回】 サービス統計①	【第5回】 一次統計と二次統計	【第12回】 サービス統計②	【第6回】 物価指数とデフレーター	【第13回】 授業内容のまとめ	【第7回】 工業統計①	
【第1回】 中国の産業連関表	【第8回】 工業統計②																						
【第2回】 日本・中国国際産業連関表	【第9回】 商業統計①																						
【第3回】 日中両国産業構造の比較①	【第10回】 商業統計②																						
【第4回】 日中両国産業構造の比較②	【第11回】 サービス統計①																						
【第5回】 一次統計と二次統計	【第12回】 サービス統計②																						
【第6回】 物価指数とデフレーター	【第13回】 授業内容のまとめ																						
【第7回】 工業統計①																							
成績評価の方法	修士課程受講生：中間レポート：50%、期末レポート50%。 博士課程受講生：中間レポート：30%、期末レポート30%、研究発表（1回）40%。 ※研究発表：授業内発表、授業内容関連のもの。																						
フィードバックの内容	提出レポートや授業内発表について教員はコメントをする。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『経済統計』中島隆信、木村福成、北村行伸、新保一成（東洋経済新報社）2000、『実証経済分析の基礎』中島隆信、吉岡完治（編）（慶應義塾大学出版会）1997、『人文・社会科学お統計学』東京大学教養学部統計学教室（東京大学出版会）1995																						
教員からのお知らせ	教科書は一回目授業の時に受講生と相談して決める。																						
オフィスアワー	2号館511研究室、木曜日18:00-19:00（6限）																						
アクティブラーニングの内容	この授業では、演習形式で行う場合もあるため、教室では意見共有を重視し、また授業外での能動的な学習も推奨している。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	12C0104301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	景気循環論特論3				浅子 和美		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	<p>ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。</p> <p>なお、本講義は博士後期課程「景気循環論特研3」との合同授業でもある。</p>						
到達目標	<p>「景気循環論特論3」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。</p> <p>「景気循環論特研3」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。</p>						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論3」では60時間、「景気循環論特研3」では90時間）。</p>						
授業計画	<p>【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1)</p> <p>【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2)</p> <p>【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1)</p> <p>【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2)</p> <p>【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3)</p> <p>【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4)</p> <p>【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5)</p> <p>【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6)</p> <p>【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7)</p> <p>【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8)</p> <p>【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9)</p> <p>【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)</p> <p>【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)</p>						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対するレポート提出（70%）。						
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	12C0104401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	景気循環論特論4								
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 なお、本講義は博士後期課程「景気循環論特研4」との合同授業でもある。								
到達目標	「景気循環論特論4」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。 「景気循環論特研4」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論4」では60時間、「景気循環論特研4」では90時間）。								
授業計画	【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1) 【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2) 【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1) 【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2) 【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3) 【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4) 【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5) 【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6) 【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7) 【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8) 【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9) 【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10) 【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対するレポート提出(70%)								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0104701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	<b>金融論特論3</b>				林 康史		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run (6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。 なお、日本語訳は、2025年に出版予定である。 ※ この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。						
到達目標	株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。						
授業計画	Stocks for the Long Run (6th edition) の前半を講読する。 【第1回】 第1章 【第2回】 第2章 【第3回】 第3章 【第4回】 第4章 【第5回】 第5章 【第6回】 第6章 【第7回】 第7章 【第8回】 第8章 【第9回】 第9章 【第10回】 第10章 【第11回】 第11章 【第12回】 第12章 【第13回】 第13章、総括						
成績評価の方法	報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定）（100%）。						
フィードバックの内容	随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする）。						
教科書	『Stocks for the Long Run (6th edition)』Jeremy J. Siegel (McGraw Hill) 2022年、『株式投資 第6版』J. シーゲル（日経BP社）2025年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する）。参考文献は、適宜、授業時に配布する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 一部、反転授業も行う（第1回に説明する。事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	12C0104801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	<b>金融論特論4</b>				林 康史		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run (6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。 なお、日本語訳は、2025年に出版予定である。 ※ この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。						
到達目標	株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。						
授業計画	Stocks for the Long Run (6th edition) の後半を講読する。 【第1回】 第14章 【第2回】 第15章 【第3回】 第16章、第17章 【第4回】 第18章 【第5回】 第19章 【第6回】 第20章 【第7回】 第21章 【第8回】 第22章 【第9回】 第23章 【第10回】 第24章 【第11回】 第25章 【第12回】 第26章 【第13回】 第27章、第28章、総括						
成績評価の方法	報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定）（100%）。						
フィードバックの内容	随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする）。						
教科書	『Stocks for the Long Run (6th edition)』Jeremy J. Siegel (McGraw Hill) 2022年、『株式投資 第6版』J. シーゲル（日経BP社）2025年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する）。参考文献は、適宜、授業時に配布する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 一部、反転授業も行う（第1回に説明する。事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい。						
実践的な教育内容							
その他							



講義コード	12C0104901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	川口 真一	開講期	第1期
科目名	<b>財政学特論1</b>				川口 真一		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	租税に関する研究は、学問的には財政学（経済学）にとどまらず、税法（法学）、税務会計（会計学）などの分野とも関連している。すべての学問分野を考慮して租税を分析することが理想的ではあるが、それは非常に困難である。したがって、本講義では、租税に対する経済学的思考を身につけ、財政学の立場から現実の税制を理論的に評価できるようになることを目的とする。 なお、本講義は博士後期課程「財政学特研1」との合同授業でもある。								
到達目標	租税理論を学ぶことにより、現実の税制を分析・評価することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	ミクロ経済学の基礎を理解しておくこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 租税理論を修得する。(1) 【第2回】 租税理論を修得する。(2) 【第3回】 租税理論を修得する。(3) 【第4回】 租税理論を修得する。(4) 【第5回】 租税理論を修得する。(5) 【第6回】 租税理論を修得する。(6) 【第7回】 租税理論を修得する。(7) 【第8回】 租税理論を修得する。(8) 【第9回】 租税理論を修得する。(9) 【第10回】 租税理論を修得する。(10) 【第11回】 租税に関する論文を輪読する。(1) 【第12回】 租税に関する論文を輪読する。(2) 【第13回】 租税に関する論文を輪読する。(3)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）および授業中の発表（50%）で評価する								
フィードバックの内容									
教科書	『財政学をつかむ [第3版]』畑農鋭矢, 林正義, 吉田浩 (有斐閣) 2024.3								
指定図書	授業時に指示する。								
参考書	授業時に指示する。								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0105001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	川口 真一	開講期	第2期
科目名	<b>財政学特論2</b>				川口 真一		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	租税に関する研究は、学問的には財政学（経済学）にとどまらず、税法（法学）、税務会計（会計学）などの分野とも関連している。すべての学問分野を考慮して租税を分析することが理想的ではあるが、それは非常に困難である。したがって、本講義では、租税に対する経済学的思考を身につけ、財政学の立場から現実の税制を理論的に評価できるようになることを目的とする。 なお、本講義は博士後期課程「財政学特研2」との合同授業でもある。								
到達目標	租税理論を学ぶことにより、現実の税制を分析・評価することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	ミクロ経済学の基礎を理解しておくこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 租税に関する論文を輪読する。(1) 【第2回】 租税に関する論文を輪読する。(2) 【第3回】 租税に関する論文を輪読する。(3) 【第4回】 租税に関する論文を輪読する。(4) 【第5回】 租税に関する論文を輪読する。(5) 【第6回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(1) 【第7回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(2) 【第8回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(3) 【第9回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(4) 【第10回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(5) 【第11回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(6) 【第12回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(7) 【第13回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(8)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）および授業中の発表（50%）で評価する								
フィードバックの内容									
教科書	『財政学をつかむ [第3版]』畑農鋭矢, 林正義, 吉田浩 (有斐閣) 2024.3								
指定図書	授業時に指示する。								
参考書	授業時に指示する。								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0105301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第1期
科目名	国際経済学特論1					河原 伸哉		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論1」と博士後期課程「国際経済学特研1」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。文献リストについても、初回授業時に配付する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0105401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第2期
科目名	国際経済学特論2					河原 伸哉		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論2」と博士後期課程「国際経済学特研2」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、教科書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、教科書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。文献リストについても、初回授業時に配付する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0105701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	畠山 久志	開講期	第1期
科目名	<b>国際金融論特論1</b>				畠山 久志		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、授業はこれまでの基礎的な事項の確認と現代の国際金融が動いている背景を歴史的に捉えようとするものである。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研3」との合同授業である。								
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な金融に係る基礎事項を歴史から習得し①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを把握し、今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。必要な教科書以外の図書はその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。								
授業計画	国際金融の理解に必要な事項について学びます。 【第1回】国際金融とは何か。 【第2回】国際収支1 【第3回】国際収支2 【第4回】対外決済の仕組み1 貿易 【第5回】対外決済の仕組み2 先物 【第6回】外国為替市場1 基軸通貨 【第7回】外国為替市場2 【第8回】外国為替相場の決定理論1 購買力平価 【第9回】外国為替相場の決定理論2 【第10回】国際通貨制度 プレトンウッズ体制 IMF 世銀 【第11回】ニクソンショック後(変動相場制)における経済政策の効果 【第12回】デジタル時代の国際通貨 【第13回】通貨危機、ソブリンリスク								
成績評価の方法	講義内容に関する期末レポート(80%)、質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。								
フィードバックの内容	講義内容は、事前にオンライン授業に資料掲示します。また質問や意見、追加説明などは、まとめて期末にペーパー化し、共有します。								
教科書	『国際金融論入門』佐々木百合(新世社)2017								
指定図書	『金融の世界現代史』国際銀行史研究会(一色出版)2018、『金融の世界史』板谷俊彦(新潮社)2013、『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト(フォレスト出版)2010、『ロンバート街』バジョウット(岩波書店)1994								
参考書	『通貨の悪戯』ミルトンフリードマン(三田出版会)1993、『貨幣と通貨の法文化』林康史(国際書院)2016								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	項目ごとの解説・プレゼンテーションに基づき、内容、考え方、分析方法等についてディスカッションをする。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0105801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	畠山 久志	開講期	第2期
科目名	<b>国際金融論特論2</b>				畠山 久志		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、本授業は前期の学習(国際金融の基礎知識)を前提にこれまでの国際金融上のイベントについて、論理的な分析力を習得し、歴史的な位置付け等について理解を深める。イベントは基本的に近世、近代の貿易を中心とした国際金融上の事象である。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研4」との合同授業である。								
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な基礎事項である①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを市場参加者の視点から把握し、国際金融全体の課題を考え今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。教科書は当然であるが、以外の図書をその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。								
授業計画	【第1回】国際金融論の論理とイベント 概説 【第2回】中世の国際金融1 キリスト教 金融の否定 【第3回】中世の国際金融2 地中海交易と冒険貸借 【第4回】中世の国際金融3 イスラム金融 【第5回】中世の国際金融 十字軍 為替と信託 【第6回】中世の国際金融 会社と複式簿記 【第7回】大航海時代の国際貿易 新大陸への進出 【第8回】黄金期のオランダ1 東インド会社、西インド会社 【第9回】黄金期のオランダ2 アムステルダム証券取引所とアムステルダム為替銀行 【第10回】産業革命期のイギリスとフランス 重商主義 重農主義 公会計 【第11回】覇権国イギリス1 株式会社制度の法定 中央銀行制度の確立 【第12回】覇権国イギリス2 損害保険会社、ロンバート街 【第13回】債権国アメリカ ウォールストリート								
成績評価の方法	期末レポート(80%)と質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。								
フィードバックの内容	授業の内容を事前にオンライン授業で掲示します。また質問や意見、追加説明などはまとめて期末にペーパー化し、共有します。								
教科書	『帳簿の世界史』ジェイコブソール(文藝春秋)2018								
指定図書	『マネーセンターの興亡』高橋琢磨(日経出版社)1999、『ヘゲモニー国家と世界システム』松田武・秋田茂(山川出版)2002、『最初の近代経済』J・ド・フリース(名古屋大学出版会)2009								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義の内容について、質問、意見交換等、ディスカッションをします。修士論文等の作成手順などの情報交換をする。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0105901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	第1期
科目名	<b>国際金融論特論3</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究3」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第13回】 まとめ 【第7回】 教科書の発表と討論6								
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト 国際金融論 第3版』藤井 英次 (著) (新世社) 2024、『International Macroeconomics and Finance : Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0106001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	第2期
科目名	<b>国際金融論特論4</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究4」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第13回】 まとめ 【第7回】 教科書の発表と討論6								
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト 国際金融論 第3版』藤井 英次 (著) (新世社) 2024、『International Macroeconomics and Finance : Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0106101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第1期														
科目名	<b>地域経済特論1</b>				苑 志佳		第1期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	本講義では、中国経済構造の転換を研究する。過去40数年間を通して、中国は高い経済成長を実現し続け、いまや世界第2位の経済大国に躍り出るなど、世界経済へのプレゼンスが高まる一方である。他方、2010年代以降、中国経済の高度成長が終わり、今後は成長の質に着目した内需重視の安定成長への実現を模索している段階に入っている。体制・経済移行期にあたる中国は現在、「中所得の罅」や「体制移行の罅」を如何に回避するかの諸課題に直面している。これらの問題の克服は、避けて通れない難問である。中国経済は今後、どの方向に向かうか。今後の世界経済における中国の果たすべき役割は何であろうか。今年度の授業では、最新の著書を輪読することによって上記の諸問題を院生諸君と一緒に考える。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしたい。																						
到達目標	本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 イントロダクション</td> <td>【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)</td> <td>【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)</td> <td>【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)</td> <td>【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)</td> <td>【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)</td> <td>【第13回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 イントロダクション	【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)	【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)	【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)	【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)	【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)	【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)	【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)	【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)	【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)	【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)	【第13回】 総括	【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)	
【第1回】 イントロダクション	【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)																						
【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)	【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)																						
【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)	【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)																						
【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)	【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)																						
【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)	【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)																						
【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)	【第13回】 総括																						
【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)																							
成績評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢 50%、 2. プレゼンテーション30%、 3. 討論参加20%。																						
フィードバックの内容	毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。																						
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	12C0106201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期														
科目名	<b>地域経済特論2</b>				苑 志佳		第2期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	本講義では、中国経済構造の転換を研究する。今年度の授業では、「地域経済特論1」に続き、数冊の著書を輪読する。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしたい。																						
到達目標	本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 イントロダクション</td> <td>【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)</td> <td>【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)</td> <td>【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)</td> <td>【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)</td> <td>【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)</td> <td>【第13回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 イントロダクション	【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)	【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)	【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)	【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)	【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)	【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)	【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)	【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)	【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)	【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)	【第13回】 総括	【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)	
【第1回】 イントロダクション	【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)																						
【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)	【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)																						
【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)	【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)																						
【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)	【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)																						
【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)	【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)																						
【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)	【第13回】 総括																						
【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)																							
成績評価の方法	1. 授業への取り組み姿勢 50%、 2. プレゼンテーション30%、 3. 討論参加20%。																						
フィードバックの内容	毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。																						
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	12C0106701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	第1期
科目名	開発経済学特論3				芹田 浩司		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>本授業は、前期においてはラテンアメリカ経済に関する主要文献を解説を加えつつ講読することや、等を通じてまた、(受講人数にもよるが)隔週位のペースでレポートを提出してもらい、それを基に議論を深めること等を通じて同経済の理解をより深めることを目的とする。</p> <p>また後期においては、前期からの文献講読に加えて、80年代以降に開発戦略の転換やその意義、また経済グローバル化のラテンアメリカ経済(産業)に対する影響等の問題について考察を進めていくことを主な目的とする。</p> <p>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。</p>								
到達目標	ラテンアメリカを中心とする発展途上国経済や、発展途上国と先進国との関係について深く学ぶことを通じて、世界経済に関する知見を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの該当箇所を読み、分からないところがあれば調べてくること。またレポート課題がある時は、提出期限までにレポートを作成・提出すること。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	<p>【第1回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(1)</p> <p>【第2回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(2)</p> <p>【第3回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(3)</p> <p>【第4回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(4)</p> <p>【第5回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(5)</p> <p>【第6回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(6)</p> <p>【第7回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(7)</p> <p>【第8回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(8)</p> <p>【第9回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(9)</p> <p>【第10回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(10)</p> <p>【第11回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(11)</p> <p>【第12回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(12)</p> <p>【第13回】総復習・質問受け付け等</p>								
成績評価の方法	原則として授業への取り組み姿勢(20%)、報告・討論(40%)および課題(レポート等)(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告に対する講評を随時実施する。また課題に対するアドバイスを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『The Economic History of Latin America Since Independence』Victor Bulmer-Thomas(Cambridge University Press)2003								
教員からのお知らせ	授業中に講読する文献(テキスト)については開講時に指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 教員からのフィードバックによる振り返り</li> <li>- 能動的な授業外学習</li> <li>- ディベート</li> </ul>								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0106801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	第2期
科目名	開発経済学特論4				芹田 浩司		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>本授業は、前期においてはラテンアメリカ経済に関する主要文献を解説を加えつつ講読することや、等を通じてまた、(受講人数にもよるが)隔週位のペースでレポートを提出してもらい、それを基に議論を深めること等を通じて同経済の理解をより深めることを目的とする。</p> <p>また後期においては、前期からの文献講読に加えて、80年代以降に開発戦略の転換やその意義、また経済グローバル化のラテンアメリカ経済(産業)に対する影響等の問題について考察を進めていくことを主な目的とする。</p> <p>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。</p>								
到達目標	ラテンアメリカを中心とする発展途上国経済や、発展途上国と先進国との関係について深く学ぶことを通じて、世界経済に関する知見を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの該当箇所を読み、分からないところがあれば調べてくること。またレポート課題がある時は、提出期限までにレポートを作成・提出すること。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	<p>【第1回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(1)</p> <p>【第2回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(2)</p> <p>【第3回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(3)</p> <p>【第4回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(4)</p> <p>【第5回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(5)</p> <p>【第6回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(6)</p> <p>【第7回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(7)</p> <p>【第8回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(8)</p> <p>【第9回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(9)</p> <p>【第10回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(10)</p> <p>【第11回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(11)</p> <p>【第12回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(12)</p> <p>【第13回】総復習・質問の受付等</p>								
成績評価の方法	原則として授業への取り組み姿勢(20%)、報告・討論(40%)および課題(レポート等)(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告に対する講評を随時実施する。また課題に対するアドバイスを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『The Economic History of Latin America Since Independence』Victor Bulmer-Thomas(Cambridge University Press)2003								
教員からのお知らせ	授業中に講読する文献(テキスト)については開講時に指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 教員からのフィードバックによる振り返り</li> <li>- 能動的な授業外学習</li> <li>- ディベート</li> </ul>								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0106901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第1期
科目名	経済学史特論Ⅰ								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の中頃までの経済学の歴史をめぐる、履修者による報告と議論に基づいて教科書を輪読する。 なおこの授業は、博士後期課程「経済学史特研Ⅰ」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が教科書の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや教科書・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】19世紀の中頃までの経済学の歴史</p> <p>【第2回】木村・瀬尾・益永(2022)①—A. スミス以前の経済思想(第1章)</p> <p>【第3回】木村・瀬尾・益永(2022)②—A. スミス(第2章)</p> <p>【第4回】木村・瀬尾・益永(2022)③—D. リカードウとT. R. マルサス(第3章)</p> <p>【第5回】木村・瀬尾・益永(2022)④—J. S. ミル(第4章)</p> <p>【第6回】木村・瀬尾・益永(2022)⑤—ヨーロッパ大陸の諸思想(第5章)</p> <p>【第7回】木村・瀬尾・益永(2022)⑥—なぜ異端派経済学が必要なのか(第11章)</p> <p>【第8回】木村・瀬尾・益永(2022)⑦—K. マルクス(第12章)</p> <p>【第9回】三土(1993)①—経済学史を学ぶにあたって(第1章)</p> <p>【第10回】三土(1993)②—古典派以前の経済学(第2章)</p> <p>【第11回】三土(1993)③—A. スミスの経済学(第3章)</p> <p>【第12回】三土(1993)④—D. リカードウの経済学(第4章)</p> <p>【第13回】三土(1993)⑤—K. マルクスの経済学(第5章)</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告(50%)と、議論を含む授業への取り組み姿勢(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『学ぶほどおもしろい経済学史』木村雄一、瀬尾崇、益永淳著(晃洋書房)2022、『経済学史』三土修平著(新世社)1993								
指定図書	『経済学史』小峯敦著(ミネルヴァ書房)2021、『経済学史——経済理論誕生の経緯をたどる』野原慎司、沖公祐、高見典和著(日本評論社)2019、『経済学史への招待』柳沢哲哉著(社会評論社)2018、『経済思想』猪木武徳著(岩波書店)2017、『経済学史』喜多見洋、水田健編著(ミネルヴァ書房)2012、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎編(名古屋大学出版会)2006、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』中村達也、八木紀一郎、新村聡、井上義朗著(有斐閣)2001、『経済学史』馬渡尚憲著(有斐閣)1997、『若い読者のための経済学史』ナイアル・キシテイニー著;月沢李歌子訳(すばる舎)2018、『入門経済思想史 世俗的思想家たち』ロバート・L. ハイルブローナー著;八木甫[ほか]訳(筑摩書房)2001								
参考書	『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L. ハイルブローナー著;中村達也[ほか]訳(筑摩書房)2003、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ著;松尾恭子訳(原書房)2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄、荒憲治郎、森口親司編(有斐閣)2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0107001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第2期
科目名	経済学史特論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の中頃までの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて古典を輪読する。 なおこの授業は、博士後期課程「経済学史特研2」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が古典の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや古典・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】19世紀の中頃までの経済学の歴史と、A. スミスの学問体系および経済学</p> <p>【第2回】スミスの『国富論』①——序論および本書の構想</p> <p>【第3回】スミスの『国富論』②——第1編（前半）</p> <p>【第4回】スミスの『国富論』③——第1編（中間）</p> <p>【第5回】スミスの『国富論』④——第1編（後半）</p> <p>【第6回】スミスの『国富論』⑤——第2編（前半）</p> <p>【第7回】スミスの『国富論』⑥——第2編（後半）</p> <p>【第8回】スミスの『国富論』⑦——第3編（前半）</p> <p>【第9回】スミスの『国富論』⑧——第3編（後半）</p> <p>【第10回】スミスの『国富論』⑨——第4編（前半）</p> <p>【第11回】スミスの『国富論』⑩——第4編（後半）</p> <p>【第12回】スミスの『国富論』⑪——第5編（前半）</p> <p>【第13回】スミスの『国富論』⑫——第5編（後半）</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告（50%）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『国富論Ⅰ』アダム・スミス 著；大河内一男 監訳（中央公論新社）2020、『国富論Ⅱ』アダム・スミス 著；大河内一男 監訳（中央公論新社）2020、『国富論Ⅲ』アダム・スミス 著；大河内一男 監訳（中央公論新社）2020								
指定図書	『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一、瀬尾崇、益永淳 著（見洋書房）2022、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L. ハイルブローナー 著；中村達也 [ほか] 訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader (Second Edition)』Steven G Medema, Warren J. Samuels (eds.) (Routledge) 2013、『アダム・スミス——『道徳感情論』と『国富論』の世界』堂目卓生 著（中央公論新社）2008、『アダム・スミス——自由主義とは何か』水田洋 著（講談社）1997、『アダム・スミスの生涯と著作』デューゴールド・ステュアート 著；福鎌忠恕 訳（御茶の水書房）1984								
参考書	『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄、荒憲治郎、森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								
実践的な教育内容									
その他									



講義コード	12C0107301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第1期
科目名	日本経済論特論1				村田 啓子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は博士後期課程の「日本経済特研1」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディングリストを事前に読み、理解する。自身の学習・研究目的も踏まえ予習・復習を行う。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・国民経済計算からみた日本経済 【第2回】 文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	輪読、討論などの内容について講義内で講評・解説を行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『日本経済のマクロ分析』 鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子 (日本経済新聞出版社) 2019年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0107401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第2期
科目名	日本経済論特論2				村田 啓子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は博士後期課程の「日本経済特研2」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各自がテーマを選定し、自身の学習・研究を進め発表の準備を行う。発表後は得た質問、討議なども踏まえ自らの理解を適宜修正・発展させる。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第2回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	学生が選定したテーマやそれに関するリーディングリスト等を配布するほか、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『日本経済のマクロ分析』 鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子 (日本経済新聞出版社) 2019年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0107701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学特論 1				戎野 淑子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	受講生の研究テーマに基づき、内容を検討したい。具体的な授業については、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にし ながら、議論を行う。 なお、本講義は、大学院博士後期課程「労働経済学特研1」との合同である。								
到達目標	「労働経済学特論1」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。 「労働経済学特研1」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	「労働経済学特論3」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする) 「労働経済特研3」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	<p>【第1回】興味のあるテーマ等について相談し、輪読するテキストや論文を決める。</p> <p>【第2回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第3回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第4回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第5回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第6回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第7回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第8回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第9回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第10回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第11回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第12回】順次テキストあるいは論文を輪読し発表を行う。</p> <p>【第13回】まとめ</p>								
成績評価の方法	レポート50%、授業での発表・討論50%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『Employment Relations』Ed Rose (Printice Hall) 2008、『雇用システム論』佐口和郎(有斐閣)2018								
指定図書	『労働経済白書』厚生労働省(日経印刷株式会社)2023年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回課題を行い、次週にそのフィードバックを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0107801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	第2期
科目名	労働経済学特論2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	受講生と相談し、興味関心あるテーマを選びたい。ただ、まず、広く雇用問題に焦点をあて、文献研究を行い、特に、日本の雇用関係の変容について、歴史的な比較分析とともに国際比較を行う。そして、その中で、具体的テーマを絞っていく予定である。授業の進め方は、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしなが、議論を行う。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	「労働経済学特論2」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。 「労働経済学特研2」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「労働経済学特論2」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする) 「労働経済学特研2」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	<p>【第1回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(1)</p> <p>【第2回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(2)</p> <p>【第3回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(3)</p> <p>【第4回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(4)</p> <p>【第5回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(5)</p> <p>【第6回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(6)</p> <p>【第7回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(7)</p> <p>【第8回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(8)</p> <p>【第9回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(9)</p> <p>【第10回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(10)</p> <p>【第11回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(11)</p> <p>【第12回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(12)</p> <p>【第13回】 まとめ</p>								
成績評価の方法	レポート70%、授業での発表・討論30%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『人的資本管理の力』白木三秀編著（文真堂）2018年、『Employment Relations』Ed Rose（Printice Hall）2008								
指定図書	『雇用システム論』佐口和郎（有斐閣）2018年								
参考書	『労働経済白書』厚生労働省（日経印刷）2024年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回課題を行い、次週にそのフィードバックを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0108101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第1期
科目名	計量経済学特論1				宮川 幸三		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>本科目では、計量経済学の基礎的な手法を取り上げながら、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の基礎的な手法を習得することを目的とする。具体的には、回帰分析の手法を中心にとりあげ、講義だけでなく、Excel、R、Stataといった統計解析用ソフトウェアを用いたパソコン演習も行う。</p> <p>なお本科目は、博士後期課程「計量経済学特研1」との合同授業である。</p>								
到達目標	<p>回帰分析の基礎的な手法を理解し説明できる。</p> <p>統計解析用ソフトウェアを用いて基礎的な分析を行うことができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p> <p>授業外学修では、授業の内容を理解するために予習・復習をすること。</p> <p>また Excel の操作方法について独学すること。</p>								
授業計画	<p>【第1回】本講義の目的と概要</p> <p>【第2回】計量経済学とは</p> <p>【第3回】古典的2変数回帰モデル</p> <p>【第4回】K変数回帰モデル(1)</p> <p>【第5回】K変数回帰モデル(2)</p> <p>【第6回】古典的K変数回帰モデル(1)</p> <p>【第7回】古典的K変数回帰モデル(2)</p> <p>【第8回】K変数回帰モデルの応用(1)</p> <p>【第9回】K変数回帰モデルの応用(2)</p> <p>【第10回】モデルの定式化(1)</p> <p>【第11回】モデルの定式化(2)</p> <p>【第12回】多重共線性(1)</p> <p>【第13回】多重共線性(2)</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(50%)、授業中に課された課題およびレポートの内容(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書	『計量経済学(第2版)』浅野 哲、中村 二郎(有斐閣)2009年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学部レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0108201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第2期
科目名	計量経済学特論2				宮川 幸三		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>本科目では、計量経済学の基礎的な手法を取り上げながら、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の基礎的な手法を習得することを目的とする。具体的には、計量経済学特論1で学んだ内容を前提としながら、より進んだ分析手法を学ぶとともに、様々な計量分析の事例を紹介する。</p> <p>なお本科目は博士後期課程「計量経済学特研2」との合同授業である。</p>								
到達目標	<p>様々な応用分析の手法を理解し説明できる。</p> <p>適切な手法を用いて実証分析を行うことができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p> <p>授業外学修では、授業の内容を理解するために予習・復習をすること。</p> <p>また Excel の操作方法について独学すること。</p>								
授業計画	<p>【第1回】本講義の目的と概要</p> <p>【第2回】一般化古典的回帰モデル(1)</p> <p>【第3回】一般化古典的回帰モデル(2)</p> <p>【第4回】説明変数と攪乱項の相関(1)</p> <p>【第5回】説明変数と攪乱項の相関(2)</p> <p>【第6回】最尤法(1)</p> <p>【第7回】最尤法(2)</p> <p>【第8回】質的従属変数(1)</p> <p>【第9回】質的従属変数(2)</p> <p>【第10回】切断された従属変数</p> <p>【第11回】パネルデータ分析(1)</p> <p>【第12回】パネルデータ分析(2)</p> <p>【第13回】まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(50%)、授業中に課された課題およびレポートの内容(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書	『計量経済学(第2版)』浅野 哲、中村 二郎(有斐閣)2009年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学部レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識と計量経済学特論1の内容を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0108901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史特論1				高橋 美由紀		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本経済の歴史を学ぶ。この授業では、古代から19世紀までを取り扱い、教科書を一緒に音読しながら考えていく。ただし、履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	日本経済の歴史（古代から近代の19世紀まで）について多面的な視点から論述できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。 (計65時間)								
授業計画	教科書 第I部および第II部 【第1回】日本経済の歴史をどのような視点で見ると 【第2回】宗教を基底に置く社会の「市場経済」 【第3回】古代の日本経済：中国文明と日本の初期農耕社会～ 【第4回】古代の日本経済：産業構成と社会編成～ 【第5回】中世の日本経済：対中貿易と東アジア経済～ 【第6回】中世の日本経済：都市工業の成長と商人仲間～ 【第7回】17世紀の日本経済：身分的制約の下での「市場経済」～ 【第8回】17世紀の日本経済：近世商人の有情と幕藩制の全国市場の成立～ 【第9回】18世紀の日本経済：「日本型華夷秩序」意識と東アジア経済～ 【第10回】18世紀の日本経済：手工業技術の伝播と特産物生産の進展～ 【第11回】18世紀の日本経済：家族小経営と村落共同体～ 【第12回】19世紀の日本経済：「開国」と自由貿易世界 【第13回】19世紀の日本経済：銀貨低落と経済施策								
成績評価の方法	講義における報告（60%）、授業態度（40%）。								
フィードバックの内容	講義内で質問を確認し回答する。また、提出物がある場合は翌週に返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡（名古屋大学出版会）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合があります。Microsoft TeamsでTeamを作るので、ポータルサイトで案内するTeamコードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書は新年度に改定になる可能性があるため、教員からの連絡を待って購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールやチャットにても受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業内で自分の意見を述べることを毎回行っている。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0109001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第2期
科目名	日本経済史特論2				高橋 美由紀		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	19世紀から1960年頃までの日本経済の歴史を中心に学ぶ。また、履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	19世紀以降から1960年頃までの日本経済の歴史について具体的に論述できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書の該当部分を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。 (計65時間)								
授業計画	教科書『日本経済の歴史』第III部第6章および第7章を扱う  【第1回】商法の制定と金本位制 【第2回】国際収支の天井と経済政策 【第3回】産業革命と工業化 【第4回】地主制の展開と植民地農業 【第5回】交通網の変容と商品流通 【第6回】都市化と生活環境 【第7回】産業革命研究の新展開  【第8回】ジェンダー・労働市場研究の新展開 【第9回】モダニズムと大衆消費社会 【第10回】ブロック経済から金本位制へ 【第11回】高橋財政から戦後経済政策へ 【第12回】「内需」主導の重化学工業化 【第13回】地主制の後退と戦後農政  各授業では関係する著作等について一緒に輪読をおこなう。								
成績評価の方法	講義における報告（60%）、授業態度（40%）。								
フィードバックの内容	毎回の講義で質疑応答をおこなう。また、提出物を課した場合には翌週に添削をして返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡（名古屋大学出版会）2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合があります。Microsoft TeamsでTeamを作るので、ポータルサイトで案内するTeamコードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書は新年度に改定になる可能性があるため、教員からの連絡を待って購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールおよびチャット等で随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	毎回の授業においては自己の考えを述べてもらっている。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0109301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	西洋経済史特論Ⅰ				平 伊佐雄		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	本特論は、ヨーロッパ中世の商業活動の実態を学ぶことによって、前近代における経済活動の歴史の外殻をその一端であれ捉えることを目的とする。						
到達目標	中世ヨーロッパにおける商業活動（仕組みやネットワーク性）が現在の商業活動とどのように関連しているのか、また、その理論的な要素を歴史の中から見いだし説明できるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	事前事後学修に合計60時間以上が必要である。 授業外学修では、本講義の内容の復習、次回内容の予習を行うこと。						
授業計画	【第1回】 Power and Profit, 1. The Commercial Revolution of the 13th Century の解説 【第2回】 Power and Profit, 1. The Merchant の解説 【第3回】 Power and Profit, 1. Merchant abroad の解説 【第4回】 Power and Profit, 1. Trading Companies の解説 1 【第5回】 Power and Profit, 1. Trading Companies の解説 2 【第6回】 Power and Profit, 1. Commercial Correspondence の解説 【第7回】 Power and Profit, 1. Couriers の解説 【第8回】 Power and Profit, 1. Bookkeeping の解説 【第9回】 Power and Profit, 1. Literacy and arithmetic の解説 【第10回】 Power and Profit, 1. Insurance の解説 【第11回】 Power and Profit, 1. International Banking の解説 【第12回】 Power and Profit, 1. Local Banking の解説 【第13回】 Power and Profit, 1. Usura の解説						
成績評価の方法	講義中のレポートにて評価する（100％）。						
フィードバックの内容	講義中の疑問点や学生の講義内容レポートに対して、次回以降の講義で講評を加える。						
教科書	『Power and Profit. The Merchant in Medieval Europe』 P.Spufford (Thames & Hudson) 2002、『The Cambridge Economic History, II-V』 M.M.Postan (Cambridge) 1987、『Deutsche Rechtsgeschichte』 U. Eisenhardt (Beck) 2004、『Handbuch der Wirtschafts- und Sozialgeschichte』 F.W.Henning (Schoenigh) 1991、『The New Cambridge Medieval History V&VI』 D.Abulafia,M.Jones (Cambridge) 1999-2000、『A History of Business in Medieval Europe, 1200-1550』 E.Hunt, J. Murray (Cambridge) 1999、『An Economic and Social History of Later Medieval Europe, 1000-1500』 Steven.A.Epstein (Cambridge) 2009、『Why the Middle Ages Matter: Medieval Light on Modern Injustice.』 C.Chazelle,S.Doubleday, F.Lifshitz (Routledge) 2012						
指定図書	『西洋中世史事典Ⅰ』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）1997、『西洋中世史事典Ⅱ』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）2005、『ドイツ法制史概説 改訂版』 ミッタイス・リーベリッヒ（創文社）1971、『概説西洋法制史』 勝田編（ミネルヴァ書房）2004、『フランス法制史概説』 マルタン（創文社）1986、『イングランド法制史概説』 ベイカー（創文社）1975、『中世の商業革命』 ロベス（法政大学出版局）2007						
参考書							
教員からのお知らせ	適切な訳語や概念、その意味などは講義中に解説するが、受講者は、各自、日本語訳をあらかじめ授業外で行い、質問事項を用意しておくことが望ましい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	受講生側でこちらから提供した課題についての反転授業や講義内容についての意見共有を行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	12C0109401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	西洋経済史特論2				平 伊佐雄		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本特論は、ヨーロッパ中世の商業活動の実態を学ぶことによって、前近代における経済活動の歴史の外殻をその一端であれ捉えることを目的とする。								
到達目標	中世ヨーロッパにおける商業活動（仕組みやネットワーク性）が現在の商業活動とどのように関連しているのか、また、その理論的な要素を歴史の中から見いだし説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	期間を通じて事前事後学修の学修時間として、合計60時間以上、取り組むことが必要である。 少なくとも本講義の内容の復習、次回内容の予習を行うことが望ましい。								
授業計画	【第1回】 Power and Profit, 1. ヨーロッパとヨーロッパの外側について 【第2回】 Power and Profit, 1. Staple and Staple Towns の解説 【第3回】 Power and Profit, 1. Fairs の解説 【第4回】 Power and Profit, 1. Exchange の解説 【第5回】 Power and Profit, 1. Bussiness Careers の解説 【第6回】 Power and Profit, 1. Capial and Marchants の解説 【第7回】 Power and Profit, 1. Money の解説 【第8回】 Power and Profit, 1. Money Supply の解説 【第9回】 Power and Profit, 1. Social and Economic Change の解説 【第10回】 Power and Profit, 2. Rulers and Courts の解説 【第11回】 Power and Profit, 2. Court Cities の解説 【第12回】 Power and Profit, 2. Court Cities の解説 【第13回】 Power and Profit, 2. Trade in Luxuries の解説								
成績評価の方法	講義中のレポートにて評価する（100%）。								
フィードバックの内容	講義中の疑問点や学生の講義内容レポートに対して、次回以降の講義で講評を加える。								
教科書	『Power and Profit. The Merchant in Medieval Europe』 P.Spufford (Thames & Hudson) 2002、『The Cambridge Economic History, II-V』 M.M.Postan (Cambridge) 1987、『Deutsche Rechtsgeschichte』 U. Eisenhardt (Beck) 2004、『Handbuch der Wirtschafts- und Sozialgeschichte』 F.W.Henning (Schoenigh) 1991、『The New Cambridge Medieval History V&VI』 D.Abulafia,M.Jones (Cambridge) 1999-2000、『A History of Business in Medieval Europe, 1200-1550』 E.Hunt, J. Murray (Cambridge) 1999、『An Economic and Social History of Later Medieval Europe, 1000-1500』 Steven.A.Epstein (Cambridge) 2009、『Why the Middle Ages Matter: Medieval Light on Modern Injustice.』 C.Chazelle,S.Doubleday, F.Lifshitz (Routlegde) 2012								
指定図書	『西洋中世史事典 I』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）1997、『西洋中世史事典 II』 シュルツェ（ミネルヴァ書房）2005、『ドイツ法制史概説 改訂版』 ミッタイス・リーベリッヒ（創文社）1971、『概説西洋法制史』 勝田編（ミネルヴァ書房）2004、『フランス法制史概説』 マルタン（創文社）1986、『イングランド法制史概説』 ベイカー（創文社）1975、『中世の商業革命』 ロベス（法政大学出版局）2007								
参考書									
教員からのお知らせ	適切な訳語や概念、その意味などは講義中に解説するが、受講者は、各自、日本語訳をあらかじめ授業外で行い、質問事項を用意しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業や講義内容についての意見共有を行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0110301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	田中 有紀	開講期	第1期
科目名	国際文化特論3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	近代以降、西洋社会では飛躍的に技術が進歩すると同時に、様々な問題が生じますが、環境にまつわる問題もそのひとつです。全世界的に自然環境保護が重視される現在、東洋的な「自然」と「人間」の付き合い方が注目を浴びるようになりまし。環境倫理学の分野では、西洋社会が解決できなかった様々な問題の答えを、儒教・仏教・道教の思想の中に見出そうとする傾向が見られます。ただし、「環境」あるいは「環境倫理学」という概念は、前近代社会においては、西洋と同様に東洋でも見られません。それでは何故改めて東洋に注目する必要があるのでしょうか。この授業では、西洋の様々な思想をとりあげ、特に科学技術との関連に注目しながら、「自然」や「人間」といった概念が、どのように論じられてきたのかを概観し、東洋における環境倫理思想を考えるための基礎知識を習得します。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西洋や東洋の技術に関する様々な研究を知り、それらの概要を説明できる。</li> <li>・ 東洋思想および東アジア科学技術史に関する史料を、図書館などを使って自分で調査できる。</li> <li>・ 東洋思想の「自然」「人間」観をふまえ、環境倫理学に関して自分なりの見解を持つことができる。</li> </ul>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>【第1回】～【第11回】：毎回、指定された文献を読解し、内容を確認するためのワークを行なって下さい（4時間×11回＝44時間）。</p> <p>【第12回】・【第13回】：任意の文献をひとつ選び、自分の考えをまとめてきてください（8時間×2回＝16時間）。</p> <p>以上の授業外学修は60時間を目安に行ってください。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 中国における「自然」の概念 山田利明「中国思想の環境論－自然・山水・風水」、東洋大学『「エコ・フィロソフィ」研究』1、pp.27-33 上記の論文を事前に読み、授業中に内容を確認した後、毎回テーマを決めて議論をします。第3回以降も同様です。</p> <p>【第3回】 天人相関と自然 溝口雄三、池田知久、小島毅『中国思想史』、東京大学出版会、2007、pp. 2 -27</p> <p>【第4回】 中国における森林破壊の歴史 上田信「清代における森林破壊：中国発展史の陰画像」、『重点領域研究総合的地域研究成果報告書シリーズ：総合的地域研究の手法確立：世界と地域の共存のパラダイムを求めて』、1995、pp.51-63</p> <p>【第5回】 仏教とキリスト教の対峙① 中島隆博「魂を異にするものへの態度あるいは「忍びざる心」①」、末木文美士・中島隆博編『非・西欧の視座』、大明堂、2001、p.123-130</p> <p>【第6回】 仏教とキリスト教の対峙② 中島隆博「魂を異にするものへの態度あるいは「忍びざる心」②」、末木文美士・中島隆博編『非・西欧の視座』、大明堂、2001、p.130-147</p> <p>【第7回】 キリスト教文化における人間観と自然観 リン・ホワイト『機械と神』、みすず書房、1999、第五章</p> <p>【第8回】 キリスト教文化における人間観と自然観 リン・ホワイト『機械と神』、みすず書房、1999、第七章、第八章</p> <p>【第9回】 技術は自然を変える① 村田純一『技術の哲学』、岩波書店、2009、pp.39-48</p> <p>【第10回】 技術は自然を変える② 村田純一『技術の哲学』、岩波書店、2009、pp.49-71</p> <p>【第11回】 中国の科学思想 藪内清『中国の科学と日本』、朝日新聞社、1978、pp.103-117</p> <p>【第12回】 受講者によるプレゼンテーション① 「技術」をテーマにした論文をひとつ選び、内容を要約し、批判してください</p> <p>【第13回】 受講者によるプレゼンテーション② 「技術」をテーマにした論文をひとつ選び、内容を要約し、批判してください。</p>								
成績評価の方法	ワークへの取り組み（50%） 授業での発言とプレゼンテーション（30%） レポート（20%）								
フィードバックの内容	授業中に行うワークの添削によってフィードバックを行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『トラが語る中国史：エコロジカル・ヒストリーの可能性』上田信（山川出版社）2002、『中国科学技術史』杜石然[ほか]編著；川原秀城[ほか]訳（東京大学出版会）1997、『朱子の自然学』山田慶児（岩波書店）1978、『中国古代の科学』藪内清（講談社）2004、『科学史からみた中国文明』藪内清（日本放送出版協会）1982、『中国の科学と日本』藪内清（朝日新聞社）1978、『「心身/身心」と環境の哲学：東アジアの伝統思想を媒介に考える』伊東貴之編（汲古書院）2016、『機械と神－生態学的危機の歴史的根源』リン ホワイト（みすず書房）1999								
教員からのお知らせ	この授業では日本語文献のほかに、中国語、古典中国語（漢文）の文献も扱います。								
オフィスアワー	質問は、メール（yuki@ioc.u-tokyo.ac.jp）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									



講義コード	12C0110401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	田中 有紀	開講期	第2期
科目名	国際文化特論4								
履修前条件					備考				
授業の目的	全世界的に自然環境保護が重視される現在、東洋的な「自然」と「人間」の付き合い方が注目を浴びようになりました。近代以降、飛躍的な技術的進歩を遂げた西洋社会においては様々な問題が生じますが、環境にまつわる問題もそのひとつです。環境倫理学の分野では、西洋社会が解決できなかった様々な問題の答えを、儒教・仏教・道教の思想の中に見出そうとする傾向が見られます。しかし、現代的な「環境」あるいは「環境倫理学」という概念は、前近代の東アジア社会には見られません（もちろん、前近代西洋社会においても同様でしょう）。それではなぜ、儒教や仏教、道教に注目するのでしょうか。古くから発達した文明を有する中国は、常に「開発」に向き合ってきたと言えます。また、たとえば儒教は、天の祭祀や、山や川をまつための祭祀を細かく規定します。祭祀のあり方を儒者が議論する際、「自然」とはどのような存在であり、どのように「人間」が向き合うべきかという問いを避けることはできません。この授業は、まず西洋における環境倫理学の歴史を俯瞰した上で、東アジアの様々な思想をとりあげ、その中で、「自然」や「人間」といった概念が、どのように論じられてきたのかを考察することを目的とします。								
到達目標	・環境倫理学に関する様々な研究を知り、それらの概要を説明できる。 ・東洋思想および東アジア科学技術史に関する史料を、図書館などを使って自分で調査できる。 ・東洋思想の「自然」「人間」観をふまえ、環境倫理学に関して自分なりの見解を持つことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	【第1回】～【第11回】：毎回、指定された文献を読解し、内容を確認するためのワークを行なって下さい（4時間×11回＝44時間）。 【第12回】・【第13回】：任意の文献をひとつ選び、自分の考えをまとめてきてください（8時間×2回＝16時間）。 以上の授業外学修は60時間を目安に行ってください。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 現代中国における儒学① 干春松「21世紀初頭中国大陸における『儒学運動』の理論構想およびその評価」、UTCPブックレット5、『中国伝統文化が現代中国で果たす役割』、pp. 1 -19 上記の論文を事前に読み、授業中に内容を確認した後、毎回テーマを決めて議論をします。第3回以降も同様です。 【第3回】 現代中国における儒学② 干春松「21世紀初頭中国大陸における『儒学運動』の理論構想およびその評価」、UTCPブックレット5、『中国伝統文化が現代中国で果たす役割』、pp.20-38 【第4回】 儒教における環境倫理思想① 田中有紀「儒教における環境倫理思想：人間と動植物の同質性および仁の限界をめぐって」、『21世紀資本主義世界のフロンティア』、2017、批評社、pp.216 - 233 【第5回】 儒教における環境倫理思想② 田中有紀「儒教における環境倫理思想：人間と動植物の同質性および仁の限界をめぐって」、『21世紀資本主義世界のフロンティア』、2017、批評社、pp.216 - 233 【第6回】 アメリカの環境倫理思想① ロデリック・F・ナッシュ、『自然の権利』、pp. 7 -52（序文・プロローグ） 【第7回】 アメリカの環境倫理思想② ロデリック・F・ナッシュ、『自然の権利』、pp.23-53（第一章「自然権」から「自然の権利」へ） 【第8回】 アメリカの環境倫理思想③ ロデリック・F・ナッシュ、『自然の権利』、pp.57-88（第二章アメリカの環境主義とそのイデオロギー的起源） 【第9回】 アメリカの環境倫理思想④ ロデリック・F・ナッシュ、『自然の権利』、pp.91-135（第三章生態学が生物学的世界を拡大する） 【第10回】 動物と生まれざる世代の権利 ジョエル・ファインバーグ「動物と生まれざる世代のさまざまな権利」、『現代思想』、1990、vol.18-11、pp.118-143 【第11回】 北京市のごみ収集 羅敏鎮「中国における生活ゴミの分別収集：北京市の事例」、『東京経学会誌』、2012、pp. 3 -29 【第12回】 受講者によるプレゼンテーション① 「環境」をテーマにした論文をひとつ選び、内容を要約し、批判してください。 【第13回】 受講者によるプレゼンテーション② 「環境」をテーマにした論文をひとつ選び、内容を要約し、批判してください。								
成績評価の方法	ワークへの取り組み（50%） 授業での発言とプレゼンテーション（30%） レポート（20%）								
フィードバックの内容	授業中に行うワークの添削によってフィードバックを行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『自然の権利：環境倫理の文明史』ロデリック・F・ナッシュ著；松野弘訳（ミネルヴァ書房）2011、『中国科学技術史』杜石然【ほか】編著；川原秀城【ほか】訳（東京大学出版会）1997								
教員からのお知らせ	この授業では日本語文献のほかに、中国語、古典中国語（漢文）の文献も扱います。								
オフィスアワー	質問は、メール（yuki@ioc.u-tokyo.ac.jp）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0110701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	地域文化特論3				真田 治子		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	日本語の語法の細かい使い分けを確認する方法を学び、自分が書いた表現が正しいかどうかを自分で確かめられるようにする。また、修士論文の作成を視野に入れ、日本語での論文の書き方についても学ぶ。						
到達目標	日本語の語法の細かい使い分けを確認する方法を学び、日本語の学術論文の記述にふさわしい表現や語彙を正しく使用できる。日本語での論文の書き方が理解できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には予習を行い、わからない語句は辞書等で確認しておくこと。毎回の授業の後には復習を行い、学修内容を自分の研究や論文にどのように生かせるかを検討すること。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 擬音語擬態語（オノマトペ）の用法</li> <li>【第2回】 文末表現</li> <li>【第3回】 類義語の使い分け（1）</li> <li>【第4回】 略語の用法</li> <li>【第5回】 類義語の使い分け（2）</li> <li>【第6回】 論文のタイプと構想作成（1）</li> <li>【第7回】 論文のタイプと構想作成（2）</li> <li>【第8回】 論文のタイプと構想作成（3）</li> <li>【第9回】 序論の書き方（1）研究概要</li> <li>【第10回】 序論の書き方（2）研究の目的</li> <li>【第11回】 序論の書き方（3）先行研究の提示</li> <li>【第12回】 論文に使われる表現（1）</li> <li>【第13回】 論文に使われる表現（2）</li> </ul>						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（30%）、毎週の授業中や授業後に作成する小課題（70%）						
フィードバックの内容	重要な課題についての講評を後の授業の中で行う。						
教科書	『日本語コーパスの世界へようこそ』砂川有里子（大修館書店）2024年、『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子（東京大学出版会）2009年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考書は授業中に適宜指示する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習・意見共有・調査学習。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	12C0110801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	地域文化特論4				真田 治子		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	日本語の語法の細かい使い分けを確認する方法を学び、自分が書いた表現が正しいかどうかを自分で確かめられるようにする。また、修士論文の作成を視野に入れ、日本語での論文の書き方についても学ぶ。						
到達目標	日本語の語法の細かい使い分けを確認する方法を学び、日本語の学術論文の記述にふさわしい表現や語彙を正しく使用できる。日本語での論文の書き方が理解できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には予習を行い、わからない語句は辞書等で確認しておくこと。毎回の授業の後には復習を行い、学修内容を自分の研究や論文にどのように生かせるかを検討すること。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 日本語とジェンダー（1）</li> <li>【第2回】 日本語とジェンダー（2）</li> <li>【第3回】 日本語の呼称</li> <li>【第4回】 言葉の変化</li> <li>【第5回】 呼応の副詞の用法</li> <li>【第6回】 本論の書き方（1）研究方法の提示</li> <li>【第7回】 本論の書き方（2）結果の説明</li> <li>【第8回】 本論の書き方（3）結果の説明</li> <li>【第9回】 本論の書き方（4）考察の書き方</li> <li>【第10回】 結論の書き方（1）考察の要約</li> <li>【第11回】 結論の書き方（2）評価・課題</li> <li>【第12回】 論文に使われる表現（1）</li> <li>【第13回】 論文に使われる表現（2）</li> </ul>						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（30%）、毎週の授業中や授業後に作成する小課題（70%）						
フィードバックの内容	重要な課題に対する講評を後の授業の中で行う。						
教科書	『日本語コーパスの世界へようこそ』砂川有里子（大修館書店）2024年、『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子（東京大学出版会）2009年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習・意見共有・調査学習。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	12C0110903	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	慶田 昌之	開講期	第1期
科目名	<b>特講3(通時的マクロ経済理論3)</b>				慶田 昌之			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの理解を深める。								
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 合理的期待形成仮説</li> <li>【第2回】 資産価格と資本蓄積</li> <li>【第3回】 新古典派成長モデル(1)</li> <li>【第4回】 新古典派成長モデル(2)</li> <li>【第5回】 新古典派成長モデルの実証的含意</li> <li>【第6回】 世代重複モデル(1)</li> <li>【第7回】 世代重複モデル(2)</li> <li>【第8回】 消費の恒常所得仮説</li> <li>【第9回】 調整費用とトービンのq</li> <li>【第10回】 消費パターンの平準化と資産価格</li> <li>【第11回】 不確実性と資産価格</li> <li>【第12回】 資産市場と情報の伝達</li> <li>【第13回】 資産価格決定モデルの実証研究</li> </ul>								
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による(100%)。								
フィードバックの内容									
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアン邂逅』 齊藤 誠(有斐閣) 2006								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0110904	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	慶田 昌之	開講期	第2期
科目名	<b>特講4(通時的マクロ経済理論4)</b>				慶田 昌之			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの理解を深める。								
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 新古典派成長モデルの含意と実証的事実(1)</li> <li>【第2回】 新古典派成長モデルの含意と実証的事実(2)</li> <li>【第3回】 情報の非対称性と資金調達(1)</li> <li>【第4回】 情報の非対称性と資金調達(2)</li> <li>【第5回】 担保と資金調達</li> <li>【第6回】 協調の失敗：サーチ・モデル</li> <li>【第7回】 内生的成長モデル(1)</li> <li>【第8回】 内生的成長モデル(2)</li> <li>【第9回】 内生的成長モデル(3)</li> <li>【第10回】 情報の不完全性と金融政策(1)</li> <li>【第11回】 情報の不完全性と金融政策(2)</li> <li>【第12回】 名目価格の硬直性と金融政策(1)</li> <li>【第13回】 名目価格の硬直性と金融政策(2)</li> </ul>								
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による(100%)。								
フィードバックの内容									
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアン邂逅』 齊藤 誠(有斐閣) 2006								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111702	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年																										
科目名	演習 I (戎野)				戎野 淑子			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111703	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	演習 I (苑)				苑 志佳			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111704	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在詰	開講期	通年																										
科目名	<b>演習 I (王在詰)</b>				王 在詰		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111705	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 ゼイ	開講期	通年																										
科目名	<b>演習 I (王ゼイ)</b>				王 ゼイ		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111707	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期			
科目名	演習 I (小沢佳)				小沢 佳史		通年				
履修前提条件					備考						
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。										
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第1回】 研究と論文作成の概要                      【第2回】 研究課題選定の技法1                      【第3回】 研究課題選定の技法2                      【第4回】 研究課題選定の技法3                      【第5回】 学位論文の構想1                      【第6回】 学位論文の構想2                      【第7回】 学位論文の構想3                      【第8回】 学位論文の資料収集と読解1                      【第9回】 学位論文の資料収集と読解2                      【第10回】 学位論文の資料収集と読解3                      【第11回】 学位論文の資料収集と読解4                      【第12回】 学位論文の資料作成法1                      【第13回】 学位論文の資料作成法2                 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第14回】 学位論文の資料作成法3                      【第15回】 学位論文の資料作成法4                      【第16回】 学位論文の作成技法1                      【第17回】 学位論文の作成技法2                      【第18回】 学位論文の作成技法3                      【第19回】 学位論文の作成技法4                      【第20回】 論文作成1                      【第21回】 論文作成2                      【第22回】 論文作成3                      【第23回】 論文作成4                      【第24回】 論文作成5                      【第25回】 論文作成6                      【第26回】 総括                 </td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括										
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。										
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。										
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	12C0111709	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期			
科目名	演習 I (小野崎)				小野崎 保		通年				
履修前提条件					備考						
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。										
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第1回】 研究と論文作成の概要                      【第2回】 研究課題選定の技法1                      【第3回】 研究課題選定の技法2                      【第4回】 研究課題選定の技法3                      【第5回】 学位論文の構想1                      【第6回】 学位論文の構想2                      【第7回】 学位論文の構想3                      【第8回】 学位論文の資料収集と読解1                      【第9回】 学位論文の資料収集と読解2                      【第10回】 学位論文の資料収集と読解3                      【第11回】 学位論文の資料収集と読解4                      【第12回】 学位論文の資料作成法1                      【第13回】 学位論文の資料作成法2                 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第14回】 学位論文の資料作成法3                      【第15回】 学位論文の資料作成法4                      【第16回】 学位論文の作成技法1                      【第17回】 学位論文の作成技法2                      【第18回】 学位論文の作成技法3                      【第19回】 学位論文の作成技法4                      【第20回】 論文作成1                      【第21回】 論文作成2                      【第22回】 論文作成3                      【第23回】 論文作成4                      【第24回】 論文作成5                      【第25回】 論文作成6                      【第26回】 総括                 </td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括										
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。										
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。										
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	12C0111710	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	川口 真一	開講期	通年
科目名	演習 I (川口)				川口 真一		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2				【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111711	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年
科目名	演習 I (河原)				河原 伸哉		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2				【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111712	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	通年		
科目名	演習 I (北原)										
履修前提条件					備考						
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。										
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第1回】 研究と論文作成の概要                      【第2回】 研究課題選定の技法1                      【第3回】 研究課題選定の技法2                      【第4回】 研究課題選定の技法3                      【第5回】 学位論文の構想1                      【第6回】 学位論文の構想2                      【第7回】 学位論文の構想3                      【第8回】 学位論文の資料収集と読解1                      【第9回】 学位論文の資料収集と読解2                      【第10回】 学位論文の資料収集と読解3                      【第11回】 学位論文の資料収集と読解4                      【第12回】 学位論文の資料作成法1                      【第13回】 学位論文の資料作成法2                 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第14回】 学位論文の資料作成法3                      【第15回】 学位論文の資料作成法4                      【第16回】 学位論文の作成技法1                      【第17回】 学位論文の作成技法2                      【第18回】 学位論文の作成技法3                      【第19回】 学位論文の作成技法4                      【第20回】 論文作成1                      【第21回】 論文作成2                      【第22回】 論文作成3                      【第23回】 論文作成4                      【第24回】 論文作成5                      【第25回】 論文作成6                      【第26回】 総括                 </td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括										
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。										
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。										
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	12C0111713	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	慶田 昌之	開講期	通年		
科目名	演習 I (慶田)										
履修前提条件					備考						
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。										
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第1回】 研究と論文作成の概要                      【第2回】 研究課題選定の技法1                      【第3回】 研究課題選定の技法2                      【第4回】 研究課題選定の技法3                      【第5回】 学位論文の構想1                      【第6回】 学位論文の構想2                      【第7回】 学位論文の構想3                      【第8回】 学位論文の資料収集と読解1                      【第9回】 学位論文の資料収集と読解2                      【第10回】 学位論文の資料収集と読解3                      【第11回】 学位論文の資料収集と読解4                      【第12回】 学位論文の資料作成法1                      【第13回】 学位論文の資料作成法2                 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第14回】 学位論文の資料作成法3                      【第15回】 学位論文の資料作成法4                      【第16回】 学位論文の作成技法1                      【第17回】 学位論文の作成技法2                      【第18回】 学位論文の作成技法3                      【第19回】 学位論文の作成技法4                      【第20回】 論文作成1                      【第21回】 論文作成2                      【第22回】 論文作成3                      【第23回】 論文作成4                      【第24回】 論文作成5                      【第25回】 論文作成6                      【第26回】 総括                 </td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 研究課題選定の技法1 【第3回】 研究課題選定の技法2 【第4回】 研究課題選定の技法3 【第5回】 学位論文の構想1 【第6回】 学位論文の構想2 【第7回】 学位論文の構想3 【第8回】 学位論文の資料収集と読解1 【第9回】 学位論文の資料収集と読解2 【第10回】 学位論文の資料収集と読解3 【第11回】 学位論文の資料収集と読解4 【第12回】 学位論文の資料作成法1 【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第14回】 学位論文の資料作成法3 【第15回】 学位論文の資料作成法4 【第16回】 学位論文の作成技法1 【第17回】 学位論文の作成技法2 【第18回】 学位論文の作成技法3 【第19回】 学位論文の作成技法4 【第20回】 論文作成1 【第21回】 論文作成2 【第22回】 論文作成3 【第23回】 論文作成4 【第24回】 論文作成5 【第25回】 論文作成6 【第26回】 総括										
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。										
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。										
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											



講義コード	12C0111714	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小林 隆史	開講期	通年																										
科目名	<b>演習 I (小林隆)</b>																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111716	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	通年																										
科目名	<b>演習 I (櫻井)</b>																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111717	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	真田 治子	開講期	通年																										
科目名	演習 I (真田)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111718	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	通年																										
科目名	演習 I (芹田)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111719	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	平 伊佐雄	開講期	通年
科目名	<b>演習 I (平)</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】研究と論文作成の概要 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2				【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】学位論文の資料作成法4 【第16回】学位論文の作成技法1 【第17回】学位論文の作成技法2 【第18回】学位論文の作成技法3 【第19回】学位論文の作成技法4 【第20回】論文作成1 【第21回】論文作成2 【第22回】論文作成3 【第23回】論文作成4 【第24回】論文作成5 【第25回】論文作成6 【第26回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111720	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年
科目名	<b>演習 I (高橋)</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】研究と論文作成の概要 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2				【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】学位論文の資料作成法4 【第16回】学位論文の作成技法1 【第17回】学位論文の作成技法2 【第18回】学位論文の作成技法3 【第19回】学位論文の作成技法4 【第20回】論文作成1 【第21回】論文作成2 【第22回】論文作成3 【第23回】論文作成4 【第24回】論文作成5 【第25回】論文作成6 【第26回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111722	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	開講期																										
科目名	演習Ⅰ(外木)				外木 好美		通年																										
履修前提条件					備考																												
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想3</td> <td>【第20回】 論文作成1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解1</td> <td>【第21回】 論文作成2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解2</td> <td>【第22回】 論文作成3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解3</td> <td>【第23回】 論文作成4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解4</td> <td>【第24回】 論文作成5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法1</td> <td>【第25回】 論文作成6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>							【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法3	【第2回】 研究課題選定の技法1	【第15回】 学位論文の資料作成法4	【第3回】 研究課題選定の技法2	【第16回】 学位論文の作成技法1	【第4回】 研究課題選定の技法3	【第17回】 学位論文の作成技法2	【第5回】 学位論文の構想1	【第18回】 学位論文の作成技法3	【第6回】 学位論文の構想2	【第19回】 学位論文の作成技法4	【第7回】 学位論文の構想3	【第20回】 論文作成1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解1	【第21回】 論文作成2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解2	【第22回】 論文作成3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解3	【第23回】 論文作成4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解4	【第24回】 論文作成5	【第12回】 学位論文の資料作成法1	【第25回】 論文作成6	【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法3																																
【第2回】 研究課題選定の技法1	【第15回】 学位論文の資料作成法4																																
【第3回】 研究課題選定の技法2	【第16回】 学位論文の作成技法1																																
【第4回】 研究課題選定の技法3	【第17回】 学位論文の作成技法2																																
【第5回】 学位論文の構想1	【第18回】 学位論文の作成技法3																																
【第6回】 学位論文の構想2	【第19回】 学位論文の作成技法4																																
【第7回】 学位論文の構想3	【第20回】 論文作成1																																
【第8回】 学位論文の資料収集と読解1	【第21回】 論文作成2																																
【第9回】 学位論文の資料収集と読解2	【第22回】 論文作成3																																
【第10回】 学位論文の資料収集と読解3	【第23回】 論文作成4																																
【第11回】 学位論文の資料収集と読解4	【第24回】 論文作成5																																
【第12回】 学位論文の資料作成法1	【第25回】 論文作成6																																
【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第26回】 総括																																
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																
教科書																																	
指定図書																																	
参考書																																	
教員からのお知らせ																																	
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																
実践的な教育内容																																	
その他																																	

講義コード	12C0111723	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	開講期																										
科目名	演習Ⅰ(中村)				中村 宗之		通年																										
履修前提条件					備考																												
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想3</td> <td>【第20回】 論文作成1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解1</td> <td>【第21回】 論文作成2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解2</td> <td>【第22回】 論文作成3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解3</td> <td>【第23回】 論文作成4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解4</td> <td>【第24回】 論文作成5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法1</td> <td>【第25回】 論文作成6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>							【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法3	【第2回】 研究課題選定の技法1	【第15回】 学位論文の資料作成法4	【第3回】 研究課題選定の技法2	【第16回】 学位論文の作成技法1	【第4回】 研究課題選定の技法3	【第17回】 学位論文の作成技法2	【第5回】 学位論文の構想1	【第18回】 学位論文の作成技法3	【第6回】 学位論文の構想2	【第19回】 学位論文の作成技法4	【第7回】 学位論文の構想3	【第20回】 論文作成1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解1	【第21回】 論文作成2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解2	【第22回】 論文作成3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解3	【第23回】 論文作成4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解4	【第24回】 論文作成5	【第12回】 学位論文の資料作成法1	【第25回】 論文作成6	【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法3																																
【第2回】 研究課題選定の技法1	【第15回】 学位論文の資料作成法4																																
【第3回】 研究課題選定の技法2	【第16回】 学位論文の作成技法1																																
【第4回】 研究課題選定の技法3	【第17回】 学位論文の作成技法2																																
【第5回】 学位論文の構想1	【第18回】 学位論文の作成技法3																																
【第6回】 学位論文の構想2	【第19回】 学位論文の作成技法4																																
【第7回】 学位論文の構想3	【第20回】 論文作成1																																
【第8回】 学位論文の資料収集と読解1	【第21回】 論文作成2																																
【第9回】 学位論文の資料収集と読解2	【第22回】 論文作成3																																
【第10回】 学位論文の資料収集と読解3	【第23回】 論文作成4																																
【第11回】 学位論文の資料収集と読解4	【第24回】 論文作成5																																
【第12回】 学位論文の資料作成法1	【第25回】 論文作成6																																
【第13回】 学位論文の資料作成法2	【第26回】 総括																																
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																
教科書																																	
指定図書																																	
参考書																																	
教員からのお知らせ																																	
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																
実践的な教育内容																																	
その他																																	

講義コード	12C0111724	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	通年
科目名	<b>演習 I (林)</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】研究と論文作成の概要 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2				【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】学位論文の資料作成法4 【第16回】学位論文の作成技法1 【第17回】学位論文の作成技法2 【第18回】学位論文の作成技法3 【第19回】学位論文の作成技法4 【第20回】論文作成1 【第21回】論文作成2 【第22回】論文作成3 【第23回】論文作成4 【第24回】論文作成5 【第25回】論文作成6 【第26回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111726	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年
科目名	<b>演習 I (宮川)</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。								
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】研究と論文作成の概要 【第2回】研究課題選定の技法1 【第3回】研究課題選定の技法2 【第4回】研究課題選定の技法3 【第5回】学位論文の構想1 【第6回】学位論文の構想2 【第7回】学位論文の構想3 【第8回】学位論文の資料収集と読解1 【第9回】学位論文の資料収集と読解2 【第10回】学位論文の資料収集と読解3 【第11回】学位論文の資料収集と読解4 【第12回】学位論文の資料作成法1 【第13回】学位論文の資料作成法2				【第14回】学位論文の資料作成法3 【第15回】学位論文の資料作成法4 【第16回】学位論文の作成技法1 【第17回】学位論文の作成技法2 【第18回】学位論文の作成技法3 【第19回】学位論文の作成技法4 【第20回】論文作成1 【第21回】論文作成2 【第22回】論文作成3 【第23回】論文作成4 【第24回】論文作成5 【第25回】論文作成6 【第26回】総括				
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。								
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	12C0111727	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	通年																										
科目名	演習 I (村田)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111729	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	山口 和男	開講期	通年																										
科目名	演習 I (山口)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111731	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	渡部 真弘	開講期	通年																										
科目名	<b>演習Ⅰ(渡部)</b>				渡部 真弘		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】学位論文の資料作成法3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】研究課題選定の技法1</td> <td>【第15回】学位論文の資料作成法4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】研究課題選定の技法2</td> <td>【第16回】学位論文の作成技法1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】研究課題選定の技法3</td> <td>【第17回】学位論文の作成技法2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】学位論文の構想1</td> <td>【第18回】学位論文の作成技法3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】学位論文の構想2</td> <td>【第19回】学位論文の作成技法4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】学位論文の構想3</td> <td>【第20回】論文作成1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】学位論文の資料収集と読解1</td> <td>【第21回】論文作成2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】学位論文の資料収集と読解2</td> <td>【第22回】論文作成3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】学位論文の資料収集と読解3</td> <td>【第23回】論文作成4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】学位論文の資料収集と読解4</td> <td>【第24回】論文作成5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】学位論文の資料作成法1</td> <td>【第25回】論文作成6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】学位論文の資料作成法2</td> <td>【第26回】総括</td> </tr> </table>									【第1回】研究と論文作成の概要	【第14回】学位論文の資料作成法3	【第2回】研究課題選定の技法1	【第15回】学位論文の資料作成法4	【第3回】研究課題選定の技法2	【第16回】学位論文の作成技法1	【第4回】研究課題選定の技法3	【第17回】学位論文の作成技法2	【第5回】学位論文の構想1	【第18回】学位論文の作成技法3	【第6回】学位論文の構想2	【第19回】学位論文の作成技法4	【第7回】学位論文の構想3	【第20回】論文作成1	【第8回】学位論文の資料収集と読解1	【第21回】論文作成2	【第9回】学位論文の資料収集と読解2	【第22回】論文作成3	【第10回】学位論文の資料収集と読解3	【第23回】論文作成4	【第11回】学位論文の資料収集と読解4	【第24回】論文作成5	【第12回】学位論文の資料作成法1	【第25回】論文作成6	【第13回】学位論文の資料作成法2	【第26回】総括
【第1回】研究と論文作成の概要	【第14回】学位論文の資料作成法3																																		
【第2回】研究課題選定の技法1	【第15回】学位論文の資料作成法4																																		
【第3回】研究課題選定の技法2	【第16回】学位論文の作成技法1																																		
【第4回】研究課題選定の技法3	【第17回】学位論文の作成技法2																																		
【第5回】学位論文の構想1	【第18回】学位論文の作成技法3																																		
【第6回】学位論文の構想2	【第19回】学位論文の作成技法4																																		
【第7回】学位論文の構想3	【第20回】論文作成1																																		
【第8回】学位論文の資料収集と読解1	【第21回】論文作成2																																		
【第9回】学位論文の資料収集と読解2	【第22回】論文作成3																																		
【第10回】学位論文の資料収集と読解3	【第23回】論文作成4																																		
【第11回】学位論文の資料収集と読解4	【第24回】論文作成5																																		
【第12回】学位論文の資料作成法1	【第25回】論文作成6																																		
【第13回】学位論文の資料作成法2	【第26回】総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111801	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	<b>演習Ⅱ(苑)</b>				苑 志佳		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】学位論文の資料作成法3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】研究課題選定の技法1</td> <td>【第15回】学位論文の資料作成法4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】研究課題選定の技法2</td> <td>【第16回】学位論文の作成技法1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】研究課題選定の技法3</td> <td>【第17回】学位論文の作成技法2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】学位論文の構想1</td> <td>【第18回】学位論文の作成技法3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】学位論文の構想2</td> <td>【第19回】学位論文の作成技法4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】学位論文の構想3</td> <td>【第20回】論文作成1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】学位論文の資料収集と読解1</td> <td>【第21回】論文作成2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】学位論文の資料収集と読解2</td> <td>【第22回】論文作成3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】学位論文の資料収集と読解3</td> <td>【第23回】論文作成4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】学位論文の資料収集と読解4</td> <td>【第24回】論文作成5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】学位論文の資料作成法1</td> <td>【第25回】論文作成6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】学位論文の資料作成法2</td> <td>【第26回】総括</td> </tr> </table>									【第1回】研究と論文作成の概要	【第14回】学位論文の資料作成法3	【第2回】研究課題選定の技法1	【第15回】学位論文の資料作成法4	【第3回】研究課題選定の技法2	【第16回】学位論文の作成技法1	【第4回】研究課題選定の技法3	【第17回】学位論文の作成技法2	【第5回】学位論文の構想1	【第18回】学位論文の作成技法3	【第6回】学位論文の構想2	【第19回】学位論文の作成技法4	【第7回】学位論文の構想3	【第20回】論文作成1	【第8回】学位論文の資料収集と読解1	【第21回】論文作成2	【第9回】学位論文の資料収集と読解2	【第22回】論文作成3	【第10回】学位論文の資料収集と読解3	【第23回】論文作成4	【第11回】学位論文の資料収集と読解4	【第24回】論文作成5	【第12回】学位論文の資料作成法1	【第25回】論文作成6	【第13回】学位論文の資料作成法2	【第26回】総括
【第1回】研究と論文作成の概要	【第14回】学位論文の資料作成法3																																		
【第2回】研究課題選定の技法1	【第15回】学位論文の資料作成法4																																		
【第3回】研究課題選定の技法2	【第16回】学位論文の作成技法1																																		
【第4回】研究課題選定の技法3	【第17回】学位論文の作成技法2																																		
【第5回】学位論文の構想1	【第18回】学位論文の作成技法3																																		
【第6回】学位論文の構想2	【第19回】学位論文の作成技法4																																		
【第7回】学位論文の構想3	【第20回】論文作成1																																		
【第8回】学位論文の資料収集と読解1	【第21回】論文作成2																																		
【第9回】学位論文の資料収集と読解2	【第22回】論文作成3																																		
【第10回】学位論文の資料収集と読解3	【第23回】論文作成4																																		
【第11回】学位論文の資料収集と読解4	【第24回】論文作成5																																		
【第12回】学位論文の資料作成法1	【第25回】論文作成6																																		
【第13回】学位論文の資料作成法2	【第26回】総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢(30%)、発表・討論(50%)および最終課題(レポート等)(20%)によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111802	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期																											
科目名	演習Ⅱ(戎野)				戎野 淑子		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111803	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員		開講期																											
科目名	演習Ⅱ(北原)				北原 克宣		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			



講義コード	12C0111805	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在詰	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅱ(王在詰)				王 在詰			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111806	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	櫻井 一宏	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅱ(櫻井)				櫻井 一宏			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111807	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅱ(中村)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111808	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅱ(宮川)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111903	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在詰	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅲ(王在詰)				王 在詰			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111904	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅲ(戎野)				戎野 淑子			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111902	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅲ(河原)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 2. 自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	12C0111951	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	通年																										
科目名	演習Ⅳ(芹田)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。 2. 自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。 これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 学位論文の資料作成法 3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究課題選定の技法 1</td> <td>【第15回】 学位論文の資料作成法 4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 研究課題選定の技法 2</td> <td>【第16回】 学位論文の作成技法 1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 研究課題選定の技法 3</td> <td>【第17回】 学位論文の作成技法 2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 学位論文の構想 1</td> <td>【第18回】 学位論文の作成技法 3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 学位論文の構想 2</td> <td>【第19回】 学位論文の作成技法 4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 学位論文の構想 3</td> <td>【第20回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1</td> <td>【第21回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2</td> <td>【第22回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3</td> <td>【第23回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4</td> <td>【第24回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 学位論文の資料作成法 1</td> <td>【第25回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 学位論文の資料作成法 2</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3	【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4	【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1	【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2	【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3	【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4	【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1	【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2	【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3	【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4	【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5	【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6	【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 学位論文の資料作成法 3																																		
【第2回】 研究課題選定の技法 1	【第15回】 学位論文の資料作成法 4																																		
【第3回】 研究課題選定の技法 2	【第16回】 学位論文の作成技法 1																																		
【第4回】 研究課題選定の技法 3	【第17回】 学位論文の作成技法 2																																		
【第5回】 学位論文の構想 1	【第18回】 学位論文の作成技法 3																																		
【第6回】 学位論文の構想 2	【第19回】 学位論文の作成技法 4																																		
【第7回】 学位論文の構想 3	【第20回】 論文作成 1																																		
【第8回】 学位論文の資料収集と読解 1	【第21回】 論文作成 2																																		
【第9回】 学位論文の資料収集と読解 2	【第22回】 論文作成 3																																		
【第10回】 学位論文の資料収集と読解 3	【第23回】 論文作成 4																																		
【第11回】 学位論文の資料収集と読解 4	【第24回】 論文作成 5																																		
【第12回】 学位論文の資料作成法 1	【第25回】 論文作成 6																																		
【第13回】 学位論文の資料作成法 2	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			



講義コード	13C0101501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	佐伯 順子	開講期	第1期
科目名	国際環境特研3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研3」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で紹介する環境問題の中から、一つ選択し、その問題と講じられている対策について調査します。調査した内容をレポートにまとめ、授業で発表できるように準備します。調査では、特にその対策の効果と課題に着目し、今後どのように対応していくべきかの提案をします。(計60時間)								
授業計画	【第1回】地球上で起こっている環境問題の概要と歴史 【第2回】環境問題と国際的な枠組み 【第3回】地球温暖化(1)メカニズムと現象、研究 【第4回】地球温暖化(2)政策的な取組 【第5回】地球温暖化(3)地球温暖化問題とエネルギー資源 【第6回】地球温暖化(4)対策(省エネ、技術開発)、適応策と緩和策 【第7回】地球温暖化(5)企業の取組 【第8回】環境汚染(1)大気汚染 【第9回】環境汚染(2)土壌汚染、水質汚濁(富栄養化)、残留農薬 【第10回】水資源(1)水の需要と供給 【第11回】水資源(2)環境への影響 【第12回】水資源(3)水マネジメント 【第13回】プレゼンテーションとまとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢(40%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門-予防的順応的管理-』松田裕之(共立出版)2008、『地球の論点——現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点——現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート(英治出版)2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠(裳華房)2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫(日刊工業新聞社)2012、『TNFD 企業戦略』デロイトトーマツグループ(中央経済社)2024、『資源の循環利用とはなにか——パズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士(岩波書店)2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン(新潮文庫)1974、『GEO-5 地球環境概観 第5次報告書-私達が望む未来の環境(上)』国連環境計画(環境報告研)2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄(大学教育出版)2020、『資源と環境の経済学-ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介(昭和堂)2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								
その他									

講義コード	13C0101601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	国際環境特研4				佐伯 順子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。 なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研4」との合同授業です。								
到達目標	この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	企業の環境経営を調査し、関心のある1企業をピックアップします。その企業の環境に対する取り組みを深掘りして調査し、授業で紹介します。またその調査内容をレポートにまとめます。(計60時間)								
授業計画	【第1回】生態系環境 (1) 生物を取り巻く環境 【第2回】生態系環境 (2) 生物多様性と生態系のメカニズムと重要性 【第3回】生態系環境 (3) 海の生態系 【第4回】生態系環境 (4) 生物資源(バイオマス)の利用と環境保全 【第5回】生態系環境 (5) 外来種 【第6回】資源循環 (1) プラスチック問題 【第7回】資源循環 (2) 資源枯渇 【第8回】資源循環 (3) 廃棄物問題 【第9回】資源循環 (4) リサイクル 【第10回】環境経営 (1) 企業の取組事例 【第11回】環境経営 (2) 環境への影響の評価方法 【第12回】環境経営 (3) 企業に求められる努力 【第13回】プレゼンテーションとまとめ								
成績評価の方法	授業への取組姿勢(40%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之(共立出版)2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート(英治出版)2011、『現代の化学環境学 環境の理解と改善のために』御園生 誠(裳華房)2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫(日刊工業新聞社)2012、『TNFD 企業戦略』デロイトトーマツグループ(中央経済社)2024、『資源の循環利用とはなにか—— バッズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士(岩波書店)2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン(新潮文庫)1974、『GEO-5 地球環境概観 第5次報告書-私達が望む未来の環境(上)』国連環境計画(環境報告研)2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄(大学教育出版)2020、『資源と環境の経済学-ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介(昭和堂)2012								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容	各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。 プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。 期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。								
その他									

博士後期課程

講義コード	13C0101701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	地域農業環境特研1				北原 克宣		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ博士論文）の執筆ができるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】論文①に関する報告・討論 【第2回】論文②に関する報告・討論 【第3回】論文③に関する報告・討論 【第4回】論文④に関する報告・討論 【第5回】論文⑤に関する報告・討論 【第6回】論文⑥に関する報告・討論 【第7回】論文⑦に関する報告・討論 【第8回】論文⑧に関する報告・討論 【第9回】論文⑨に関する報告・討論 【第10回】論文⑩に関する報告・討論 【第11回】論文⑪に関する報告・討論 【第12回】論文⑫に関する報告・討論 【第13回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	各発表について、講義内にてコメントをする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義時にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0101801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	地域農業環境特研2				北原 克宣		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ博士論文）の執筆ができるようになることである。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日1時間） ②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（1週間のうち1時間以上） 計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】論文⑬に関する報告・討論 【第2回】論文⑭に関する報告・討論 【第3回】論文⑮に関する報告・討論 【第4回】論文⑯に関する報告・討論 【第5回】論文⑰に関する報告・討論 【第6回】論文⑱に関する報告・討論 【第7回】論文⑲に関する報告・討論 【第8回】論文⑳に関する報告・討論 【第9回】研究発表・討論 【第10回】研究発表・討論 【第11回】研究発表・討論 【第12回】研究発表・討論 【第13回】農業・食料・環境問題の現代的課題								
成績評価の方法	発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%）								
フィードバックの内容	各発表について、講義内にてコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義時にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									



講義コード	13C0102701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期														
科目名	<b>マルクス経済学特研3</b>				中村 宗之		第1期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は修士課程「マルクス経済学特論3」との合同授業である。																						
到達目標	「マルクス経済学特論3」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研3」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論3」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研3」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス</td> <td>【第8回】教科書の検討と議論(7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】教科書の検討と議論(1)</td> <td>【第9回】教科書の検討と議論(8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】教科書の検討と議論(2)</td> <td>【第10回】教科書の検討と議論(9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】教科書の検討と議論(3)</td> <td>【第11回】参加者による報告(1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】教科書の検討と議論(4)</td> <td>【第12回】参加者による報告(2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】教科書の検討と議論(5)</td> <td>【第13回】前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】教科書の検討と議論(6)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第8回】教科書の検討と議論(7)	【第2回】教科書の検討と議論(1)	【第9回】教科書の検討と議論(8)	【第3回】教科書の検討と議論(2)	【第10回】教科書の検討と議論(9)	【第4回】教科書の検討と議論(3)	【第11回】参加者による報告(1)	【第5回】教科書の検討と議論(4)	【第12回】参加者による報告(2)	【第6回】教科書の検討と議論(5)	【第13回】前期のまとめ	【第7回】教科書の検討と議論(6)	
【第1回】ガイダンス	【第8回】教科書の検討と議論(7)																						
【第2回】教科書の検討と議論(1)	【第9回】教科書の検討と議論(8)																						
【第3回】教科書の検討と議論(2)	【第10回】教科書の検討と議論(9)																						
【第4回】教科書の検討と議論(3)	【第11回】参加者による報告(1)																						
【第5回】教科書の検討と議論(4)	【第12回】参加者による報告(2)																						
【第6回】教科書の検討と議論(5)	【第13回】前期のまとめ																						
【第7回】教科書の検討と議論(6)																							
成績評価の方法	「マルクス経済学特論3」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出レポートの内容(50%)により評価する。 「マルクス経済学特研3」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出論文の内容(50%)により評価する。																						
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『アナキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック(木鐸社)2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン(信山社)2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン(ミネルヴァ書房)2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド(藤原書店)2008年、『完訳 統治二論(岩波文庫)』ジョン・ロック(岩波書店)2010年、『国家と革命(講談社学術文庫)』レーニン(講談社)2011年、『国家民営化論』笠井潔(光文社)2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー(青木書店)1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠(岩波書店)1989年、『現代の社会主義(講談社学術文庫)』伊藤誠(講談社)1992年																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams等でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	13C0102702	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	中村 宗之	開講期	第2期														
科目名	<b>マルクス経済学特研4</b>				中村 宗之		第2期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。なお、本講義は修士課程「マルクス経済学特論4」との合同授業である。																						
到達目標	「マルクス経済学特論4」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。 「マルクス経済学特研4」の到達目標： 未来社会に関する K. マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	「マルクス経済学特論4」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。 「マルクス経済学特研4」の授業外学修内容・授業外学修時間数： 授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】教科書の検討と議論(1)</td> <td>【第8回】教科書の検討と議論(8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】教科書の検討と議論(2)</td> <td>【第9回】教科書の検討と議論(9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】教科書の検討と議論(3)</td> <td>【第10回】教科書の検討と議論(10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】教科書の検討と議論(4)</td> <td>【第11回】参加者による報告(1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】教科書の検討と議論(5)</td> <td>【第12回】参加者による報告(2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】教科書の検討と議論(6)</td> <td>【第13回】後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】教科書の検討と議論(7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】教科書の検討と議論(1)	【第8回】教科書の検討と議論(8)	【第2回】教科書の検討と議論(2)	【第9回】教科書の検討と議論(9)	【第3回】教科書の検討と議論(3)	【第10回】教科書の検討と議論(10)	【第4回】教科書の検討と議論(4)	【第11回】参加者による報告(1)	【第5回】教科書の検討と議論(5)	【第12回】参加者による報告(2)	【第6回】教科書の検討と議論(6)	【第13回】後期のまとめ	【第7回】教科書の検討と議論(7)	
【第1回】教科書の検討と議論(1)	【第8回】教科書の検討と議論(8)																						
【第2回】教科書の検討と議論(2)	【第9回】教科書の検討と議論(9)																						
【第3回】教科書の検討と議論(3)	【第10回】教科書の検討と議論(10)																						
【第4回】教科書の検討と議論(4)	【第11回】参加者による報告(1)																						
【第5回】教科書の検討と議論(5)	【第12回】参加者による報告(2)																						
【第6回】教科書の検討と議論(6)	【第13回】後期のまとめ																						
【第7回】教科書の検討と議論(7)																							
成績評価の方法	「マルクス経済学特論4」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出レポートの内容(50%)により評価する。 「マルクス経済学特研4」：授業への取り組み姿勢(50%)、報告および提出論文の内容(50%)により評価する。																						
フィードバックの内容	報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『アナキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック(木鐸社)2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン(信山社)2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン(ミネルヴァ書房)2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド(藤原書店)2008年、『完訳 統治二論(岩波文庫)』ジョン・ロック(岩波書店)2010年、『国家と革命(講談社学術文庫)』レーニン(講談社)2011年、『国家民営化論』笠井潔(光文社)2000年、『これからの社会主義 - 市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー(青木書店)1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠(岩波書店)1989年、『現代の社会主義(講談社学術文庫)』伊藤誠(講談社)1992年																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams等でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	13C0102901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第1期
科目名	マクロ経済学特研1				浅子 和美			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0103001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	マクロ経済学特研2				浅子 和美			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが、本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。								
到達目標	景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し政策提言に至る。研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある(授業外学習時間は90時間)。								
授業計画	【第1回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(1) 【第2回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する(2) 【第3回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(1) 【第4回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(2) 【第5回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(3) 【第6回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(4) 【第7回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(5) 【第8回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(6) 【第9回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(7) 【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(8) 【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(9) 【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(10) 【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する(11) 【第3回】以降、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練ること。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0103301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	第1期
科目名	<b>ミクロ経済学特研1</b>								
履修前条件					備考				
授業の目的	複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。 なお、本講義は修士課程「ミクロ経済学特論1」との合同授業である。								
到達目標	(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学の視点から考えることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) ミクロ経済学をより深く理解するために、適宜紹介する関連文献などを読むこと。 (3) 研究レポート [ターム・ペーパー] 作成に向けて文献調査および分析を自主的に行うこと。 これらを併せて授業外に合計80時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】文献の輪読および討論 (1) 【第2回】文献の輪読および討論 (2) 【第3回】文献の輪読および討論 (3) 【第4回】文献の輪読および討論 (4) 【第5回】文献の輪読および討論 (5) 【第6回】文献の輪読および討論 (6) 【第7回】文献の輪読および討論 (7)				【第8回】文献の輪読および討論 (8) 【第9回】文献の輪読および討論 (9) 【第10回】文献の輪読および討論 (10) 【第11回】文献の輪読および討論 (11) 【第12回】文献の輪読および討論 (12) 【第13回】文献の輪読および討論 (13)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および研究レポート [ターム・ペーパー] (80%)								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0103401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	第2期
科目名	<b>ミクロ経済学特研2</b>								
履修前条件					備考				
授業の目的	複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。 なお、本講義は修士課程「ミクロ経済学特論2」との合同授業である。								
到達目標	(1) 市場経済の仕組みを説明できる。 (2) 市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 (3) 各自の研究テーマをミクロ経済学的に分析し、課題を見つけ政策提言をすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	(1) レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。 (2) ミクロ経済学をより深く理解するために、適宜紹介する関連文献などを読むこと。 (3) 研究レポート [ターム・ペーパー] 作成に向けて文献調査および分析を自主的に行うこと。 これらを併せて授業外に合計80時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】文献の輪読および討論 (1) 【第2回】文献の輪読および討論 (2) 【第3回】文献の輪読および討論 (3) 【第4回】文献の輪読および討論 (4) 【第5回】文献の輪読および討論 (5) 【第6回】文献の輪読および討論 (6) 【第7回】文献の輪読および討論 (7)				【第8回】文献の輪読および討論 (8) 【第9回】文献の輪読および討論 (9) 【第10回】文献の輪読および討論 (10) 【第11回】文献の輪読および討論 (11) 【第12回】文献の輪読および討論 (12) 【第13回】文献の輪読および討論 (13)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%) および研究レポート [ターム・ペーパー] (80%)								
フィードバックの内容	文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は履修生と相談して決める。 参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。								
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0103501	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	ミクロ経済学特研3				渡部 真弘		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は修士課程「ミクロ経済学特論3」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特研3」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特論3」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特研3」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特論3」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 標準型表現：囚人のジレンマ 【第3回】 標準型表現：最適反応とナッシュ均衡：戦略が離散的である場合 【第4回】 標準型表現：最適反応とナッシュ均衡：戦略が連続的である場合 【第5回】 標準型表現：クールノー均衡（1）：利潤最大化行動、最適反応、クラメルの公式 【第6回】 標準型表現：クールノー均衡（2）：余剰分析の準備 【第7回】 標準型表現：クールノー均衡（3）：余剰分析 【第8回】 標準型表現：支配される戦略の逐次的消去 【第9回】 標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡 【第10回】 展開型表現：後ろ向き帰納法 【第11回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（1） 【第12回】 展開型表現：部分ゲーム完全均衡（2） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第3回～授業第12回）を実施する。 「ミクロ経済学特研3」の評価割合：小テスト50%、期末試験50% 「ミクロ経済学特論3」の評価割合：小テスト50%、期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特研3」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特論3」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009、『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0103601	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	ミクロ経済学特研4				渡部 真弘		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である。なお、本科目は修士課程「ミクロ経済学特論4」との合同授業でもある。								
到達目標	「ミクロ経済学特研4」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。 「ミクロ経済学特論4」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「ミクロ経済学特研4」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。 「ミクロ経済学特論4」のフィードバックの内容：本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 完全ベイジアン均衡（1） 【第3回】 完全ベイジアン均衡（2） 【第4回】 シグナリング（1） 【第5回】 シグナリング（2） 【第6回】 交互提案交渉（1） 【第7回】 交互提案交渉（2） 【第8回】 交互提案交渉（3） 【第9回】 ナッシュ交渉解（1） 【第10回】 ナッシュ交渉解（2） 【第11回】 シャプレー値, コア（1） 【第12回】 シャプレー値, コア（2） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	講義内容の理解度を確認するために、授業開始時に小テスト（授業第3回～授業第12回）を実施する。 「ミクロ経済学特研4」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% 「ミクロ経済学特論4」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%								
フィードバックの内容	「ミクロ経済学特研4」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。 「ミクロ経済学特論4」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する。理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009, 『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0103701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第1期														
科目名	<b>経済統計学特研1</b>					王 在喆	第1期																
履修前提条件						備考																	
授業の目的	経済統計資料の奥に経済社会の活動の真相が見える。したがって、経済統計資料を読み、統計情報を正しく理解することも経済社会の変化を把握するには欠かせない手段の一つである。本講義では、経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、現実の経済社会の動向を経済統計資料に基づいて分析する方法を明らかにする。したがって、講義では『国民経済計算』(SNA)を用いた国民経済の分析や『産業連関表』に基づいた産業構造の分析などが紹介される。分析の事例としては、日本経済はもとより、中国経済をとりあげることもある。 なお、本講義は修士課程の院生および博士課程の院生のために開設された合同授業である。																						
到達目標	①経済分析の面白さを実感することができる。 ②経済統計資料の重要性を認識することができる。 ③経済社会の変化を分析する基本技法を習得することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	①『日本経済新聞』の社説や経済関係の記事をよく読むこと。 ②Excelなど応用ソフトの操作方法を独学すること。 ③与えられた研究課題を完成するために文献の調査や学習を行うこと。 ④授業の内容を理解するために復習すること。 必要な授業外学修時間は60時間以上である。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 授業の目標と進め方、成績評価の方法、概要、経済統計資料について</td> <td>【第8回】 日本の産業連関表②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 国民経済計算(SNA)①</td> <td>【第9回】 Excelによる演習①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 国民経済計算(SNA)②</td> <td>【第10回】 Excelによる演習②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 産業連関分析①</td> <td>【第11回】 日本の産業連関表による構造分析①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 産業連関分析②</td> <td>【第12回】 日本の産業連関表による構造分析②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 産業連関分析③</td> <td>【第13回】 授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 日本の産業連関表①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 授業の目標と進め方、成績評価の方法、概要、経済統計資料について	【第8回】 日本の産業連関表②	【第2回】 国民経済計算(SNA)①	【第9回】 Excelによる演習①	【第3回】 国民経済計算(SNA)②	【第10回】 Excelによる演習②	【第4回】 産業連関分析①	【第11回】 日本の産業連関表による構造分析①	【第5回】 産業連関分析②	【第12回】 日本の産業連関表による構造分析②	【第6回】 産業連関分析③	【第13回】 授業内容のまとめ	【第7回】 日本の産業連関表①	
【第1回】 授業の目標と進め方、成績評価の方法、概要、経済統計資料について	【第8回】 日本の産業連関表②																						
【第2回】 国民経済計算(SNA)①	【第9回】 Excelによる演習①																						
【第3回】 国民経済計算(SNA)②	【第10回】 Excelによる演習②																						
【第4回】 産業連関分析①	【第11回】 日本の産業連関表による構造分析①																						
【第5回】 産業連関分析②	【第12回】 日本の産業連関表による構造分析②																						
【第6回】 産業連関分析③	【第13回】 授業内容のまとめ																						
【第7回】 日本の産業連関表①																							
成績評価の方法	修士課程受講生：中間レポート：50%、期末レポート50%。 博士課程受講生：中間レポート：30%、期末レポート30%、研究発表（1回）40%。 ※研究発表：授業内発表、授業内容関連のもの。																						
フィードバックの内容	提出レポートや授業内発表などについてコメントする。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『経済統計』中島隆信、木村福成、北村行伸、新保一成（東洋経済新報社）2000、『実証経済分析の基礎』中島隆信、吉岡完治（編）（慶應義塾大学出版会）1997、『人文・社会科学お統計学』東京大学教養学部統計学教室（東京大学出版会）1995																						
教員からのお知らせ	教科書は一回目の授業で受講生と相談して決める。																						
オフィスアワー	2号棟511研究室、木曜日18:00-19:00（6限）																						
アクティブラーニングの内容	この授業では、演習形式で行う場合もあるため、教室では意見共有を重視し、また授業外での能動的な学習も推奨している。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	13C0103801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	第2期														
科目名	<b>経済統計学特研2</b>					王 在喆	第2期																
履修前提条件						備考																	
授業の目的	経済統計資料の奥に経済社会の活動の真相が見える。したがって、経済統計資料を読み、統計情報を正しく理解することも経済社会の変化を把握するには欠かせない手段の一つである。本講義では、経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、現実の経済社会の動向を経済統計資料に基づいて分析する方法を明らかにする。したがって、講義では『国民経済計算』(SNA)を用いた国民経済の分析や『産業連関表』に基づいた産業構造の分析などが紹介される。分析の事例としては、日本経済はもとより、中国経済をとりあげることもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。また、「経済統計学特論1」もしくは「経済統計学特研1」履修済みの大学院生の履修が望まれる。																						
到達目標	①経済分析の面白さを実感することができる。 ②経済統計資料の重要性を認識することができる。 ③経済社会の変化を分析する基本技法を習得することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	①『日本経済新聞』の社説や経済関係の記事をよく読むこと。 ②Excelなど応用ソフトの操作方法を独学すること。 ③与えられた研究課題を完成するために文献の調査や学習を行うこと。 ④授業の内容を理解するために復習すること。 必要な授業外学修時間は60時間以上である。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 中国の産業連関表</td> <td>【第8回】 工業統計②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 日本・中国国際産業連関表</td> <td>【第9回】 商業統計①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 日中両国産業構造の比較①</td> <td>【第10回】 商業統計②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 日中両国産業構造の比較②</td> <td>【第11回】 サービス統計①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 一次統計と二次統計</td> <td>【第12回】 サービス統計②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 物価指数とデフレーター</td> <td>【第13回】 授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 工業統計①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 中国の産業連関表	【第8回】 工業統計②	【第2回】 日本・中国国際産業連関表	【第9回】 商業統計①	【第3回】 日中両国産業構造の比較①	【第10回】 商業統計②	【第4回】 日中両国産業構造の比較②	【第11回】 サービス統計①	【第5回】 一次統計と二次統計	【第12回】 サービス統計②	【第6回】 物価指数とデフレーター	【第13回】 授業内容のまとめ	【第7回】 工業統計①	
【第1回】 中国の産業連関表	【第8回】 工業統計②																						
【第2回】 日本・中国国際産業連関表	【第9回】 商業統計①																						
【第3回】 日中両国産業構造の比較①	【第10回】 商業統計②																						
【第4回】 日中両国産業構造の比較②	【第11回】 サービス統計①																						
【第5回】 一次統計と二次統計	【第12回】 サービス統計②																						
【第6回】 物価指数とデフレーター	【第13回】 授業内容のまとめ																						
【第7回】 工業統計①																							
成績評価の方法	修士課程受講生：中間レポート：50%、期末レポート50%。 博士課程受講生：中間レポート：30%、期末レポート30%、研究発表（1回）40%。 ※研究発表：授業内発表、授業内容関連のもの。																						
フィードバックの内容	提出レポートや授業内発表について教員はコメントをする。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『経済統計』中島隆信、木村福成、北村行伸、新保一成（東洋経済新報社）2000、『実証経済分析の基礎』中島隆信、吉岡完治（編）（慶應義塾大学出版会）1997、『人文・社会科学お統計学』東京大学教養学部統計学教室（東京大学出版会）1995																						
教員からのお知らせ	教科書は一回目授業の時に受講生と相談して決める。																						
オフィスアワー	2号館511研究室、木曜日18:00-19:00（6限）																						
アクティブラーニングの内容	この授業では、演習形式で行う場合もあるため、教室では意見共有を重視し、また授業外での能動的な学習も推奨している。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	13C0104301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	景気循環論特研3				担当教員		浅子 和美	開講期	
履修前条件					備考				
授業の目的	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 なお、本講義は修士課程「景気循環論特論3」との合同授業でもある。								
到達目標	「景気循環論特論3」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。 「景気循環論特研3」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論3」では60時間、「景気循環論特研3」では90時間）。								
授業計画	【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1) 【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2) 【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3) 【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4) 【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5) 【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6) 【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7) 【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8) 【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9) 【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10) 【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11) 【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12) 【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対する学術論文の提出(70%)。未完でも可だが、それなりのクオリティが要求される。								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

博士後期課程

講義コード	13C0104401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	浅子 和美	開講期	第2期
科目名	景気循環論特研4								
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に、景気循環全般をテーマとするが、本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能性」及びその関連テーマを中心に、理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について、先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。</p> <p>なお、本講義は博士後期課程「景気循環論特論4」との合同授業でもある。</p>								
到達目標	<p>「景気循環論特論4」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解する。 課題解決や政策提言のための基本技法を修得し、レポート等を作成する。</p> <p>「景気循環論特研4」の到達目標 景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し、課題解決の方向を理解し、政策提言に至る。 研究者としての視点から、課題解決や政策提言のための基本技法を応用し、学術論文を作成する。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに、相応の準備が必要となるが、それに積極的に取り組む必要がある（「景気循環論特論4」では60時間、「景気循環論特研4」では90時間）。</p>								
授業計画	<p>【第1回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(1)</p> <p>【第2回】履修者が確定した段階で、履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し、それに合わせた授業計画を立てる。その目的で、各自の希望を話してもらう。(2)</p> <p>【第3回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(1)</p> <p>【第4回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(2)</p> <p>【第5回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(3)</p> <p>【第6回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(4)</p> <p>【第7回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(5)</p> <p>【第8回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(6)</p> <p>【第9回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(7)</p> <p>【第10回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(8)</p> <p>【第11回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(9)</p> <p>【第12回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)</p> <p>【第13回】順次、取り上げるテキスト論文を対象に、それぞれの分析手法や分析結果を解説し、問題点や発展方向を示す。この際、各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に、レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(30%)と課題に対するレポート提出(70%)								
フィードバックの内容	レポートや学術論文には丁寧にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	レポートや論文のプレゼンテーション グループ・ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									





講義コード	13C0104901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	川口 真一	開講期	第1期
科目名	財政学特研1				川口 真一		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	租税に関する研究は、学問的には財政学（経済学）にとどまらず、税法（法学）、税務会計（会計学）などの分野とも関連している。すべての学問分野を考慮して租税を分析することが理想的ではあるが、それは非常に困難である。したがって、本講義では、租税に対する経済学的思考を身につけ、財政学の立場から現実の税制を理論的に評価できるようになることを目的とする。 なお、本講義は博士後期課程「財政学特研1」との合同授業でもある。								
到達目標	租税理論を学ぶことにより、現実の税制を分析・評価することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	ミクロ経済学の基礎を理解しておくこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 租税理論を修得する。(1) 【第2回】 租税理論を修得する。(2) 【第3回】 租税理論を修得する。(3) 【第4回】 租税理論を修得する。(4) 【第5回】 租税理論を修得する。(5) 【第6回】 租税理論を修得する。(6) 【第7回】 租税理論を修得する。(7) 【第8回】 租税理論を修得する。(8) 【第9回】 租税理論を修得する。(9) 【第10回】 租税理論を修得する。(10) 【第11回】 租税に関する論文を輪読する。(1) 【第12回】 租税に関する論文を輪読する。(2) 【第13回】 租税に関する論文を輪読する。(3)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）および授業中の発表（50%）で評価する								
フィードバックの内容									
教科書	『財政学をつかむ〔第3版〕』畑農鋭矢、林正義、吉田浩（有斐閣）2024.3								
指定図書	授業時に指示する。								
参考書	授業時に指示する。								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0105001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	川口 真一	開講期	第2期
科目名	財政学特研2				川口 真一		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	租税に関する研究は、学問的には財政学（経済学）にとどまらず、税法（法学）、税務会計（会計学）などの分野とも関連している。すべての学問分野を考慮して租税を分析することが理想的ではあるが、それは非常に困難である。したがって、本講義では、租税に対する経済学的思考を身につけ、財政学の立場から現実の税制を理論的に評価できるようになることを目的とする。 なお、本講義は博士後期課程「財政学特研2」との合同授業でもある。								
到達目標	租税理論を学ぶことにより、現実の税制を分析・評価することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	ミクロ経済学の基礎を理解しておくこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 租税に関する論文を輪読する。(1) 【第2回】 租税に関する論文を輪読する。(2) 【第3回】 租税に関する論文を輪読する。(3) 【第4回】 租税に関する論文を輪読する。(4) 【第5回】 租税に関する論文を輪読する。(5) 【第6回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(1) 【第7回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(2) 【第8回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(3) 【第9回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(4) 【第10回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(5) 【第11回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(6) 【第12回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(7) 【第13回】 わが国の税制における問題点について、ディスカッションを行う。(8)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）および授業中の発表（50%）で評価する								
フィードバックの内容									
教科書	『財政学をつかむ〔第3版〕』畑農鋭矢、林正義、吉田浩（有斐閣）2024.3								
指定図書	授業時に指示する。								
参考書	授業時に指示する。								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0105301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第1期
科目名	国際経済学特研1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論1」と博士後期課程「国際経済学特研1」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。文献リストについても、初回授業時に配付する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0105401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	第2期
科目名	国際経済学特研2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論2」と博士後期課程「国際経済学特研2」を合同で実施する。								
到達目標	修士： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 博士後期： (1) 国際貿易論の基礎的概念を理解している。 (2) 基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。 (3) 国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回の授業で扱うトピックについて、教科書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、教科書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第7回】 教科書の発表と討論6 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	修士：平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により成績を評価する。 博士後期：平常点(20%)、発表(20%)、レポート(40%)に加えて、研究報告(20%)により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。文献リストについても、初回授業時に配付する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0105701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	国際金融論特研1				畠山 久志		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、授業はこれまでの基礎的な事項の確認と現代の国際金融が動いている背景を歴史的に捉えようとするものである。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研3」との合同授業である。						
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な金融に係る基礎事項を歴史から習得し①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを把握し、今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。必要な教科書以外の図書はその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。						
授業計画	国際金融の理解に必要な事項について学びます。 【第1回】 国際金融とは何か。 【第2回】 国際収支1 【第3回】 国際収支2 【第4回】 対外決済の仕組み1 貿易 【第5回】 対外決済の仕組み2 先物 【第6回】 外国為替市場1 基軸通貨 【第7回】 外国為替市場2 【第8回】 外国為替相場の決定理論1 購買力平価 【第9回】 外国為替相場の決定理論2 【第10回】 国際通貨制度 プレトンウッズ体制 IMF 世銀 【第11回】 ニクソンショック後(変動相場制)における経済政策の効果 【第12回】 デジタル時代の国際通貨 【第13回】 通貨危機、ソブリンリスク						
成績評価の方法	講義内容に関する期末レポート(80%)、質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。						
フィードバックの内容	講義内容は、事前にオンライン授業に資料掲示します。また質問や意見、追加説明などは、まとめて期末にペーパー化し、共有します。						
教科書	『国際金融論入門』佐々木百合(新世社)2017						
指定図書	『金融の世界現代史』国際銀行史研究会(一色出版)2018、『金融の世界史』板谷俊彦(新潮社)2013、『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト(フォレスト出版)2010、『ロンバート街』バジョウット(岩波書店)1994						
参考書	『通貨の悪戯』ミルトンフリードマン(三田出版会)1993、『貨幣と通貨の法文化』林康史(国際書院)2016						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	項目ごとの解説・プレゼンテーションに基づき、内容、考え方、分析方法等についてディスカッションをする。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	13C0105801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	国際金融論特研2				畠山 久志		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、本授業は前期の学習(国際金融の基礎知識)を前提にこれまでの国際金融上のイベントについて、論理的な分析力を習得し、歴史的な位置付け等について理解を深める。イベントは基本的に近世、近代の貿易を中心とした国際金融上の事象である。なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研4」との合同授業である。						
到達目標	国際金融論の理解に不可欠な基礎事項である①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを市場参加者の視点から把握し、国際金融全体の課題を考え今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎事項の予習復習をおこなうこと。教科書は当然であるが、以外の図書をその都度指定・配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。						
授業計画	【第1回】 国際金融論の論理とイベント 概説 【第2回】 中世の国際金融1 キリスト教 金融の否定 【第3回】 中世の国際金融2 地中海交易と冒険貸借 【第4回】 中世の国際金融3 イスラム金融 【第5回】 中世の国際金融 十字軍 為替と信託 【第6回】 中世の国際金融 会社と複式簿記 【第7回】 大航海時代の国際貿易 新大陸への進出 【第8回】 黄金期のオランダ1 東インド会社、西インド会社 【第9回】 黄金期のオランダ2 アムステルダム証券取引所とアムステルダム為替銀行 【第10回】 産業革命期のイギリスとフランス 重商主義 重農主義 公会計 【第11回】 覇権国イギリス1 株式会社制度の法定 中央銀行制度の確立 【第12回】 覇権国イギリス2 損害保険会社、ロンバート街 【第13回】 債権国アメリカ ウォールストリート						
成績評価の方法	期末レポート(80%)と質問や意見など授業に対する参加態度(20%)で評価します。						
フィードバックの内容	授業の内容を事前にオンライン授業で掲示します。また質問や意見、追加説明などはまとめて期末にペーパー化し、共有します。						
教科書	『帳簿の世界史』ジェイコブソール(文藝春秋)2018						
指定図書	『マネーセンターの興亡』高橋琢磨(日経出版社)1999、『ヘゲモニー国家と世界システム』松田武・秋田茂(山川出版)2002、『最初の近代経済』J・ド・フリース(名古屋大学出版会)2009						
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	講義の内容について、質問、意見交換等、ディスカッションをします。修士論文等の作成手順などの情報交換をする。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	13C0105901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	第1期
科目名	<b>国際金融論特研3</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究3」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第13回】 まとめ 【第7回】 教科書の発表と討論6								
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 下：金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト 国際金融論 第3版』 藤井 英次 (著) (新世社) 2024, 『International Macroeconomics and Finance : Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0106001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	第2期
科目名	<b>国際金融論特研4</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして、議論する。 なお、本授業は博士後期課程の「国際金融特研究4」との合同授業である。								
到達目標	修士： (1) 国際金融論の基礎的概念を理解している (2) 国際金融論の基本理論を理解している (3) 国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる 博士後期： (1) 国際金融論の基礎的概念を説明できる (2) 国際金融論の基本理論を説明できる (3) 国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	修士：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 博士後期：各回で扱うトピックについて、教科書や参考書の当該部分を読み、予習を行うこと。授業後は、授業資料や議論を踏まえて、復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、参考書や学術論文についても取り上げる。 【第1回】 イントロダクション 【第8回】 教科書の発表と討論7 【第2回】 教科書の発表と討論1 【第9回】 教科書の発表と討論8 【第3回】 教科書の発表と討論2 【第10回】 教科書の発表と討論9 【第4回】 教科書の発表と討論3 【第11回】 教科書の発表と討論10 【第5回】 教科書の発表と討論4 【第12回】 教科書の発表と討論11 【第6回】 教科書の発表と討論5 【第13回】 まとめ 【第7回】 教科書の発表と討論6								
成績評価の方法	修士：平常点 (50%)、発表 (50%) により成績を評価する。 修士：平常点 (40%)、発表 (40%)、研究報告 (20%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題や報告に対するコメントを授業時に行う。								
教科書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 下：金融編』 Paul R. Krugman (著), Maurice Obstfeld (著), Marc J. Melitz (著), 山形 浩生 (翻訳), 守岡 桜 (翻訳) (丸善出版) 2017/ 1 /19								
指定図書	『コア・テキスト 国際金融論 第3版』 藤井 英次 (著) (新世社) 2024, 『International Macroeconomics and Finance : Theory and Econometric Methods』 Nelson C. Mark (著) (John Wiley & Sons) 2001/ 8 / 8								
参考書									
教員からのお知らせ	マクロ経済学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0106101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第1期														
科目名	地域経済特研1																						
履修前提条件					備考																		
授業の目的	本講義では広い視点——歴史、社会、制度、比較制度分析、技術移転など——から中国の経済成長メカニズムを分析・研究する。移行期にあたる中国の経済システムがどのように再構築されていくか。また、どの方向に向かっているか。今年度の講義では、特定の産業分野に絞り込んでいく。大学院の授業のため、講義運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしていきたい。																						
到達目標	1. 中国の経済システムの歴史的变化および現状を理解することができる； 2. 中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 前期イントロダクション</td> <td>【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)</td> <td>【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)</td> <td>【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)</td> <td>【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)</td> <td>【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)</td> <td>【第13回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 前期イントロダクション	【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)	【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)	【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)	【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)	【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)	【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)	【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)	【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)	【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)	【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)	【第13回】 総括	【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)	
【第1回】 前期イントロダクション	【第8回】 最新研究書籍の輪読・討論 (7)																						
【第2回】 最新研究書籍の輪読・討論 (1)	【第9回】 最新研究書籍の輪読・討論 (8)																						
【第3回】 最新研究書籍の輪読・討論 (2)	【第10回】 最新研究書籍の輪読・討論 (9)																						
【第4回】 最新研究書籍の輪読・討論 (3)	【第11回】 最新研究書籍の輪読・討論 (10)																						
【第5回】 最新研究書籍の輪読・討論 (4)	【第12回】 最新研究書籍の輪読・討論 (11)																						
【第6回】 最新研究書籍の輪読・討論 (5)	【第13回】 総括																						
【第7回】 最新研究書籍の輪読・討論 (6)																							
成績評価の方法	1. 出席30% 2. プレゼンテーション40% 3. 討論参加30%																						
フィードバックの内容	輪読・報告に対するコメントを授業時に行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。																						
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	13C0106201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期														
科目名	地域経済特研2																						
履修前提条件					備考																		
授業の目的	前期の授業に引き続き、本授業では中国の経済成長メカニズムを分析・研究する。つまり、現在の中国の経済に関わる諸制度がどのように変化していくかを問題意識として研究する。講義では、特定のテーマに絞り込んで討議する。講義は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるディスカッションを活発にしていきたい。																						
到達目標	1. 中国の経済システムの歴史的变化および現状を理解することができる； 2. 中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第14回】 後期イントロダクション</td> <td>【第21回】 最新研究書籍の輪読・討論 (18)</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 最新研究書籍の輪読・討論 (12)</td> <td>【第22回】 最新研究書籍の輪読・討論 (19)</td> </tr> <tr> <td>【第16回】 最新研究書籍の輪読・討論 (13)</td> <td>【第23回】 最新研究書籍の輪読・討論 (20)</td> </tr> <tr> <td>【第17回】 最新研究書籍の輪読・討論 (14)</td> <td>【第24回】 最新研究書籍の輪読・討論 (21)</td> </tr> <tr> <td>【第18回】 最新研究書籍の輪読・討論 (15)</td> <td>【第25回】 最新研究書籍の輪読・討論 (22)</td> </tr> <tr> <td>【第19回】 最新研究書籍の輪読・討論 (16)</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第20回】 最新研究書籍の輪読・討論 (17)</td> <td></td> </tr> </table>									【第14回】 後期イントロダクション	【第21回】 最新研究書籍の輪読・討論 (18)	【第15回】 最新研究書籍の輪読・討論 (12)	【第22回】 最新研究書籍の輪読・討論 (19)	【第16回】 最新研究書籍の輪読・討論 (13)	【第23回】 最新研究書籍の輪読・討論 (20)	【第17回】 最新研究書籍の輪読・討論 (14)	【第24回】 最新研究書籍の輪読・討論 (21)	【第18回】 最新研究書籍の輪読・討論 (15)	【第25回】 最新研究書籍の輪読・討論 (22)	【第19回】 最新研究書籍の輪読・討論 (16)	【第26回】 総括	【第20回】 最新研究書籍の輪読・討論 (17)	
【第14回】 後期イントロダクション	【第21回】 最新研究書籍の輪読・討論 (18)																						
【第15回】 最新研究書籍の輪読・討論 (12)	【第22回】 最新研究書籍の輪読・討論 (19)																						
【第16回】 最新研究書籍の輪読・討論 (13)	【第23回】 最新研究書籍の輪読・討論 (20)																						
【第17回】 最新研究書籍の輪読・討論 (14)	【第24回】 最新研究書籍の輪読・討論 (21)																						
【第18回】 最新研究書籍の輪読・討論 (15)	【第25回】 最新研究書籍の輪読・討論 (22)																						
【第19回】 最新研究書籍の輪読・討論 (16)	【第26回】 総括																						
【第20回】 最新研究書籍の輪読・討論 (17)																							
成績評価の方法	1. 出席30% 2. プレゼンテーション40% 3. 討論参加30%																						
フィードバックの内容	輪読・報告に対するコメントを授業時に行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。																						
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	13C0106701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	第1期
科目名	開発経済学特研3				芹田 浩司		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>本授業は、前期においてはラテンアメリカ経済に関する主要文献を解説を加えつつ講読することや、等を通じてまた、(受講人数にもよるが)隔週位のペースでレポートを提出してもらい、それを基に議論を深めること等を通じて同経済の理解をより深めることを目的とする。</p> <p>また後期においては、前期からの文献講読に加えて、80年代以降に開発戦略の転換やその意義、また経済グローバル化のラテンアメリカ経済(産業)に対する影響等の問題について考察を進めていくことを主な目的とする。</p> <p>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。</p>								
到達目標	ラテンアメリカを中心とする発展途上国経済や、発展途上国と先進国との関係について深く学ぶことを通じて、世界経済に関する知見を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの該当箇所を読み、分からないところがあれば調べてくること。またレポート課題がある時は、提出期限までにレポートを作成・提出すること。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	<p>【第1回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(1)</p> <p>【第2回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(2)</p> <p>【第3回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(3)</p> <p>【第4回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(4)</p> <p>【第5回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(5)</p> <p>【第6回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(6)</p> <p>【第7回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(7)</p> <p>【第8回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(8)</p> <p>【第9回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(9)</p> <p>【第10回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(10)</p> <p>【第11回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(11)</p> <p>【第12回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(12)</p> <p>【第13回】総復習・質問受け付け等</p>								
成績評価の方法	原則として授業への取り組み姿勢(20%)、報告・討論(40%)および課題(レポート等)(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告に対する講評を随時実施する。また課題に対するアドバイスを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『The Economic History of Latin America Since Independence』Victor Bulmer-Thomas(Cambridge University Press)2003								
教員からのお知らせ	授業中に講読する文献(テキスト)については開講時に指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 教員からのフィードバックによる振り返り</li> <li>- 能動的な授業外学習</li> <li>- ディベート</li> </ul>								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0106801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	第2期
科目名	開発経済学特研4				芹田 浩司		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>本授業は、前期においてはラテンアメリカ経済に関する主要文献を解説を加えつつ講読することや、等を通じてまた、(受講人数にもよるが)隔週位のペースでレポートを提出してもらい、それを基に議論を深めること等を通じて同経済の理解をより深めることを目的とする。</p> <p>また後期においては、前期からの文献講読に加えて、80年代以降に開発戦略の転換やその意義、また経済グローバル化のラテンアメリカ経済(産業)に対する影響等の問題について考察を進めていくことを主な目的とする。</p> <p>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。</p>								
到達目標	ラテンアメリカを中心とする発展途上国経済や、発展途上国と先進国との関係について深く学ぶことを通じて、世界経済に関する知見を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの該当箇所を読み、分からないところがあれば調べてくること。またレポート課題がある時は、提出期限までにレポートを作成・提出すること。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	<p>【第1回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(1)</p> <p>【第2回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(2)</p> <p>【第3回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(3)</p> <p>【第4回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(4)</p> <p>【第5回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(5)</p> <p>【第6回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(6)</p> <p>【第7回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(7)</p> <p>【第8回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(8)</p> <p>【第9回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(9)</p> <p>【第10回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(10)</p> <p>【第11回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(11)</p> <p>【第12回】ラテンアメリカ経済に関する文献講読および解説、レポート等を基にした議論、受講生による報告等。(12)</p> <p>【第13回】総復習・質問の受付等</p>								
成績評価の方法	原則として授業への取り組み姿勢(20%)、報告・討論(40%)および課題(レポート等)(40%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告に対する講評を随時実施する。また課題に対するアドバイスを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『The Economic History of Latin America Since Independence』Victor Bulmer-Thomas(Cambridge University Press)2003								
教員からのお知らせ	授業中に講読する文献(テキスト)については開講時に指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 教員からのフィードバックによる振り返り</li> <li>- 能動的な授業外学習</li> <li>- ディベート</li> </ul>								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0106901	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第1期
科目名	経済学史特研1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の中頃までの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて教科書を輪読する。 なおこの授業は、博士前期課程「経済学史特論1」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、研究者として詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を研究者として説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が教科書の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや教科書・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】19世紀の中頃までの経済学の歴史</p> <p>【第2回】木村・瀬尾・益永(2022)①—A. スミス以前の経済思想(第1章)</p> <p>【第3回】木村・瀬尾・益永(2022)②—A. スミス(第2章)</p> <p>【第4回】木村・瀬尾・益永(2022)③—D. リカードウとT. R. マルサス(第3章)</p> <p>【第5回】木村・瀬尾・益永(2022)④—J. S. ミル(第4章)</p> <p>【第6回】木村・瀬尾・益永(2022)⑤—ヨーロッパ大陸の諸思想(第5章)</p> <p>【第7回】木村・瀬尾・益永(2022)⑥—なぜ異端派経済学が必要なのか(第11章)</p> <p>【第8回】木村・瀬尾・益永(2022)⑦—K. マルクス(第12章)</p> <p>【第9回】三土(1993)①—経済学史を学ぶにあたって(第1章)</p> <p>【第10回】三土(1993)②—古典派以前の経済学(第2章)</p> <p>【第11回】三土(1993)③—A. スミスの経済学(第3章)</p> <p>【第12回】三土(1993)④—D. リカードウの経済学(第4章)</p> <p>【第13回】三土(1993)⑤—K. マルクスの経済学(第5章)</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告(30%)、議論を含む授業への取り組み姿勢(20%)、およびレポート(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『学ぶほどおもしろい経済学史』木村雄一、瀬尾崇、益永淳著(晃洋書房)2022、『経済学史』三土修平著(新世社)1993								
指定図書	『経済学史』小峯敦著(ミネルヴァ書房)2021、『経済学史——経済理論誕生の経緯をたどる』野原慎司、沖公祐、高見典和著(日本評論社)2019、『経済学史への招待』柳沢哲哉著(社会評論社)2018、『経済思想』猪木武徳著(岩波書店)2017、『経済学史』喜多見洋、水田健編著(ミネルヴァ書房)2012、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎編(名古屋大学出版会)2006、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』中村達也、八木紀一郎、新村聡、井上義朗著(有斐閣)2001、『経済学史』馬渡尚憲著(有斐閣)1997、『A Brief History of Economic Thought』Alessandro Roncaglia(Cambridge University Press)2017、『History of Economic Thought: A Critical Perspective(3rd edition)』E. K. Hunt, Mark Lautzenheiser(Routledge)2011								
参考書	『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L. ハイルブローナー著;中村達也[ほか]訳(筑摩書房)2003、『The History of Economic Thought: A Reader(Second Edition)』Steven G Medema, Warren J. Samuels(eds.)(Routledge)2013、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ著;松尾恭子訳(原書房)2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄、荒憲治郎、森口親司編(有斐閣)2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								
実践的な教育内容									
その他									



講義コード	13C0107001	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	小沢 佳史	開講期	第2期
科目名	経済学史特研2								
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の中頃までの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて古典を輪読する。 なおこの授業は、博士前期課程「経済学史特論2」との合同授業である。								
到達目標	1. 現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、古典に基づき、研究者として詳しく説明できる。 2. 現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を研究者として説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が古典の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや古典・指定図書該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。								
授業計画	<p>【第1回】19世紀の中頃までの経済学の歴史と、A. スミスの学問体系および経済学</p> <p>【第2回】スミスの『国富論』①——序論および本書の構想</p> <p>【第3回】スミスの『国富論』②——第1編（前半）</p> <p>【第4回】スミスの『国富論』③——第1編（中間）</p> <p>【第5回】スミスの『国富論』④——第1編（後半）</p> <p>【第6回】スミスの『国富論』⑤——第2編（前半）</p> <p>【第7回】スミスの『国富論』⑥——第2編（後半）</p> <p>【第8回】スミスの『国富論』⑦——第3編（前半）</p> <p>【第9回】スミスの『国富論』⑧——第3編（後半）</p> <p>【第10回】スミスの『国富論』⑨——第4編（前半）</p> <p>【第11回】スミスの『国富論』⑩——第4編（後半）</p> <p>【第12回】スミスの『国富論』⑪——第5編（前半）</p> <p>【第13回】スミスの『国富論』⑫——第5編（後半）</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告（30%）、議論を含む授業への取り組み姿勢（20%）、およびレポート（50%）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『国富論Ⅰ』アダム・スミス 著；大河内一男 監訳（中央公論新社）2020、『国富論Ⅱ』アダム・スミス 著；大河内一男 監訳（中央公論新社）2020、『国富論Ⅲ』アダム・スミス 著；大河内一男 監訳（中央公論新社）2020								
指定図書	『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一、瀬尾崇、益永淳 著（晃洋書房）2022、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『A Brief History of Economic Thought』Alessandro Roncaglia（Cambridge University Press）2017、『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート・L.ハイルブローナー 著；中村達也 [ほか] 訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader (Second Edition)』Steven G Medema, Warren J. Samuels (eds.) (Routledge) 2013、『アダム・スミス——『道徳感情論』と『国富論』の世界』堂目卓生 著（中央公論新社）2008、『アダム・スミス——自由主義とは何か』水田洋 著（講談社）1997、『アダム・スミスの生涯と著作』デューゴルド・ステュアート 著；福鎌忠恕 訳（御茶の水書房）1984								
参考書	『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄、荒憲治郎、森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ	履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。								
実践的な教育内容									
その他									

博士後期課程

講義コード	13C0107301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第1期
科目名	日本経済論特研1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は修士課程の「日本経済特論1」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指定されるリーディングリストを事前に読み、理解する。自身の学習・研究目的も踏まえ予習・復習を行う。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・国民経済計算からみた日本経済 【第2回】 文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	輪読、討論などの内容について講義内で講評・解説を行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『日本経済のマクロ分析』 鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子 (日本経済新聞出版社) 2019年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0107401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	第2期
科目名	日本経済論特研2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。 なお、本講義は修士課程の「日本経済特論2」との合同授業である。								
到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につく、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各自がテーマを選定し、自身の学習・研究を進め発表の準備を行う。発表後は得た質問なども踏まえ自らの理解を適宜修正・発展させる。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 概論・文献等の輪読、質問及び討論 (1) 【第2回】 文献等の輪読、質問及び討論 (2) 【第3回】 文献等の輪読、質問及び討論 (3) 【第4回】 文献等の輪読、質問及び討論 (4) 【第5回】 文献等の輪読、質問及び討論 (5) 【第6回】 文献等の輪読、質問及び討論 (6) 【第7回】 文献等の輪読、質問及び討論 (7) 【第8回】 文献等の輪読、質問及び討論 (8) 【第9回】 文献等の輪読、質問及び討論 (9) 【第10回】 文献等の輪読、質問及び討論 (10) 【第11回】 文献等の輪読、質問及び討論 (11) 【第12回】 文献等の輪読、質問及び討論 (12) 【第13回】 文献等の輪読、質問及び討論 (13)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) 及び期末レポート (60%) により総合的に判定します。第1回講義で説明します。								
フィードバックの内容	学生が選定したテーマやそれに関するリーディングリスト等を配布し、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『日本経済のマクロ分析』 鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子 (日本経済新聞出版社) 2019年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションを行います。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0107701	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学特研1				戎野 淑子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	受講生の研究テーマに基づき、内容を検討したい。具体的な授業については、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にし ながら、議論を行う。 なお、本講義は、大学院博士後期課程「労働経済学特研1」との合同である。								
到達目標	「労働経済学特論1」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。 「労働経済学特研1」 各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	「労働経済学特論1」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする) 「労働経済学特研1」 輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	【第1回】 ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、テーマ等について相談し決める。 【第2回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(1) 【第3回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(2) 【第4回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(3) 【第5回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(4) 【第6回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(5) 【第7回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(6) 【第8回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(7) 【第9回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(8) 【第10回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(9) 【第11回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(10) 【第12回】 順次テキストを輪読し発表を行う。概ね1講義で1/2chapter 進み、1年間で一冊勉強する予定。(11) 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	レポート50%、授業での発表・討論50%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『Employment Relations』 Ed Rose (Printice Hall) 2008、『雇用システム論』佐口和郎(有斐閣)2018								
指定図書	『労働経済白書』厚生労働省(日経印刷株式会社)2024年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い、次週にフィードバックを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0107801	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	第2期
科目名	労働経済学特研2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	受講生と相談し、興味関心あるテーマを選びたい。ただ、まず、広く雇用問題に焦点をあて、文献研究を行い、特に、日本の雇用関係の変容について、歴史的な比較分析とともに国際比較を行う。そして、その中で、具体的テーマを絞っていく予定である。授業の進め方は、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしなが、議論を行う。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。								
到達目標	「労働経済学特研2」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。 「労働経済学特論2」 自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	「労働経済学特研2」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする) 「労働経済学特論2」 輪読の準備、自分の論文の研究の準備 (60時間を必要とする)								
授業計画	【第1回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(1) 【第2回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(2) 【第3回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(3) 【第4回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(4) 【第5回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(5) 【第6回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(6) 【第7回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(7) 【第8回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(8) 【第9回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(9) 【第10回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(10) 【第11回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(11) 【第12回】 順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。 適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(12) 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	レポート70%、授業での発表・討論30%								
フィードバックの内容	フィードバックは次回授業までに行う								
教科書	『人的資本管理の力』白木三秀編著(文真堂)2018年、『Employment Relations』Ed Rose(Printice Hall)2008								
指定図書									
参考書	『労働経済白書』厚生労働省(日経印刷)2024年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い、次週にそのフィードバックを行う								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0108101	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史特研1				高橋 美由紀		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	古代から近代19世紀までの日本経済の歴史を学ぶ。教科書の輪読を中心に、実際に授業内で読みながら討論をおこなう。履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	古代から19世紀までの日本経済の歴史について多様な観点から客観的に論述できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書の指定箇所を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。(計65時間)								
授業計画	教科書 第I部および第II部 【第1回】日本経済の歴史をどのような視点で見るとか 【第2回】宗教を基底に置く社会の「市場経済」 【第3回】古代の日本経済：中国文明と日本の初期農耕社会～ 【第4回】古代の日本経済：産業構成と社会編成～ 【第5回】中世の日本経済：対中貿易と東アジア経済～ 【第6回】中世の日本経済：都市工業の成長と商人仲間～ 【第7回】17世紀の日本経済：身分的制約の下での「市場経済」～ 【第8回】17世紀の日本経済：近世商人の有情と幕藩制的全国市場の成立～ 【第9回】18世紀の日本経済：「日本型華夷秩序」意識と東アジア経済～ 【第10回】18世紀の日本経済：手工業技術の伝播と特産物生産の進展～ 【第11回】18世紀の日本経済：家族小経営と村落共同体～ 【第12回】19世紀の日本経済：「開国」と自由貿易世界 【第13回】19世紀の日本経済：銀貨低落と経済施策								
成績評価の方法	博士課程で研究するものとして必要な基礎知識の習得度合い(40%)、それを基礎に講義に参加し自分の主張が述べられているか(60%)。								
フィードバックの内容	講義内で質疑応答をおこなう。レポート等を課した場合は、翌週にコメントを付して返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡(名古屋大学出版会)2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する可能性がある。Microsoft TeamsでTeamを作るので、ポータルサイトで案内するTeamコードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書は新年度に改定になる可能性があるため、教員からの連絡を待って購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールやチャットにても受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	毎回の授業の中で、自己の意見を述べてもらっている。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0108201	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第2期
科目名	日本経済史特研2				高橋 美由紀		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	1920年～60年を中心とした日本経済の歴史を学ぶ。また、履修者の希望に添った内容に変更することもある。 ※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。								
到達目標	1920年～60年を中心とした日本経済の歴史について具体的に論述でき、自己の意見として論理的にプレゼンテーションも出来ること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考資料を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。(計65時間)								
授業計画	教科書『日本経済の歴史』第III部第6章および第7章を扱う 【第1回】商法の制定と金本位制 【第2回】国際収支の天井と経済政策 【第3回】産業革命と工業化 【第4回】地主制の展開と植民地農業 【第5回】交通網の変容と商品流通 【第6回】都市化と生活環境 【第7回】産業革命研究の新展開 【第8回】ジェンダー・労働市場研究の新展開 【第9回】モダニズムと大衆消費社会 【第10回】ブロック経済から金本位制へ 【第11回】高橋財政から戦後経済政策へ 【第12回】「内需」主導の重化学工業化 【第13回】地主制の後退と戦後農政  各授業では関係する著作等について一緒に輪読をおこなう。								
成績評価の方法	講義における大学院で習得した知識を踏まえた報告(60%)、授業態度(40%)。								
フィードバックの内容	毎回の講義で質疑応答をおこなう。また、提出物を課した場合には翌週に添削をして返却する。								
教科書	『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西 聡(名古屋大学出版会)2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する可能性がある。Microsoft TeamsでTeamを作るので、ポータルサイトで案内するTeamコードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。 教科書は新年度に改定になる可能性があるため、教員からの連絡を待って購入すること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールおよびチャット等でも随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	毎回の授業の中では、各自の意見を述べてもらう。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0109301	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第1期
科目名	計量経済学特研1				宮川 幸三		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>本科目では、計量経済学の基礎的な手法を取り上げながら、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の基礎的な手法を習得することを目的とする。具体的には、回帰分析の手法を中心にとりあげ、講義だけでなく、Excel、R、Stataといった統計解析用ソフトウェアを用いたパソコン演習や分析結果についてのプレゼンテーションも行う。</p> <p>なお、本科目は修士課程「計量経済学特論1」との合同授業である。</p>								
到達目標	<p>計量経済分析の手法を習得し、自らの研究に応用できる。 統計解析用ソフトウェアの使用方法を習得し、自らの研究に応用できる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業の内容を理解するために予習・復習すること。 授業内容に関する論文を読むこと。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】本講義の目的と概要 【第2回】計量経済学とは 【第3回】古典的2変数回帰モデル 【第4回】K変数回帰モデル(1) 【第5回】K変数回帰モデル(2) 【第6回】古典的K変数回帰モデル(1) 【第7回】古典的K変数回帰モデル(2) 【第8回】K変数回帰モデルの応用(1) 【第9回】K変数回帰モデルの応用(2) 【第10回】モデルの定式化(1) 【第11回】モデルの定式化(2) 【第12回】多重共線性(1) 【第13回】多重共線性(2)</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(50%)、プレゼンテーションおよびレポートの内容(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書	『計量経済学(第2版)』浅野 哲、中村 二郎(有斐閣)2009年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	経済学研究科修士課程レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									
講義コード	13C0109401	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	第2期
科目名	計量経済学特研2				宮川 幸三		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>本科目では、計量経済学の基礎的な手法を取り上げながら、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の基礎的な手法を習得することを目的とする。具体的には、計量経済学特研1で学んだ内容を前提としながら、より進んだ分析手法を学ぶとともに、自らの研究テーマについて行った計量分析に関するプレゼンテーションを行う。</p> <p>なお、本科目は修士課程「計量経済学特論2」との合同授業です。</p>								
到達目標	様々な応用分析の手法を習得し、自らの研究に応用できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業の内容を理解するために予習・復習すること。 授業内容に関する論文を読むこと。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】本講義の目的と概要 【第2回】一般化古典的回帰モデル(1) 【第3回】一般化古典的回帰モデル(2) 【第4回】説明変数と攪乱項の相関(1) 【第5回】説明変数と攪乱項の相関(2) 【第6回】最尤法(1) 【第7回】最尤法(2) 【第8回】質的従属変数(1) 【第9回】質的従属変数(2) 【第10回】切断された従属変数 【第11回】パネルデータ分析(1) 【第12回】パネルデータ分析(2) 【第13回】まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(50%)、プレゼンテーションおよびレポートの内容(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書	『計量経済学(第2版)』浅野 哲、中村 二郎(有斐閣)2009年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	経済学研究科修士課程レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	13C0109704	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (戎野)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109705	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (苑)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109706	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	王 在喆	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (王在喆)				王 在喆			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109707	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (小野崎)				小野崎 保			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			



講義コード	13C0109708	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	川口 真一	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (川口)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109709	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (河原)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109710	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (北原)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109711	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (芹田)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109712	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (高橋)				高橋 美由紀			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td style="width:50%;">【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109715	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (林)				林 康史			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td style="width:50%;">【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109717	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (宮川)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0109718	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	村田 啓子	開講期	通年																										
科目名	研究演習 I (村田)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0205801	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	戎野 淑子	開講期	通年		
科目名	<b>研究演習Ⅲ(戎野)</b>										
履修前提条件					備考						
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。										
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第1回】 研究と論文作成の概要                      【第2回】 論文作成1                      【第3回】 論文作成2                      【第4回】 論文作成3                      【第5回】 論文作成4                      【第6回】 論文作成5                      【第7回】 論文作成6                      【第8回】 論文作成7                      【第9回】 論文作成8                      【第10回】 論文作成9                      【第11回】 論文作成10                      【第12回】 論文作成11                      【第13回】 論文作成12                 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第14回】 論文作成1                      【第15回】 論文作成2                      【第16回】 論文作成3                      【第17回】 論文作成4                      【第18回】 論文作成5                      【第19回】 論文作成6                      【第20回】 論文作成7                      【第21回】 論文作成8                      【第22回】 論文作成9                      【第23回】 論文作成10                      【第24回】 論文作成11                      【第25回】 論文作成12                      【第26回】 総括                 </td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12	【第14回】 論文作成1 【第15回】 論文作成2 【第16回】 論文作成3 【第17回】 論文作成4 【第18回】 論文作成5 【第19回】 論文作成6 【第20回】 論文作成7 【第21回】 論文作成8 【第22回】 論文作成9 【第23回】 論文作成10 【第24回】 論文作成11 【第25回】 論文作成12 【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12	【第14回】 論文作成1 【第15回】 論文作成2 【第16回】 論文作成3 【第17回】 論文作成4 【第18回】 論文作成5 【第19回】 論文作成6 【第20回】 論文作成7 【第21回】 論文作成8 【第22回】 論文作成9 【第23回】 論文作成10 【第24回】 論文作成11 【第25回】 論文作成12 【第26回】 総括										
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。										
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。										
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	13C0205802	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	通年		
科目名	<b>研究演習Ⅲ(林)</b>										
履修前提条件					備考						
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。										
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第1回】 研究と論文作成の概要                      【第2回】 論文作成1                      【第3回】 論文作成2                      【第4回】 論文作成3                      【第5回】 論文作成4                      【第6回】 論文作成5                      【第7回】 論文作成6                      【第8回】 論文作成7                      【第9回】 論文作成8                      【第10回】 論文作成9                      【第11回】 論文作成10                      【第12回】 論文作成11                      【第13回】 論文作成12                 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;">                     【第14回】 論文作成1                      【第15回】 論文作成2                      【第16回】 論文作成3                      【第17回】 論文作成4                      【第18回】 論文作成5                      【第19回】 論文作成6                      【第20回】 論文作成7                      【第21回】 論文作成8                      【第22回】 論文作成9                      【第23回】 論文作成10                      【第24回】 論文作成11                      【第25回】 論文作成12                      【第26回】 総括                 </td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12	【第14回】 論文作成1 【第15回】 論文作成2 【第16回】 論文作成3 【第17回】 論文作成4 【第18回】 論文作成5 【第19回】 論文作成6 【第20回】 論文作成7 【第21回】 論文作成8 【第22回】 論文作成9 【第23回】 論文作成10 【第24回】 論文作成11 【第25回】 論文作成12 【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要 【第2回】 論文作成1 【第3回】 論文作成2 【第4回】 論文作成3 【第5回】 論文作成4 【第6回】 論文作成5 【第7回】 論文作成6 【第8回】 論文作成7 【第9回】 論文作成8 【第10回】 論文作成9 【第11回】 論文作成10 【第12回】 論文作成11 【第13回】 論文作成12	【第14回】 論文作成1 【第15回】 論文作成2 【第16回】 論文作成3 【第17回】 論文作成4 【第18回】 論文作成5 【第19回】 論文作成6 【第20回】 論文作成7 【第21回】 論文作成8 【第22回】 論文作成9 【第23回】 論文作成10 【第24回】 論文作成11 【第25回】 論文作成12 【第26回】 総括										
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。										
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。										
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	13C0205902	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	研究演習Ⅲ(苑)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0206001	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	研究演習Ⅳ(苑)																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td>【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0206002	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	小野崎 保	開講期	通年																										
科目名	研究演習Ⅳ(小野崎)				小野崎 保			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td style="width:50%;">【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0206201	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	研究演習Ⅴ(苑)				苑 志佳			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td style="width:50%;">【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	13C0206203	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	真田 治子	開講期	通年																										
科目名	研究演習Ⅴ(真田)																																		
履修前提条件						備考																													
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td style="width:50%;">【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			


講義コード	13C0206301	授業形態	演習	抽選の有無	なし	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年																										
科目名	研究演習Ⅵ(宮川)																																		
履修前提条件						備考																													
授業の目的	本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。																																		
到達目標	1. 自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。 2. 独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	1. 研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。 2. 授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">【第1回】 研究と論文作成の概要</td> <td style="width:50%;">【第14回】 論文作成 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文作成 1</td> <td>【第15回】 論文作成 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 論文作成 2</td> <td>【第16回】 論文作成 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文作成 3</td> <td>【第17回】 論文作成 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文作成 4</td> <td>【第18回】 論文作成 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成 5</td> <td>【第19回】 論文作成 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文作成 6</td> <td>【第20回】 論文作成 7</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文作成 7</td> <td>【第21回】 論文作成 8</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 論文作成 8</td> <td>【第22回】 論文作成 9</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 論文作成 9</td> <td>【第23回】 論文作成 10</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論文作成 10</td> <td>【第24回】 論文作成 11</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論文作成 11</td> <td>【第25回】 論文作成 12</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 論文作成 12</td> <td>【第26回】 総括</td> </tr> </table>									【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1	【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2	【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3	【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4	【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5	【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6	【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7	【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8	【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9	【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10	【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11	【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12	【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括
【第1回】 研究と論文作成の概要	【第14回】 論文作成 1																																		
【第2回】 論文作成 1	【第15回】 論文作成 2																																		
【第3回】 論文作成 2	【第16回】 論文作成 3																																		
【第4回】 論文作成 3	【第17回】 論文作成 4																																		
【第5回】 論文作成 4	【第18回】 論文作成 5																																		
【第6回】 論文作成 5	【第19回】 論文作成 6																																		
【第7回】 論文作成 6	【第20回】 論文作成 7																																		
【第8回】 論文作成 7	【第21回】 論文作成 8																																		
【第9回】 論文作成 8	【第22回】 論文作成 9																																		
【第10回】 論文作成 9	【第23回】 論文作成 10																																		
【第11回】 論文作成 10	【第24回】 論文作成 11																																		
【第12回】 論文作成 11	【第25回】 論文作成 12																																		
【第13回】 論文作成 12	【第26回】 総括																																		
成績評価の方法	原則としては、授業への取り組み姿勢 (30%)、発表・討論 (50%) および最終課題 (レポート等) (20%) によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。																																		
フィードバックの内容	報告や論文に対するコメントを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																		
アクティブラーニングの内容	演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			







〔Ⅳ〕 経済学研究科専任教員  
プロフィール




ふりがな	えびすの すみこ			
氏名	戎野 淑子			
職名	教授	学位	修士(経済学)	
主な担当科目	【学部】労働経済学、人的資源管理論 【大学院】労働経済特論・特殊研究			
趣味・特技	温泉			
学生に推薦する本	偉人の伝記 マックスヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』			
教員からのメッセージ	千里の道も一歩から 地道な日々の積み重ねが大切です。 大学時代、長いようで短いです。貴重な時間ですので、着実に 目指すものを身に付けていってください。			
略歴	慶應義塾大学経済学研究科博士課程単位取得満期退学、 嘉悦大学経営経済学部専任講師、准教授、 立正大学経済学部准教授を経て、現職			
専門分野	労使関係論、労働経済学			
現在の研究テーマ	日本の労使関係(雇用関係)、中高年齢者の雇用			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 「総論」連合総研『人材育成と企業連携—技術革新や産業構造転換への労使の対応』2024年 ② 「地域の人材育成—中小零細企業の教育訓練」連合総研『人材育成と企業連携—技術革新や産業構造転換への労使の対応』2024年 ③ 「生産性向上と労使協議」連合総研『労働力人口減少下における持続可能な経済社会と働き方(公正配分と多様性)に関する調査研究報告書』2023年 ④ 「将来性のある生産性向上と労使関係」『地域経済学研究』第37号2019年 ⑤ 「働き方改革関連法の審議と労使関係—労働時間法制について」『日本労働研究雑誌』No. 702 労働政策研究・研修機構 2019年1月				
<b>上記以外の研究業績(5点以内)</b>				
① “Aging society and employment for older people in Japan :Case study of good practice” <i>Longevity and Productivity –Experiences from Aging Asia</i> Asian productivity organization Asia productivity organization August 2008 ② 『労使関係の変容と人材育成』慶應義塾大学出版会 2006年 ③ 「高度経済成長期における労使関係—日本的労使関係」『日本労働研究雑誌』No. 634 労働政策研究・研修機構 2013年5月 ④ “The Japanese Style of Labor Management Relations” (Chap.1) “Labor-Management Relations in Japan” (Chap.2) “Japan’s Economic Development and Labor-Management Relations –The role of the respective entities” (Chap.5) <i>Manual on labor-management relations :Japanese experience and best practices</i> Asian productivity organization December 2014 ⑤ 「労使関係の変容と生産性向上：雇用の性格の変化を中心に」『組織科学』第50巻第2号 2016年12月				
所属学会	日本労務学会、日本労使関係研究協会、日本経済政策学会、 日本キャリアデザイン学会			


ふりがな	えん し か			
氏名	苑 志 佳			
職名	教授	学位	経済学博士	
主な担当科目	【学部】アジア経済論、中国経済論 【大学院】地域経済特論、地域経済特殊研究			
趣味・特技	スキー、読書、旅行、人間観察			
学生に推薦する本	『国富論』（A. スミス）			
教員からのメッセージ	Where there is a will, there is a way !			
略歴	1979～1984年 中国対外経済貿易大学 1988～1989年 アメリカSETON HALL大学大学院 1992～1998年 東京大学大学院経済学研究科 2006～2007年 アメリカUCバークレー校IEAS客員研究員 1998年～現在に至る。 立正大学経済学部			
専門分野	中国経済論、アジア経済論			
現在の研究テーマ	中国の対外直接投資、中国の産業競争力、中国の企業制度			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 『トピックスで読み解く国際経営』（分担執筆）（板垣博・周佐喜和・銭佑錫編）文真堂、第1章「企業はなぜ多国籍化するのか——事例1-4」 2023年9月				
② 『世界進出する中国型多国籍企業』（単著）創成社、2023年3月				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
① 『アフリカの日本企業：日本的経営生産システムの移転可能性』（執筆分担）（公文溥編著）第9章「北アフリカの自動車部品工場—欧州市場と連携する：モロッコとチュニジアの日系工場を中心に—」、時潮社、301～320頁、2019年3月				
② 『グローバル金融危機後の世界経済の変貌：米国—新興国経済を中心に』（河村哲二編著）第11章「世界金融危機後の中国企業のグローバル化—ブラジルへ進出する中国自動車企業を中心に」（執筆分担）、ナカニシヤ出版、290～321頁、2018年8月				
③ 『21世紀資本主義世界の転換と変容—経済・環境・文化・言語による重層的分析—』（五味久寿・元木靖・苑志佳・北原克宣編）、第5章「中国資本主義に関する論考—「複合型資本主義」の様相—」批評社、144～171頁、2017年3月				
④ 『金型産業の技術形成と発展の様相』（馬場敏幸編）第12章「中国自動車金型企業の海外進出の背景と戦略—BYDによるオギハラ金型事業買収をめぐって—」（執筆分担）、日本評論社、221～250頁、2016年3月				
⑤ 『中国企業対外直接投資のフロンティア——「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開——』創成社、2014年2月				

ふりがな	おう あり よし			
氏名	王 在 喆			
職名	教授	学位	経済学博士	
主な担当科目	【学部】ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ 経済統計学 【大学院】経済統計学特論 経済統計学特研			
趣味・特技	読書、卓球、サッカー鑑賞			
学生に推薦する本	アンソニー・ギデンズ(松尾精文・小幡正敏訳)『国民国家と暴力』而立書房、1999年。 村上泰亮『反古典の政治経済学』(上・下)中央公論社、1997年。 J.M.ロバーツ(青柳正規監修)『図説 世界の歴史』(全10巻)創元社2002年。 フランシス・フクヤマ著・会田弘継訳『政治の起源』(上、下)講談社、2013年。			
教員からのメッセージ	大学時代は自分の耀き方を見つける時期です。			
略歴	1985年 上海鉄道大学(現同済大学) 電信工学部 卒業 1994年 立正大学大学院経済学研究科修士課程 修了 1998年 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 修了 1997年 慶應義塾大学総合政策学部助教 2001年 慶應義塾大学総合政策学部客員助教授 2002年 立正大学経済学部助教授 2007より 立正大学経済学部教授			
専門分野	中国経済論、日中経済比較分析			
現在の研究テーマ	日中両国の経済的な相互依存関係に関する計量分析			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
(共著)『2012年中国産業連関表』の特徴についての考察—『2012年日中韓国際産業連関表』の研究開発に向けて—『経済学季報』(立正大学経済学会)68巻4号、2019年。 (共著)「国際産業連関モデルに基づく日中貿易構造の実証研究」『経済学季報』(立正大学経済学会)69巻4号、2020年。 (共著)「産業構造の特性に関するネットワーク分析」『経済学季報』(立正大学経済学会)71巻1号(経済学部開設70周年記念号)、2021年。 (単著)「日本と中国の産業構造の現状について」『経済学季報』(立正大学経済学会)71巻4号、2022年。				
<b>上記以外の研究業績(7点以内)</b>				
(共著)「中国東部沿海地域と日本との国際産業連関構造—2007年中国地域産業連関表および日中国際産業連関表による実証分析」『中京大学経済学論叢』26号、2015年。 (共著)「中国上海地域と日本との国際産業構造—2007年規模別日本・中国・上海国際地域産業連関表による実証分析」『経済学季報』(立正大学経済学会)64巻4号、2015年。 (共著)『日中連関構造の経済分析』勁草書房、2016年。 (共著)「中国沿海地域が日本経済に及ぼした影響」『地域学研究』(日本地域学会)第45巻第4号、2016年。 (共著)“Economic interrelationship between Japan and the Chinese coastal area: An empirical analysis using international and regional input-output model”, Chukyo University Institute of Economics Discussion Paper Series No.1504, January 2016. (共著)“Development and Challenge of the Japan-Korea-China International Input-Output Table”, 『経済学季報』(立正大学経済学会)66巻1・2号、2016年。 (共著)(韓国産業研究院(KEIT)委託研究)「韓日中間産業別貿易の比較優位構造の変化分析」韓国産業研究院(立正大学研究支援センター所収)、2017。				
所属学会	国際地域学会、日本地域学会、環太平洋産業連関分析学会(PAPAIOS)、中国投入産出学会			


ふりがな	オウ ゼイ			
氏名	王 芮			
職名	准教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】経済政策論、ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎 【大学院】マクロ経済学特論			
趣味・特技	ピアノ、ギター、料理			
学生に推薦する本	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダロン・アセモグル&amp;ジェイムズ・A・ロビンソン(2013)「国家はなぜ衰退するのか：権利・繁栄・貧困の起源」早川書房</li> <li>鶴光太郎&amp;前田佐恵子&amp;村田哲子(2019)「日本のマクロ経済分析 低温経済のパズルを解く」日本経済新聞出版社</li> <li>今井耕介(2018)「社会科学のためのデータ分析入門」岩波書店</li> </ul>			
教員からのメッセージ	経済学はおもしろいぞ～ぜひ一緒に勉強していきましょう！			
略歴	神戸大学経済学研究科博士前期課程修了 神戸大学経済学研究科博士後期課程修了 関東学園大学経済学部経済学科専任講師 立正大学経済学部専任講師 立正大学経済学部准教授			
専門分野	マクロ経済学、金融政策			
現在の研究テーマ	DSGEモデルによるマクロ経済学の理論分析と実証分析			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① Wang, R. (2019). Unconventional Monetary Policy in Japan: Empirical Evidence from Estimated Shadow Rate DSGE Model. <i>Journal of International Commerce, Economics and Policy</i> , 10(02), 1950007. ② Wang, R. (2019). Unconventional Monetary Policy in US: Empirical Evidence from Estimated Shadow Rate DSGE Model. <i>International Journal of Monetary Economics and Finance</i> , 12(5), 361-389. ③ Wang, R. (2021). Evaluating the Unconventional Monetary Policy of the Bank of Japan: A DSGE Approach. <i>Journal of Risk and Financial Management</i> , 14(6), 253. ④ Wang, R. (2021). Measuring the Effect of Government Response on COVID-19 Pandemic: Empirical Evidence from Japan. <i>Covid</i> , 1(1), 276-287. ⑤ Wang, R. (2022). A Generalized New Keynesian Model with Wage Stickiness. <i>Journal of International Commerce, Economics and Policy</i> , 13(02), 2250012. ⑥ Wang, R. (2023). Price Stickiness and Wage stickiness in Generalised New Keynesian Model. <i>International Journal of Computational Economics and Econometrics</i> , 13(3), 305-331. ⑦ Wang, R. (2024). Global Supply Chain Disruptions, Commodity Price Shocks and Inflation in Japan. <i>International Journal of Empirical Economics</i> , 3(2).				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① Rui WANG. (2019). A New Keynesian Model with Estimated Shadow Rate for Japan Economy. <i>World Journal of Economics and Finance</i> , Vol.5(1), pages 106-114, Premier Publishers. ② 王ゼイ (2019) 「一般化ニューケインジアンモデルにおける名目粘着性」、関東学園大学経済学紀要第45巻、pages 1-22 ③ 王ゼイ (2021) 「コロナショックと労働市場」、立正大学経済学季報、第71巻1号 ④ 王ゼイ (2021) 「日本における新型コロナウイルス感染症の計量分析」、立正大学経済学季報、第71巻2号 ⑤ 王ゼイ (2021) 「モビリティデータから見るコロナ対策の効果～都道府県別パネルデータによる実証分析～」、立正大学経済学季報、第71巻3号				
所属学会	日本経済学会、日本金融学会			

ふりがな	お ざ わ な み え			
氏 名	小 沢 奈 美 恵			
職 名	教 授	学 位	修 士 号	
主な担当科目	【学部】 News English、アメリカの文化と社会			
趣味・特技	映画鑑賞・旅行			
学生に推薦する本	オリバー・ストーン、ピーター・カズニック著『オリバー・ストーンが語るもう一つのアメリカ史』、早川書房、2013年。			
教員からのメッセージ	大学の四年間は、知識を旺盛に吸収し、様々な経験に挑戦し、良い仲間を作る貴重な時間だと思います。海外研修や留学などにもどんどんチャレンジして、視野を広げて海外にも友達を増やして、存分に楽しんでください。			
略 歴	学歴：埼玉大学教育学部心理学科卒業、東京都立大学大学院 人文科学研究科（英文）修士修了、同大学同研科博士課程単位取得満期退学。アメリカのブラウン大学、サザンメイン大学で各1年、客員研究員。 教歴：幾つかの大学で英語担当非常勤講師を経て、立正大学の専任教員となった。			
専 門 分 野	アメリカ文学（主として19世紀）とアメリカ文化			
現在の研究テーマ	アメリカン・ルネッサンス期の文学（主流作家とマイノリティ作家の対比） アメリカの映像文化のカルチュラル・スタディーズ			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① 単著「ポーの楽園的風景庭園に潜む先住民」『ポー研究』（日本ポー学会）第16号、2024年3月。</p> <p>② 単独発表“Deciphering Native American Images in <i>The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket</i>, The Fifth International Edgar Allan Poe Conference in Boston (Poe Studies Association) April 9<sup>th</sup>, 2022.</p> <p>③ 単著『アメリカン・ルネッサンス期の先住民作家 ウィリアム・エイプス研究—甦るピークオット族の声』明石書店、2021年9月。</p> <p>④ 単著「E.A.ポーと先住民作家ウィリアム・エイプスの接点—『アーサー・ゴードン・ピムの物語』に隠された「アメリカ先住民=消えたイスラエルの十部族」説—」『ポー研究』（日本ポー学会）第12号、2020年3月。</p> <p>⑤ 単著「先住民作家ウィリアム・エイプスの『ピークオット族の5人のキリスト教徒インディアンによる回心体験記』論—インディアンに映しだされるアメリカ社会」『記念論文集』（日本英語文化学会）、2021年3月。</p>				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
<p>① 共著 The Thoreau Society of Japan. <i>Thoreau in the 21 Century: Perspectives from Japan</i>. Kinseido, 2017. (“<i>The Main Woods: What Thoreau Learned about the Penobscot People</i>”担当)</p> <p>② 共著：越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集『映画で読み解く現代アメリカ—オバマの時代』明石書店 2015年</p> <p>③ 共著『ソローとアメリカ精神—米文学の源流を求めて』金星堂、2012年10月1日。</p> <p>④ 共著：越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集『9.11 とアメリカ：映画にみる現代社会と文化』鳳書房、2008年9月27日（第6章、13章、他担当）。</p> <p>⑤ 単著：『アメリカ・ルネッサンスと先住民：アメリカ神話の破壊と再生』、鳳書房、2005年。</p>				
所属学会	日本アメリカ文学会、日本英文学会、アメリカ学会、日本ソロー学会、日本ポー学会、Poe Studies Association、Thoreau Society、多民族学会、映画英語教育学会			




ふりがな	おざわ よしふみ			
氏名	小沢 佳史			
職名	准教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】経済学史、経済史基礎、マルクス経済学基礎 【大学院】経済学史特論、経済学史特研			
趣味・特技	毎朝のコーヒー、当てのない散歩、四季折々の日本酒、エレキベースを少々			
学生に推薦する本	① 堂目卓生『アダム・スミス——『道徳感情論』と『国富論』の世界』中公新書、2008年。 ② 宇沢弘文『人間の経済』新潮新書、2017年。 ③ 吉川洋『ケインズ——時代と経済学』ちくま新書、1995年。			
教員からのメッセージ	素敵なお人や本に出会い、じっくりと考える時間を大切にしてください。			
略歴	2011年 3月 東北大学大学院 経済学研究科 博士課程前期2年の課程 修了 2015年 9月 東北大学大学院 経済学研究科 博士課程後期3年の課程 修了 2015年 9月 神奈川大学 経済学部 非常勤講師 (2017年 3月まで) 2017年 4月 九州産業大学 経済学部 講師 (2021年 3月まで) 2021年 4月 立正大学 経済学部 専任講師 (2024年 3月まで) 2024年 4月 立正大学 経済学部 准教授			
専門分野	経済学史(経済学の歴史)			
現在の研究テーマ	19世紀イギリスの古典派経済学 (J. S. ミルなどの経済学・経済思想)			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① <i>James Mill, John Stuart Mill, and the History of Economic Thought</i> (co-authored), Routledge, pp. 75-103, 2023. ② 『愉楽の経済学——マルサスの思想的水脈を辿って』(共著)、昭和堂、pp. 133-158、2023年。 ③ “Milton’s <i>Paradise Lost</i> and Malthus’s <i>An Essay on the Principle of Population</i> : A Neglected Intertextuality” (co-authored), <i>History of Economics Review</i> , Volume 80, Issue 1, pp. 74-84, 2021. ④ <i>A Genealogy of Self-Interest in Economics</i> (co-authored), Springer, pp. 85-105, 2021. ⑤ 『平等の哲学入門』(共著)、社会評論社、pp. 101-115、2021年。				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① 『支配の政治理論』(共著)、社会評論社、pp. 76-89、2018年。 ② 『権利の哲学入門』(共著)、社会評論社、pp. 118-131、2017年。 ③ 「J. S. ミルの国債償還論——ブリテンにおける石炭税の構想を巡って」(単著)、 <i>TERG Discussion Papers</i> , No. 326, pp. 1-38、2015年。 ④ 「J. S. ミルの保護貿易政策論——一時的な保護関税をめぐる」(単著)、『マルサス学会年報』第23号、pp. 57-86、2014年。 ⑤ 「停止状態に関するJ. S. ミルの展望——アソシエーション論の変遷と理想的な停止状態の実現過程」(単著)、『季刊 経済理論』第49巻第4号、pp. 78-87、2013年。				
所属学会	経済学史学会、経済理論学会、マルサス学会、The European Society for the History of Economic Thought			


ふりがな	おのぎき たもつ			
氏名	小野崎 保			
職名	教授	学位	経済学博士	
主な担当科目	【学部】ミクロ経済学 【大学院】ミクロ経済学特論、ミクロ経済学特殊研究			
趣味・特技	音楽鑑賞（主にクラシック）、囲碁（五段）			
学生に推薦する本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーク・コヤマ=シャレド・ルービン『「経済成長」の起源』草思社</li> <li>・ダロン・アセモグル=ジェイムズ・A・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか（上・下）』ハヤカワ・ノンフィクション文庫</li> </ul>			
教員からのメッセージ	好奇心のアンテナを常に張り巡らし、知的に貪欲になって下さい。そして、琴線に触れたことについて徹底的に探求するようにして下さい。			
略歴	慶應義塾大学経済学部卒業 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学 財団法人日本エネルギー経済研究所総合研究部研究員 旭川大学経済学部教授 南カリフォルニア大学経済学部客員教授 青森公立大学経営経済学部教授			
専門分野	非線形経済動学，複雑系経済学			
現在の研究テーマ	同期現象としての景気循環分析，データ駆動型高次元非線形モデルの同定			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① Regional Synchronization during Economic Contraction: The Case of the U.S. and Japan, <i>Applied Economics</i> <b>55</b> (30), 3472–3486, 2023 (Published online: 05 Sep. 2022) [ <a href="https://doi.org/10.1080/00036846.2022.2115450">https://doi.org/10.1080/00036846.2022.2115450</a> ] [共著]				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
① A Model of Market Structure Dynamics with Boundedly Rational Agents. In T. Terano et al. (Eds.): <i>Agent-Based Approaches in Economics and Social Complex Systems V</i> , 255–266, Springer, 2009 [共著]				
② Dynamics of Market Structure Driven by the Degree of Consumer's Rationality, <i>Physica A</i> <b>389</b> , 1041–1054, 2010 [共著]				
③ Neural Basis of Economic Bubble Behavior, <i>Neuroscience</i> <b>265</b> , 37–47, April 2014 [共著]				
④ Intermittent Transition between Synchronization and Desynchronization in Multi-Regional Business Cycles, <i>Structural Change and Economic Dynamics</i> <b>44</b> , 68–76, 2017 [共著]				
⑤ <i>Nonlinearity, Bounded Rationality, and Heterogeneity: Some Aspects of Market Economies as Complex Systems</i> , Springer, February 2018. [ <a href="https://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54971-0">https://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54971-0</a> ] [単著]				
所属学会	日本経済学会，日本地域学会，The Regional Science Association International，進化経済学会，情報処理学会「知能システム」研究会，The Society for Economic Science with Heterogeneous Interacting Agents，数理社会学会，The European Social Simulation Association			


ふりがな	かわぐち しんいち			
氏名	川口 真一			
職名	教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】財政学、コーポレートファイナンス 【大学院】財政学特論、財政学特殊研究			
趣味・特技	旅行・散歩			
学生に推薦する本	ジョセフ・E・スティグリッツ『世界の99%を貧困にする経済』			
教員からのメッセージ	何事も「継続は力なり」です！ 大学の4年間を通して、様々な経済問題や社会問題を分析できる思考法を身につけてください。			
略歴	慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了、 慶應義塾大学 COE 研究員、 東京外国語大学 非常勤講師、 内閣府経済社会総合研究所 政策研究研修員、 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科 専任講師、准教授、 立正大学経済学部 准教授を経て、現職。			
専門分野	財政学、租税論、コーポレートファイナンス、学校法人会計			
現在の研究テーマ	税制と企業行動に関する実証分析、学校法人会計を用いた実証分析			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 単著「私立大学の財務行動ーパネルデータによる分析ー」『立正大学経済学会ディスカッション・ペーパー』 NO. 7、2024年1月				
② 単著「研究開発投資に関する実証分析」『証券アナリストジャーナル』VOL. 57 NO. 8、日本証券アナリスト協会、2019年8月				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
単著「内部留保に関する検証ー同族会社における留保金課税の観点からー」『経済学季報』第66巻4号、立正大学経済学会、2017年3月				
単著「ストックベースの内部留保と留保金課税」『CUC View & Vision』No. 35、千葉商科大学経済研究所、2013年3月				
単著「株式非公開企業による租税回避行動ー企業パネルデータを用いた実証分析ー」『経済学季報』第62巻3号、立正大学経済学会、2012年12月				
単著「同族会社の留保金課税に関する実証分析」『財政学研究』(日本財政学会叢書)第4巻、有斐閣、2008年9月				
単著「IT投資促進税制と企業行動ー企業による特別償却と税額控除の選択ー」『証券経済研究』第56号、日本証券経済研究所、2006年12月				
所属学会	日本財政学会、日本マネジメント学会			

ふりがな	かわはら しんや			
氏名	河原 伸哉			
職名	教授	学位	Ph.D. in Economics	
主な担当科目	【学部】国際経済学 【大学院】国際経済学特論, 国際経済学特研			
趣味・特技	トレッキング, アウトドア			
学生に推薦する本	大竹文雄『競争社会の歩き方』中公新書			
教員からのメッセージ	学生時代の貴重な時間を贅沢にそして有効に活用してください			
略歴	名古屋大学経済学部卒業 ブリティッシュ・コロンビア大学大学院経済学科博士課程修了 福島大学経済経営学類助教授, 准教授 立正大学経済学部准教授を経て現職			
専門分野	国際貿易論, 環境経済学, 応用ミクロ経済学			
現在の研究テーマ	国際貿易と環境			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 『ライブラリ経済学15講BASIC編③ マクロ経済学15講』, 新世社, 2023年. ② Production Relocation and Optimal Environmental Policy under Monopolistic Competition, <i>Quarterly Journal of Risho Economics Society</i> , 72(2023) : pp37-56. ③ Tourism and Trade in Differentiated Products, <i>Quarterly Journal of Risho Economics Society</i> , 71(2021) : pp67-92.				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① 排出量取引制度 - 排出枠の政治的影響を回避する -, 奥野信宏・八木匡・小川光 編著『公共経済学で日本を考える』第6章 pp.77-91, 中央経済社, 2017年. ② Welfare and Market-Access Effects of Piecemeal Tariff Reforms on the Environmentally Preferable Products, <i>Journal of International Trade and Economic Development</i> , 23 (2014) : pp796-814. ③ Trade, Environment, and Market Access: Policy Reforms in a Small Open Economy, <i>Environment and Development Economics</i> , 19 (2014) : pp173-181. ④ Endogenous Lobby Formation and Endogenous Environmental Protection with Unilateral Tariff Reduction, <i>Environmental and Resource Economics</i> , 57 (2014) : pp41-57. ⑤ Electoral Competition with Environmental Policy as a Second Best Transfer, <i>Resource and Energy Economics</i> , 33 (2011) : pp477-495.				
所属学会	日本経済学会, 日本応用経済学会			


ふりがな	きたはら かつ のぶ			
氏名	北原 克宣			
職名	教授	学位	博士（農学）	
主な担当科目	【学部】 マルクス経済学基礎、農業経済学1・2 【大学院】 地域農業環境特論 地域農業環境特殊研究			
趣味・特技	美術館巡り、音楽・映画鑑賞、散歩 テニスや野球をするのも好きですが、体が動かなくなってきたので、最近はおっぱら映画をよく観に行くようになりました。			
学生に推薦する本	バルザック『農民』上・下(岩波文庫)、エミール・ゾラ『大地』上・下(岩波文庫) パール・バック『大地』(一)～(四)(新潮文庫)、森永卓郎著『ザイム真理教』(フォレスト出版、2023年)、桐野夏生著『真珠とダイヤモンド(上・下)』(毎日新聞社、2023年)、額賀澤著『青春をクビになって』(文藝春秋、2023年)、小林文乃著『カティンの森のヤニナ』(河出書房新社、2023年)、吉川賢著『森林に何がおきているのか』(中央公論新社、2022年)			
教員からのメッセージ	私が立正大学に赴任してから二十年が経ってしまいました。しだいにゼミの卒業生も増え、今では卒業生たちとの交流も楽しみのひとつとなりました。大学は、一方的に何かを教わる場ではありません。学問を通じて学生と教員がお互いに学び合う場です。積極的なアプローチをお待ちしております。			
略歴	1967年 2月 長野県生まれ 1989年 3月 東京農業大学農学部農業経済学科 卒業 1995年 3月 北海道大学大学院農学研究科農業経済学専攻博士課程修了 1995年10月 秋田県立農業短期大学 講師 2001年 4月 秋田県立大学短期大学部 助教授 (2001年 9月～2002年3月 バーミンガム大学(イギリス) 客員研究員) 2004年 4月 立正大学 助教授、准教授を経て2010年 4月より現職。			
専門分野	農業経済論、地域経済論、土地経済論			
現在の研究テーマ	①2000年代日本資本主義の研究 ②農協「改革」に関する政治経済的分析			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 「県1農協における組織・事業再編の実態と課題－C県農協の事例－」 『農業・農協問題研究』(農業・農協問題研究所、2024年3月) ② 「『内からの批判』への備えを」『JA教育文化Web』(家の光協会、2023年8月配) ③ 「日本の食料安全保障を考える」『月刊JA』(JA全中、2022年9月) ④ 「ウクライナ戦争と農業・食料」『労農のなかま』(全農協労連、2022年5月)				
<b>上記以外の研究業績(5点以内)</b>				
① 「特集どこまで進んだか農協改革・都市型農協－JAさがみ(神奈川県)の取り組み－」 『農業と経済』7・8月合併号(昭和堂、2018年6月) ② 五味・元木・苑・北原編著『21世紀資本主義世界のフロンティア』(批評社、2017年) ③ 「『制度としての農協』の終焉と転換」小林国之編著『北海道から農協改革を問う』 (筑波書房、2017年1月) ④ 北原・安藤編著『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』(明石書店、2016年) ⑤ 北原ほか「中山間限界地帯における『生活型農業』の展開と農協の課題 －新潟県十日町市松之山地域における調査結果－」『農業・農協問題研究』第56号 (2015年3月)				
所属学会	政治経済学・経済史学会、経済理論学会、日本農業経済学会、 日本農業経営学会、日本協同組合学会 など			

ふりがな	マイケル フレデリック クボ			
氏名	Michael Frederik Kubo			
職名	Full-time Instructor	学位	Master of Arts (MA) TESOL	
主な担当科目	English as a Foreign Language (EFL), Global Issues, Media Empowerment, Business English, TOEFL/TOEIC			
趣味・特技	Hiking, Photography, Illustration & Design, Reading, Poetry, Cooking, Travel			
学生に推薦する本	The One World Schoolhouse: Education Reimagined by Salman Khan (2012)			
教員からのメッセージ	Students! Travel the world! English is YOUR key to the world. You can open the world!			
略歴	San Francisco State University, San Francisco, California: Bachelor of Arts, Industrial Arts Columbia University Teachers College, Tokyo Campus: Master of Arts, TESOL			
専門分野	Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL)			
現在の研究テーマ	Learner Self-Confidence/Motivation to study English			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① Assessing Pair Taping (PT) Efficacy: A Broader Look at Self-Confidence Variables 平成19年3月 Komazawa University, Komazawa University Journal of Global Media Studies Vol. 1 P.99-P.108, Sole-authored, Note: this article also available online at: URL: <a href="http://accentsasia.org/1-3/Kubo.pdf">http://accentsasia.org/1-3/Kubo.pdf</a></p> <p>② An examination of students' motivation in the Practical English program at Yokohama City University 平成22年4月 Yokohama City University, The Bulletin of Yokohama City University Humanities Vol. 61, Co-authored with M. Physick and M. Radcliffe</p> <p>3) Pair Taping Turns Twenty: A New Look at an Old Method 平成25年8月 Rishsho University, The Quarterly Report of Economics Vol. 61 No. 1</p> <p>4) An Exploration of the Fifth Estate landscape trough film 平成27年1月 Rishsho University, The Quarterly Report of Economics Vol. 64 No. 2 - 3</p>				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① Presentation titled 'Pair Tape Recording for Fluency and Form' 平成20年3月 Dubai, United Arab Emirates, 14 <sup>th</sup> International Conference and Exhibition, TESOL Arabia, sole-presenter				
所属学会	Japan Association of Language Teachers (JALT), Yokohama, Columbia University Alumni Association Japan (CUAAJ), Tokyo, Teachers College Alumni Association, New York			


ふりがな	けいだ まさゆき			
氏名	慶田 昌之			
職名	准教授	学位	修士(経済学)	
主な担当科目	【学部】ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎 ミクロ経済学			
趣味・特技	地唄三絃、箏、胡弓の演奏			
学生に推薦する本	ローレンス・レッシング著『コモンズ』 キャス・サンスティーン著『インターネットは民主主義の敵か』			
教員からのメッセージ	「この世に粘り強さに勝るものはない。」 第30代アメリカ合衆国大統領 カルビン・クーリッジ			
略歴	上智大学経済学部卒業 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学 東京大学21世紀COEプログラム 拠点形成特任研究員 東京大学大学院経済学研究科 日本経済国際共同研究センター 学術支援専門職員 2009年～ 現職			
専門分野	マクロ経済学、金融論、国際金融			
現在の研究テーマ	自然言語処理を用いた金融政策とESGの実証分析 インフレ期待と金融政策に関する実証分析			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① 「植田総裁の下での金融政策の新たな船出—自然言語処理は何を教えてくれたか—」(2024), 福田慎一編『地政学的リスクと日本経済：新たな冷戦時代における構造改革』, 東京大学出版会</p> <p>② “How Loud is a Soft Voice? Effects of positive screening of ESG performance on the Japanese oil companies,” (2024), RIETI Discussion Paper Series 24-E-002 (with Yosuke Takeda).</p> <p>③ “The Art of Central Bank Communication: A Topic Analysis on Words used by the Bank of Japan’s Governors,” (2019), RIETI Discussion Paper Series 19-E-038 (with Yosuke Takeda).</p>				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
<p>① “Entrepreneurship and capital investment: Another explanation for the slump in capital investment under deflation” (2018), Public Policy Review, vol. 14, issue 3, pp. 489–510 (with Shin-ichi Fukuda and Munehisa Kasuya)</p> <p>② “Central bank communication strategies: A computer-based narrative analysis of the Bank of Japan’s Governor Kuroda” (2018), in S. Eijffinger and D. Masciandaro (ed.) <i>Hawks and Doves: Deeds and Words – Economics and Politics of Monetary Policymaking</i>, pp. 137–142, CEPR Press (with Yosuke Takeda)</p> <p>③ “A Semantic Analysis of Monetary Shamanism: A case of the BOJ’s Governor Haruhiko Kuroda” (2017), RIETI Discussion Paper Series 17-E-011 (with Yosuke Takeda).</p>				
所属学会	日本経済学会、日本金融学会			


ふりがな	こう いく			
氏名	黄 昱			
職名	講師	学位	博士(文学)	
主な担当科目	【学部】東アジアの文化と社会1・2、中国語1C・2C、中国語1D・2D			
趣味・特技	博物館めぐり、読書			
学生に推薦する本	井波律子『中国文学の愉しき世界』岩波書店、2017年 劉慈欣『三体ⅠⅡⅢ』早川書房、2024年			
教員からのメッセージ	大学で人と学問と出合う楽しさを見つけましょう。			
略歴	北京師範大学外国語文学学院卒業 筑波大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程修了 総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程修了 北京語言大学東京校、日本女子大学、青山学院大学、専修大学非常勤講師 国文学研究資料館特任助教			
専門分野	日本中世文学、日中比較文学			
現在の研究テーマ	中国の志怪小説に関する日中比較研究			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① 「『夷堅志』に見られる疫病鬼神と日本における受容」、『国文学研究資料館紀要・文学研究篇』48、131-166、2022年</p> <p>② 「『夷堅志』における動物説話の特徴をめぐって」、『説話』13、110-121、2019年</p> <p>③ 「西施・潘岳の密通説話をめぐって—『新撰万葉集』から朗詠古注まで」、『アジア遊学223日本人と中国故事—変奏する知の世界』、85-98、2018年</p> <p>④ 「故宮博物院蔵古抄本『蒙求』の欄外注について」、『東洋文化』復刊115号、28-44、2018年</p>				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
<p>① 「日本における謝靈運「述祖徳詩」の受容についての覚え書き」、『アジア遊学240六朝文化と日本—謝靈運という視座から』、140-146、2019年</p> <p>② 「『徒然草』の中文訳と漢文訳」、『総研大文化科学研究』12号、1-16、2016年</p> <p>③ 「『徒然草』における漢籍受容の方法—『白氏文集』の場合—」、『第38回国際日本文学研究集会会議録』、47-71、2015年</p> <p>④ 「漢訳される『徒然草』の一方法—近世期兼好伝との関わり—」、『説話』12号、87-96、2014年</p> <p>⑤ 「漢訳される『徒然草』—異種『蒙求』をめぐって—」、『総研大文化科学研究』10号、43-64、2014年</p>				
所属学会	筑波大学日本語日文学会、和漢比較文学会、中世文学会、日本近世文学会、EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)			




ふりがな	こばやし たかふみ			
氏名	小林 隆史			
職名	准教授	学位	博士(社会工学)	
主な担当科目	経済フィールドワーク, 都市経済学			
趣味・特技	温泉, カラオケ			
学生に推薦する本	青木義次『青木義次の計画発想法』彰国社, 2009. 加納朋子『ななつのこ』創元推理文庫, 1992.			
教員からのメッセージ	「縦のつながり, 横のつながり」を大事にしよう.			
略歴	筑波大学 第三学群社会工学類都市計画主専攻 卒業 筑波大学大学院 一貫制博士課程システム情報工学研究科 修了 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 研究員 筑波大学 システム情報工学研究科リスク工学専攻 助教 北海道大学 経済学研究科 助教 東京工業大学 情報理工学研究科情報環境学専攻 特任助教			
専門分野	都市地域計画, オペレーションズ・リサーチ			
現在の研究テーマ	地域資源活用施策の定量化, 自然エネルギー導入と地域構造			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① “ついで型施設投票モデル—民意と最適の施設配置齟齬に着目して—” (共著), 『都市計画論文集』, No. 57-3, 2022, pp. 1018-1024.</p> <p>② “トワイライト景観の定量化—西天北地域の地域振興を見据えて—” (共著), 『GIS—理論と応用』, Vol. 30, No. 2, 2022, pp19-29.</p> <p>③ “デジタル化が医療施設集約に及ぼす影響—民意と社会的最適との齟齬に着目して—” (共著), 『応用地域学研究』, No. 25, 2021, pp. 15-26.</p> <p>④ “電柱と山との重なりに着目した沿道シークエンス景観の数理的考察” (共著), 『都市計画論文集』, No. 56-3, 2021, pp. 1184-1190.</p> <p>⑤ “既存敷地が道路整備へ与える影響に関する解析” (共著), 『GIS—理論と応用』, Vol. 28, No. 2, 2020, pp41-50.</p> <p>⑥ “公用車電動化と広域連携による被災時電源確保—2015年常総市水害を踏まえて—” (共著), 『都市計画論文集』, No. 55-3, 2020, pp. 1100-1106.</p>				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
<p>① “地方において寺院は見守り・移動サービス拠点となりうるか” (共著), 『都市計画論文集』, No. 54-3, 2019, pp. 1483-1489.</p> <p>② “制度的・地理的隔絶要素に着目した地域間親密度の可視化 : 関門地域を事例として” (共著), 『計画行政』, No. 36-4, 2013, pp. 50-59.</p> <p>③ “太陽光発電普及社会にむけた都市空間における建築制限” (共著), 『環境共生』, No. 19, 2012, pp. 44-54.</p> <p>④ “日本における地域間消費税競争” (共著), 『応用地域学研究』, No. 12, 2007, pp. 55-67.</p> <p>⑤ “Analytical Model of Visibility of a Landmark” (共著), <i>Geographical Analysis</i>, No. 37, 2005, pp. 336-349.</p>				
所属学会	日本オペレーションズ・リサーチ学会, 日本都市計画学会, 応用地域学会, 日本環境共生学会, 日本計画行政学会, 日本建築学会			


ふりがな	こばやし みき			
氏名	小林 幹			
職名	准教授	学位	博士(情報学)	
主な担当科目	【学部】数学基礎, 経済数学			
趣味・特技	ゴルフ スノーボード サウナ			
学生に推薦する本	ジェイムズ・グリック 「カオス-新しい科学をつくる」新潮文庫 合原一幸 編著 「社会を変える驚きの数学」ウェッジ選書32地球学シリーズ			
教員からのメッセージ	様々な事に疑問を持ち、それらを解決するための努力を惜しまないで下さい。 大学はそれをするための環境が整っています。			
略歴	東北大学原子分子材料科学高等研究機構助教			
専門分野	非線形力学系の解析と制御			
現在の研究テーマ	機械学習の数理的構造の解明 非線形制御理論を用いた確率過程の制御			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① Laminar chaotic saddle within a turbulent attractor, Physical Review E (2024)[共著]</p> <p>② Minimal model for reservoir computing, Physica D 470 134360 (2024)[共著]</p> <p>③ Mathematical analysis of the Wiener processes with time-delayed feedback, AIP advances 14, 095219 (2024)[共著]</p> <p>④ Lyapunov analysis of data-driven models of high dimensional dynamics using reservoir computing: Lorenz-96 system and fluid flow, Journal of Physics; Complexity 5, 025024 (2024)[共著]</p> <p>⑤ Characterizing small-scale dynamics of Navier-Stokes turbulence with transverse Lyapunov exponents: A data assimilation, Physical Review Letters 131 254001 (2023)[共著]</p> <p>⑥ Dynamical system analysis of a data-driven model constructed by reservoir computing, Physical Review E 104, 044215 (2021)[共著]</p> <p>⑦ 産業構造の特性に関するネットワーク分析, 立正大学経済学季報, 71 巻 1 号, p.39 (2021)[共著]</p>				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
<p>①Control of deterministic diffusion generated by chaotic dynamical systems through time delayed feedback control, Nolta journal, Vol. 9, Issue 2, pp. 196-203 (2018).</p> <p>②Time-delayed feedback control of diffusion in random walkers, Phys. Rev. E, 96, 012148 (2017) [共著]</p> <p>③Network analysis of chaotic systems through unstable periodic orbits, CHAOS, 27, 081103 (2017) [共著]</p>				
所属学会	応用数理学会、情報通信学会			


ふりがな	こまつ ひろゆき			
氏名	小松 宏行			
職名	特任講師	学位	修士(経済学)	
主な担当科目	【学部】ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎、統計学			
趣味・特技	動物観察、読書、街歩き、音楽発掘			
学生に推薦する本	ジョン・マクミラン(瀧澤弘和/木村友二 訳) 『新版 市場を創る』慶應義塾大学出版会、2021年 リチャード・ドーキンス(日高敏隆/岸由二/羽田節子/垂水雄二 訳) 『利己的な遺伝子(40周年記念版)』紀伊國屋書店、2018年 アンデシュ・ハンセン(久山葉子 訳)『スマホ脳』新潮社、2020年			
教員からのメッセージ	どんなことも「面白さ」を見つけて楽しく取り組みましょう。			
略歴	慶應義塾大学経済学部 卒業 慶應義塾大学大学院経済学研究科 修士課程 修了 慶應義塾大学大学院経済学研究科 後期博士課程 単位取得退学 公益財団法人三菱経済研究所 専任研究員 株式会社エコノミクスデザイン リサーチアシスタント/エコノミスト 神奈川大学非常勤講師			
専門分野	社会的選択理論、ゲーム理論、メカニズムデザイン			
現在の研究テーマ	レーティングルール of 理論的研究			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① “Characterizations of approval ranking” (是認投票によるランキングルールの公理的特徴付け)、Mathematical Social Sciences、Vol.128、pp.18-24、2024年【単著】 ② 「2023年 Econometric Society Asian School in Economic Theory (1)」(Ariel Rubinstein 教授講演の解説論文)、『三田学会雑誌』、116巻3号、2023年【共著】				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
所属学会	日本経済学会 The Econometric Society			

ふりがな	さくらい かつひろ			
氏名	櫻井 一宏			
職名	教授	学位	博士(学術)	
主な担当科目	【学部】環境計画論, 都市・地域分析, 環境科学, 経済フィールドワーク 【大学院】環境政策特論, 都市環境特論			
趣味・特技	旅行, ドライブ, サッカー観戦, 野球観戦			
学生に推薦する本	司馬遼太郎『竜馬がゆく』			
教員からのメッセージ	大学生としての貴重な時間を楽しく・有意義に・悔いなく過ごしてほしいと思います。好奇心をもっていろいろなことに興味を抱き、よく観察し、考え、調べた上で“科学的”分析にトライして下さい。			
略歴	筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科修了 財団法人日本地域開発センター 研究員 筑波大学生命環境科学研究科 博士特別研究員 財団法人シップ・アンド・オーシャン財団 海洋政策研究所 研究員 海洋政策研究財団 研究員, 名古屋産業大学 プロジェクト研究員 現在に至る			
専門分野	環境政策評価, 流域・沿岸域管理政策, 都市地域計画			
現在の研究テーマ	流域圏環境経済分析, 食料資源循環, 観光経済, 地域資源評価			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① “Japanese Forest Conservation System: The Forest Environment Tax,” <i>Sustainable Forest Management - Surpassing Climate Change and Land Degradation</i> , IntechOpen, 2024, 224p. DOI: 10.5772/intechopen.1004223				
② “離島の半島化と移住 -周防大島町を中心に-,” 日本オペレーションズ・リサーチ学会2022年春季研究発表会アブストラクト集, 2022				
③ “The Economic Impact of the Inland Water Fisheries/Aquaculture Industry: The Case of the Eel Industry in Japan,” <i>Regional Science Policy &amp; Practice</i> , Vol.13, Issue 6, 2021, pp.1729-1749.				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① “サッカースタジアムのMaaS化,” 『日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集』, 2019, pp.42-43.				
② “An Evaluation of Environmental Load Reduction in Mikawa Bay: The Input-Output Model Approach,” <i>Theoretical and Empirical Analysis in Environmental Economics</i> , Springer, 2019, pp.167-183.				
③ “人生100年時代を意識したJリーガー年齢の基礎分析,” 『日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集』, 2019, pp.58-59.				
④ “Evaluation of the Water-environment Policy in the Toyogawa Basin, Japan,” <i>Socioeconomic Environmental Policies and Evaluations in Regional Science</i> , Springer, 2016, pp.651-666.				
⑤ “農地政策の転換における土地改良法の問題点 -土地改良区の事業における代表性の分析,” 『土木学会論文集B1 (水工学)』, Vol.70, No.4, I 283-I 288, 2014.				
所属学会	日本地域学会, The Regional Science Association International, 日本環境共生学会, 環境情報科学センター, 日本港湾経済学会中部部会, 東アジア鰻学会, 日本オペレーションズ・リサーチ学会			


ふりがな	さなだ はるこ			
氏名	真田 治子			
職名	教授	学位		博士(日本語日本文学)
主な担当科目	【学部】日本語表現法 情報基礎 ゼミナール 【大学院】地域文化特論			
趣味・特技	ヨーロッパの建築を見ること			
学生に推薦する本	ウンベルト・エーコ『論文作法』而立書房			
教員からのメッセージ	学生時代に未来の自分への種を蒔こう。 どんなことも興味を持って積極的に探求して下さい。 たとえ小さな経験でも社会に出てから意外に役に立ちます。 自分が知らなかった世界に、面白いことや素晴らしいこととの 出会いがあるかもしれません。			
略歴	学習院大学文学部国文科卒業。日本IBM(株)システムズ・エンジニア勤務を経て、学習院大学大学院人文科学研究科(日本語日本文学専攻)博士前期課程修了、同大学院博士後期課程単位取得退学。ドイツ学術交流会(DAAD)短期奨学生としてドイツ・トリア大学計量言語学科、ポッフム大学言語学研究所に研究滞在。日本学術振興会特別研究員、都留文科大学・東京学芸大学・立正大学・法政大学等非常勤講師、埼玉学園大学准教授、同教授を経て現職に至る。			
専門分野	日本語学・計量言語学・日本語史 (現代日本語及び明治時代から現代までの言語変化の計量的分析)			
現在の研究テーマ	日本語の語彙の計量的分析、学術用語の定着過程の検証			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 「『哲学字彙』の見出し語とフェノロサ講義「哲学史」」近代語学会編『近代語研究』第23集, 2022年9月 武蔵野書院				
② 「文の長さや節の長さの「自然な」均衡に関する研究— 翻訳文へのMenzerath-Altmannの法則の適用 —」『計量国語学』33巻3号(特集「新しい語彙研究」招待論文), pp. 114-129, 2021年12月				
③ 「明治期におけるドイツ科学用語の受容」『ドイツ語と向き合う』2020年8月 ひつじ書房				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① 「Quantitative aspects of the clause: length, position and depth of the clause」2019年10月 Journal of Quantitative Linguistics, vol. 26-4, pp. 306-329				
② 「Negentropy of dependency types and parts of speech in the clause」『Quantitative analysis of dependency structures (Book series Quantitative Linguistics)』2018年10月 Berlin & New York: Walter de Gruyter				
③ 『日本語大事典』(共著) 2014年10月 朝倉書店				
④ 招待講演「明治期の学術用語が一般化するまで」日本語学会2014年度春季大会70周年記念シンポジウム「学術日本語の歴史と未来—大学教育国際化時代を迎えて」2014年5月				
⑤ 『講座ITと日本語研究・第8巻質問調査法と統計処理』(共著) 2012年6月 朝倉書店				
所属学会	計量国語学会(理事・編集長)・日本語学会(編集委員)・国際計量言語学会(アジア担当理事)			


ふりがな	すぎもと りょうへい			
氏名	杉本 良平			
職名	特任講師	学位	修士(経済学)	
主な担当科目	ミクロ経済学演習、マクロ経済学演習、数学基礎、統計学基礎			
趣味・特技	将棋、書道			
学生に推薦する本	日本経済新聞社編(2024)『Q&A 日本経済のニュースがわかる! 2025年版』日本経済新聞出版。			
教員からのメッセージ	経済学を楽しく学びながら、常に高い目標を持って達成できるように努力しましょう。			
略歴	関東学院大学経済学部卒業 明治大学大学院政治経済学研究科博士前期課程修了 明治大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学 電力中央研究所協力研究員 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部研究専門職 東京福祉大学特任講師			
専門分野	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、景気変動論			
現在の研究テーマ	リアルタイムデータによる景気変動分析 サービス経済における景気指標の開発と景気予測			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
①「ハミルトンフィルターとHPフィルターによるGDPギャップの推定とデータ改定に関する一考察」立正大学経済学会編『経済学季報』第74巻、第1号、pp.23-47、2024年。 ②「RSVDによる季節調整と商業動態統計調査のデータ改定に関する一考察」立正大学経済学会編『経済学季報』第73巻、第1号、pp.57-78、2023年。 ③「第3次産業活動指数の主要業種別におけるデータ改定とパンデミック不況に関する一考察」立正大学経済学会編『経済学季報』第71巻、第4号、pp.105-132、2022年。 ④「第3次産業活動指数のデータ改定に関する一考察」『東京福祉大学・大学院紀要』第9巻、第1-2合併号、pp.3-20、2019年。				
<b>上記以外の研究業績(5点以内)</b>				
①「電中研短期マクロ計量経済モデル2012—財政乗数の変化と震災後の節電量の推定—」電力中央研究所報告、Y12032、pp.1-36、2013年(林田元就、間瀬貴之と共著)。 ②「開放経済におけるIS-MP分析とアジア共通通貨の導入の是非について」『応用経済学研究』第5巻、勁草書房、pp.104-121、2011年。 ③「日本の地域におけるIS-MP分析による経済ショックの対称性に関する一考察」『応用経済学研究』第4巻、勁草書房、pp.14-29、2010年。 ④「日本とイギリスにおける成長と循環の要因分析」『九州経済学会年報』第47集、九州経済学会編、pp.75-79、2009年。 ⑤「家計と企業の期待を盛り込んだ景気判断に関する考察」『九州経済学会年報』第46集、九州経済学会編、pp.67-74、2008年。				
所属学会	日本経済学会、日本応用経済学会、景気循環学会、九州経済学会、経済教育学会			


ふりがな	せりた こうじ			
氏名	芹田 浩司			
職名	教授	学位	修士	
主な担当科目	【学部】開発経済学、多国籍企業論、グローバル産業論 【大学院】開発経済学特論、開発経済学特研			
趣味・特技	音楽鑑賞			
学生に推薦する本	アダム・スミス『国富論』 P. サムエルソン、W. ノードハウス『サムエルソン 経済学』			
教員からのメッセージ	幅広い知的関心をもって様々な経験をし、自分に合った方向性を見出して いってください。またできるだけ多くの仲間をつくってください。			
略歴	最終学歴：東京大学 大学院総合文化研究科 博士課程 単位修得満期退学。 職歴：共同通信社記者、東京大学助手、帝京大学経済学部専任講師、 釧路公立大学経済学部准教授、立正大学経済学部准教授を経て、 現職。			
専門分野	開発経済学、ラテンアメリカ経済、多国籍企業論			
現在の研究テーマ	発展途上国の経済発展に対する経済グローバル化の影響－メキシコとブラジ ル自動車産業の事例を中心に			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 単著「GVCアプローチとメキシコ自動車産業」『経済志林』第89巻 第2号、2022年3月。 ② 単著「メキシコ・マキラドーラの50年－成長の軌跡と同国開発戦略への含意－(下)」『経済学季報』第69巻第4号、2020年3月。 ③ 単著「メキシコ・マキラドーラの50年－成長の軌跡と同国開発戦略への含意－(上)」『経済学季報』第68巻第4号、2019年3月。				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① 単著「経済グローバル化とメキシコ自動車産業－国内部品産業に対する多国籍企業戦略のインパクト」『アジア経済』第41巻 第3号、2000年3月。 ② 単著「自動車・電機電子産業とメキシコのマキラドーラ－マキラ型発展戦略の限界」河村哲二編『グローバル経済下のアメリカ日系工場』(第I部「北米日系工場をめぐる経済・経営環境と企業戦略」の第5章)、東洋経済新報社、2005年4月。 ③ 単著「グローバリゼーション時代におけるメキシコ自動車産業の発展とその課題」『海外投融資』第20巻第6号、2011年11月。 ④ 単著「ブラジルにおける自動車産業・市場の発展と多国籍自動車メーカー戦略」上山邦雄編『グローバル競争下の自動車産業－新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』第7章、日刊自動車新聞社、2014年3月。 ⑤ 単著「経済グローバル化時代における“保護主義”政策のあり方－ブラジルとメキシコにおける二つの開発戦略の比較分析を通じて」河村哲二・芹田浩司ほか編『グローバル資本主義と新興経済』第5章、日本経済評論社、2015年12月。				
所属学会	日本国際経済学会			


ふりがな	たいら い さ お			
氏名	平 伊佐雄			
職名	准教授	学位	経済学修士	
主な担当科目	【学部】経済史基礎・経済史・欧州経済史 【大学院】西洋経済史特論			
趣味・特技	写真撮影機のコレクション			
学生に推薦する本	永島穰二『ヨーロッパ自動車人生活』二玄社			
教員からのメッセージ	君はガルシアへ手紙を届けられるか。			
略歴	1991年3月 大東文化大学経済学部卒業 1999年3月 大東文化大学経済学研究科博士後期課程退学 1999年4月 立正大学経済学部講師 2007年4月－2008年3月 ドイツ・ギーセン大学歴史・文化学部歴史学研究所中世史分野客員研究者 2009年4月 立正大学経済学部准教授			
専門分野	ヨーロッパ中世経済史・教会史・修道院史			
現在の研究テーマ	シトー会修道院による農業運営・商業活動について			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 「日蓮宗大学林・日蓮宗大学の時代－専門学校としての日蓮宗大学林の開林から財団法人の設立まで」『立正大学史紀要』第7号 2024年3月 ② 「キャンパス移転問題」『立正大学史料編纂室の栞』第10号 2024年3月 ③ 「150年前における鉄道の開業と立正大学開校の起点」『立正大学史料編纂室の栞』第9号 2023年3月 ④ 「学生食堂の今昔」『立正大学史料編纂室の栞』第8号 2022年3月 ⑤ 「谷山ヶ丘に建つ新校舎－絵はがきからの考察－」『立正大学史紀要』第5号 2020年3月				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
① 「シトー会修道院のグランギアについての覚書き」『立正史学』第109号 2011年3月 ② P. ディンツェルバッハー、J. レスター・ホッグ、朝倉 文市 監訳『修道院文化史事典』八坂書房 2008年1月、2014年10月[普及版] シトー会の章邦訳 ③ 「アウグスチノ修道参事会律院シッフエンベルクの創設事情について」『経済学季報』第58巻第1号（立正大学経済学会）2008年8月 ④ 江崎 玲於奈、他監修『きつずジャポニカ』小学館 2006年6月 部分項目執筆 ⑤ 「シトー会修道院の都市館とグランギア－ヒンメロート修道院の事例から－」『比較都市史研究』第24巻 第2号 2005年12月				
所属学会	社会経済史学会、比較都市史研究会、西洋史研究会、産業遺産学会			





ふりがな	たかはし みゆき			
氏名	高橋 美由紀			
職名	教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】経済史基礎、日本経済史、経済史1・2 【大学院】日本経済史特論、日本経済史特殊研究			
趣味・特技	テニス、旅行			
学生に推薦する本	ジャレド・ダイヤモンド(2019)『危機と人類』日本経済新聞出版社 レイチェル・カーソン(2001)『沈黙の春』新潮文庫 石橋湛山(1985)『湛山回想』岩波文庫			
教員からのメッセージ	大学時代に自分が「これに打ち込んだ」と自信を持って言えるものを見つけよう。学生時代の時間は、自由に過ごせる貴重なもの。うっかりしているとすぐに時間は経ってしまう。本もたくさん読んでほしい。 自分の夢を持ってそれを目指してほしい。努力は必ず報われる。			
略歴	東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業、一橋大学大学院経済学研究科修了(博士(経済学))、一橋大学経済研究所専任講師を経て、立正大学経済学部准教授。			
専門分野	日本経済史、歴史人口学			
現在の研究テーマ	歴史の中で、都市・中小都市・農村における人口と家族は経済とどのような関わりを持って動いていたのか。江戸時代の女性の働き方と出産・子育ての状況。近世における家畜(牛と馬)の飼養状況。			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 「明治前期日本におけるコレラ流行の数量的分析」『経済学季報』第72巻第4号、2023年3月、pp. 57-81。 ② 「人口と飢饉—歴史人口学の成果から考える」平井健介・島西智輝・岸田真 編著『ハンドブック 日本経済史 徳川期から安定成長期まで』2021年12月、ミネルヴァ書房、pp. 6-9。 ③ 「人口減少社会に生きるということ—歴史人口学からの問い」『世界』岩波書店、947号、2021年8月、pp. 138-147。 ④ 「歴史人口研究のためのデータ」『統計』7月号、2021年7月、日本統計協会、pp. 4-9。 ⑤ 「近世日本の人口と気候」(共著)中塚 武監修、鎌谷かおる・渡辺浩一編『気候変動から近世をみなおす—数量・システム・技術』、2020年12月、臨川書店、pp. 51-96。				
<b>上記以外の研究業績(5点以内)</b>				
① 『在郷町の歴史人口学—近世における地域と地方都市の発展』、ミネルヴァ書房、2005年5月。 ② 「近世東北の人口政策」、小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史—せめぎあう家族と行政』日本経済評論社、2019年9月、pp.29-52。 ③ 「在郷町の結婚と再婚」黒須里美編『歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚』、麗澤大学出版会、2012年3月。 ④ 「近世中期の人口減少と少子化対策」『日本労働研究雑誌』No. 562、労働政策研究・研修機構、2007年5月、pp.3-12。 ⑤ 「陸奥国二本松藩における縄引(割地システム)—経済変数としての持高データ再考」『麗澤経済研究』第13巻第1号、2005年3月、pp.65-74。				
所属学会	社会経済史学会、日本人口学会、日本家族社会学会			


ふりがな	とのぎ このみ			
氏名	外木 好美			
職名	准教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】国際金融論1・2, 証券市場論1・2			
趣味・特技	散歩(鉄道遺産めぐり, 中小河川・用水めぐり)			
学生に推薦する本	エルハナン ヘルプマン(著)『経済成長のミステリー』 村松 昭(著)『日本の川 たまがわ』			
教員からのメッセージ	学生生活を通じて、本音・本気で話せる、一生ものの友人を作ってください			
略歴	中央大学経済学部卒業 一橋大学経済学研究科博士課程単位取得満期退学 内閣府経済社会総合研究所景気統計部事務官 神奈川大学経済学部特任助教			
専門分野	企業の設備投資行動, 無形資産, 企業価値			
現在の研究テーマ	企業価値, 無形資産, 企業の設備投資行動, 成長会計			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① Does the productivity J-curve exist in Japan?—Empirical studies based on the multiple q theory, <i>Journal of the Japanese and International Economies</i>, vol. 61, issue C, 2021【共著】</p> <p>② <i>Multiple q and Investment in Japan</i>, Springer, 2020【共著】</p>				
<b>上記以外の研究業績(5点以内)</b>				
<p>① Do Intangibles Contribute to Productivity Growth in East Asian Countries? Evidence from Japan and Korea, <i>The World Economy: Growth or Stagnation?</i>, Cambridge University Press, 2016.【共著】</p> <p>② 設備投資研究のフロンティア『異質性』の解明と Multiple q モデル, 『日本経済 変革期の金融と企業行動』第4章【共著】</p> <p>③ 刈り込み処理と景気動向指数—「刈り込みDI」を用いた外れ値の把握—, 『世界同時不況と景気循環分析』第2章</p> <p>④ Intangible Investment in Japan: Measurement and Contribution to Economic Growth, <i>the Review of Income and Wealth</i>, Vol.5, Issue 3, pp.171-736.【共著】</p> <p>⑤ 「外国人投資家の株式所有と企業価値の因果関係—分散不均一性による同時方程式の識別—」『経済研究』第58巻 47-60頁.【共著】</p>				
所属学会	日本経済学会 日本金融学会			

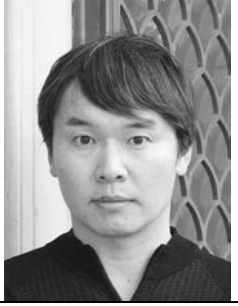
ふりがな	なかむら むねゆき			
氏名	中村 宗之			
職名	准教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】 マルクス経済学, 景気循環論 【大学院】 マルクス経済学特論			
趣味・特技	読書, 旅行			
学生に推薦する本	マシュー・サイド『多様性の科学』, ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2021年 安本美典『データサイエンスが解く邪馬台国』, 朝日新聞出版(朝日新書), 2021年			
教員からのメッセージ	楽しく学んでいきましょう。			
略歴	埼玉大学経済学部卒業 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 上武大学ビジネス情報学部准教授などを経て、 2012年より立正大学准教授			
専門分野	経済理論(貨幣・信用論, 分配論)			
現在の研究テーマ	貨幣, 労働, 分配, 福祉に関する理論的研究			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
①(論文)「市民的統合と政治文化ーエマニュエル・トッドの家族類型論の視角からー」, 日本科学者会議『日本の科学者』59-4, 2024年4月 ②(論文)「マルクスの平等論」, 新村聡・田上孝一編著『平等の哲学入門』, 社会評論社, 第6章, 2021年1月				
<b>上記以外の研究業績(5点以内)</b>				
①(論文)「資本主義論の諸問題」, 五味久壽・元木靖・苑志佳・北原克宣編著『21世紀資本主義世界のフロンティアー経済・環境・文化・言語による重層的分析ー』, 批評社, 第1章, 2017年4月 ②(論文)「ホモ・サピエンスの交換性向ー類人猿の比較研究ー」, 勝村務・中村宗之編著『貨幣と金融ー歴史的転換期における理論と分析ー』, 社会評論社, 第20章, 2013年4月 ③(論文)「非正規雇用の待遇改善を求める根拠について」, 小幡道昭・青才高志・清水敦編『マルクス理論研究』, 御茶の水書房, 第16章, 2007年3月 ④(論文)「搾取論と自己所有権」, 『経済理論学会年報』第38集, 2001年9月 ⑤(論文)「貨幣価値の考察」, 東京大学経済学研究会『経済学研究』第40号, 1998年2月				
所属学会	経済理論学会, 経済学史学会, 比較経済体制学会, 社会主義理論学会, 日本ベジタリアン学会			

ふりがな	はやし やすし			
氏名	林 康 史			
職名	教授	学位	法学修士	
主な担当科目	【学部】金融論、現代商品市場論 【大学院】金融特論、金融特殊研究			
趣味・特技	旅行・観劇。特技はコストパフォーマンスのいい飲食店を嗅ぎ分けること。			
学生に推薦する本	石橋湛山『湛山回想』：在学中に読むことをお勧めします。			
教員からのメッセージ	IT、金融システムの進化にともなって、金融市場での出来事が世界中の人々に影響を与える時代となりました。これは歴史上はじめてのことと言えます。一般消費者にとっても、金融市場や金融商品に通じておくことが必要です。知識ばかりでなく、金融ケイパビリティも身につけておかねばなりません。			
略歴	大阪生まれ。大阪大学法学部卒。法学修士（東京大学）。一橋大学大学院法学研究科博士課程中退。クボタ、住友生命保険、大和証券投資信託、あおぞら銀行（職務経験は、輸出営業、原価管理、為替ディーラー、エコノミスト、ストラテジスト等）を経て、2005年から現職。華東師範大学（客員教授）、一橋大学（非常勤講師）等。その他、官庁等の委員会メンバー、評論活動等。			
専門分野	金融論、貨幣論、外国為替論、金融法			
現在の研究テーマ	①金融システム・金融法、②マーケットストラクチャー・価格形成メカニズム、③行動ファイナンス、④パーソナルファイナンス、⑤金融教育、⑥ドル化、⑦貨幣論・地域通貨、⑧マイクロファイナンス、⑨商品論、⑩石橋湛山			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
①共著（林康史・歌代哲也）「立正大学経済学部学生課外学習プログラム『公益通貨（地域通貨）サラリの流通の実態調査』報告書」立正大学経済学会『経済学季報』（第69巻第4号）2020年3月				
②Yasushi Hayashi, Tetsuya Utashiro “An Examination of the Complementary Currencies Past and Present” The Rissio international journal of academic research in culture and society 3, 2020年3月				
③「（公益財団法人トラスト未来フォーラム委託調査）信託会社による信託業務の内容及び信託制度の活用方法に関する調査」（共同執筆）地域金融研究所 2022年11月				
④単著「コメ先物市場を考える—何を見据えて、どこに向かうべきなのか」農政調査委員会『農畜産物の価格形成と先物市場—国際穀物市場に学ぶ—「農産物市場問題研究会」の記録』『日本の農業 あすへの歩み』（263-264号）2024年2月				
⑤単著「貨幣における信用とその構造」立正大学経済学会『経済学季報』（第74巻第2号）2024年10月				
⑥単著「山田方谷の藩札刷新」山田方谷研究会『山田方谷研究会会誌〈7〉』2024年11月				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
①単著「英国の金融法制度の立法および改正におけるネゴシエイション」林康史 編『ネゴシエイション—交渉の法文化』第1章（法文化叢書6）、国際書院 2009年2月				
②編著『貨幣と通貨の法文化』国際書院 2016年9月				
③共著（歌代哲也・林康史）「アーヴィング・フィッシャーのスタンプ紙幣（補充通貨）の意義」『経済学季報』（第68巻第2・3号）2019年1月				
④単著「食品安全と事業者の自主規制・自主管理」『食品安全法制市民の安心・安全』第3編第4章、第一法規 2019年1月				
⑤共著（林康史・歌代哲也・篠本沙希・木下直俊）「マイクロファイナンスのコンセプトの奨学金制度への応用と金融教育」立正大学経済学会『経済学季報』（第69巻第1号）2019年7月				
所属学会	金融学会、金融法学会、法と経済学会、法文化学会、F P学会			


ふりがな	ほーまん ゆか			
氏名	ホーマン 由佳			
職名	教授	学位	文学修士 教育学修士	
主な担当科目	【学部】異文化コミュニケーション Business English Skills (国際コース)			
趣味・特技	読書、英語以外の外国語習得 (に挑戦したい)			
学生に推薦する本	Spencer Johnson “Who Moved My Cheese?” (Putnam) A.W.コーンハウザー『大学で勉強する方法』(玉川大学出版部)			
教員からのメッセージ	外国語を学ぶと、様々な人とのコミュニケーションが可能になるだけでなく、自分自身の視野を広げるツールを身につけることになります。幅広い分野でグローバル化が進んでいる中、世界共通語としての英語を学び、大学在学中に英語力に磨きをかけませんか？語学に王道はありません。しかし、自ら積極的に英語に触れて吸収する継続的な努力があれば、必ず成果が出て皆さんを成長させてくれるはずです。			
略歴	成蹊大学文学部卒業、成蹊大学大学院(文学修士)、テンプル大学大学院(教育学修士)、国際基督教大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学。外資系航空会社勤務後、通訳、企業研修講師、通訳養成講座講師、さまざまな大学での非常勤講師を経て現職。			
専門分野	英語教育、メディア英語教育			
現在の研究テーマ	ビジネス英語			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 『大学における英語教育とメディアリテラシー -メディアテキストによる市民的教養の可能性』 ソーシャルキャピタル、2017年7月。 ② 『21世紀資本主義世界のフロンティア - 経済・環境・文化・言語による重層的分析』 批評社、(第8章「新聞メディアの社会言語学的アプローチ - 批判的ディスコース分析(CDA)の一考察」執筆担当) 2017年4月。				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① 「ワインの味わいと概念メタファー」 <i>Media, English and Communication</i> . No.2 (第50号)、日本メディア英語学会、2012年8月。 ② “Metaphor in Economic Discourse” 経済学季報第60巻第3・4号、立正大学、2011年3月。 ③ “Improving Reading Courses at Japanese Universities: from “Yakudoku” to “Reading Strategies” and “Extensive Reading” 経済学季報第60巻第2号、立正大学、2011年2月。 ④ 『英字新聞1分間リーディング Vol. 3』 日本経済新聞出版社、2010年12月。 ⑤ 『英字新聞1分間リーディング Vol. 2』 日本経済新聞出版社、2010年6月				
所属学会	日本メディア英語学会			


ふりがな	みやがわ こうぞう			
氏名	宮川 幸三			
職名	教授	学位	経済学修士	
主な担当科目	【学部】計量経済学・実証経済分析・ゼミナール 【大学院】計量経済学特論			
趣味・特技	料理			
学生に推薦する本	尾崎巖(2004)『日本の産業構造』慶應義塾大学出版会			
教員からのメッセージ	高い目標を持ちましょう。			
略歴	慶應義塾大学経済学部卒業 慶應義塾大学経済学研究科修士課程修了 慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程単位取得退学 慶應義塾大学産業研究所 専任講師 慶應義塾大学産業研究所 准教授 立正大学経済学部 准教授 立正大学経済学部 教授（現職）			
専門分野	経済統計学、産業連関分析			
現在の研究テーマ	産業分類・生産物分類に関する研究、SUT推計手法に関する研究、日本の商業活動の実証分析、デジタルエコノミーの統計的把握、観光経済の実証分析			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① 「令和3年「経済センサスー活動調査」と生産物分類」（単著），『経済統計研究』第51巻IV号，経済産業統計協会，2024年.				
② 「供給・使用表（SUT）における産業分類および生産物分類の適用」（単著），『産業連関』，31巻2号，環太平洋産業連関分析学会，2023年.				
③ 「卸・小売産出のベンチマーク推計ー「経済センサスー活動調査」によるGDP測定精度の検討ー」（共著），『経済分析』第207号，内閣府経済社会総合研究所，2023年.				
④ 「商業の産業分類・生産物分類に関する一考察」（単著），『経済統計研究』第49巻IV・第50巻I合併号，経済産業統計協会，2022年.				
⑤ 「商業統計データによる流通経路別マージン率の分析ー商業部門の統計精度向上に向けた一考察ー」（単著），『研究所報』，No.52，日本統計研究所，2021.				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
① “Benchmark 2011 integrated estimates of the Japan-US price-level index for industry outputs”（共著）， <i>Measuring Economic Growth and Productivity</i> (Edited by B. M. Fraumeni) 第12章，Academic Press, 2019年.				
② 『日中連関構造の経済分析』（共著），勁草書房，2016年.				
③ 『アメリカ経済センサス研究』（共著）慶應義塾大学出版会，2008年.				
④ 『中国の地域産業構造分析』（共著）慶應義塾大学出版会，2008年.				
⑤ 『参入・退出と多角化の経済分析ー工業統計データを用いた実証理論研究ー』（共著）慶應義塾大学出版会，2003年.				
所属学会	環太平洋産業連関分析学会 日本地域学会 経済統計学会 International Input-Output Association (IIOA)			

ふりがな	むらた けいこ			
氏名	村田 啓子			
職名	教授	学位	経済学博士 (D. Phil in Economics)	
主な担当科目	【学部】日本経済論1・2 【大学院】日本経済論特論			
趣味・特技	山歩き、日本経済を観察すること			
学生に推薦する本				
教員からのメッセージ	大学での学問を通じ自分で考える力を身につけましょう。			
略歴	東京大学経済学部卒業 オックスフォード大学経済学博士 (D. Phil. in Economics) 経済企画庁 (現内閣府) 調査局内国調査第一課課長補佐 OECD経済局マクロ経済政策分析課エコノミスト 日本銀行金融研究所シニアエコノミスト 内閣府政策統括官付参事官 (経済財政—海外分析担当) 内閣府経済社会総合研究所上席主任研究官 東京都立大学経営学研究科教授 東京都立大学名誉教授			
専門分野	現代日本経済			
現在の研究テーマ	現代日本経済の実証的研究、政策効果分析、家計行動			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
① On the decline in propensity to consume during the Abenomics period, ESRI Research Note, 77, Economic and Social Research Institute, Cabinet Office, 2023 (共著). ② Dissaving by the elderly in Japan: Empirical evidence from survey data, <i>Seoul Journal of Economics</i> 32(3) 27-53, 2019. ③ The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households, <i>Journal of Population Economics</i> 32(1) 309-346, 2019 (共著). ④ 「日本経済のマクロ分析 低温経済のパズルを解く」日本経済新聞出版社、2019年 (共著) ⑤ Is there a retirement consumption puzzle in Japan? Evidence from a household panel dataset spanning several years, <i>Applied Economics</i> 51(16), 2018 (共著).				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
① How does the first job matter for an individual's career life in Japan?, <i>The Journal of The Japanese and International Economies</i> 29 154-169, 2013 (共著). ② Changes in the Japanese employment system in the two lost decades, <i>ILR Review</i> 65(4) 810-846, 2012 (共著). ③ Credit, housing collateral, and consumption: Evidence from Japan, the UK, and the US, <i>Review of Income and Wealth</i> 58(3) 397-423, 2012 (共著). ④ Do small depositors exit from bad banks?: Evidence from Japanese small financial institutions, <i>Japanese Economic Review</i> 57(2) 260-278, 2006 (共著). ⑤ Precautionary saving and income uncertainty: Evidence from Japanese micro data, <i>Monetary and Economic Studies</i> 21(3) 21-52, 2003.				
所属学会	日本経済学会			

ふりがな	やまぐち かずお			
氏名	山口 和男			
職名	専任講師	学位	博士【経済学】	
主な担当科目	公共経済学, ミクロ経済学			
趣味・特技	散歩			
学生に推薦する本	G・S・ベッカー, G・N・ベッカー著 (鞍谷雅敏, 岡田滋行訳) 『ベッカー教授の経済学ではこう考える』東洋経済新報社, 1998			
教員からのメッセージ	責任ある行動をとることを願う			
略歴	東京大学大学院経済学研究科博士課程修了			
専門分野	ゲーム理論, 公共経済学, ミクロ経済学			
現在の研究テーマ	施設の立地の社会的選択			
過去5年間の主要研究業績				
① Spatial bargaining in rectilinear facility location problem, <i>Theory and Decision</i> 93, 69-104 (2022) [単著]				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① Outcomes of bargaining and planning in single facility location problems, <i>Mathematical Social Sciences</i> 59, 38-45 (2010) [共著]				
② Location of an undesirable facility on a network: a bargaining approach, <i>Mathematical Social Sciences</i> 62, 104-108 (2011) [単著]				
③ Borda winner in facility location problems on sphere, <i>Social Choice and Welfare</i> 46, 893-898 (2016) [単著]				
所属学会	日本経済学会			



ふりがな	よしだ ゆみ			
氏名	吉田 友美			
職名	准教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	環境経済評価法1・2(特殊講義8) フィールドワーク1・2 統計学基礎 C			
趣味・特技	書道, 音楽鑑賞, Pythonによるプログラミング(現在習得中), 読書			
学生に推薦する本	中室ほか(著)『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』, ダイヤモンド社, 2017年. トマ・ピケティ(著)『21世紀の資本論』, みすず書房, 2014年. 貴志 祐介(著)『天使の囁き』, 角川ホラー文庫, 2000年. 小川 一水(著)『天冥の標 シリーズ』, 早川書房, 2013年～			
教員からのメッセージ	自分の「比較優位」な部分を見つけよう!			
略歴	立命館大学経済学部経済学科 卒業 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程 修了 京都大学大学院農学研究科 PD研究員 東北大学大学院環境科学研究科 助教 福井工業大学環境情報学部経営情報学科 准教授			
専門分野	環境財などの「非市場財の経済評価」			
現在の研究テーマ	星空環境・観光の経済評価—福井県大野市六呂師高原の事例 珊瑚礁保全の経済評価			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
<p>① Effects of information provision on willingness to pay for conservation of alpine plants in Japan <i>Journal of Environmental Management</i>, 2023. (査読付, 共著)</p> <p>② Valuation of coral reefs in Japan: Willingness to pay for conservation and the effect of information, <i>Ecosystem Services</i> 46, 2020. (査読付, 共著)</p> <p>③ Which dynamic pricing rule is most preferred by consumers?? Application of choice experiment, <i>Journal of Economic Structures</i>, 6 (4), 2017. (査読付, 共著)</p> <p>④ 地理的加重回帰モデルを用いた生活系ごみの排出量の地域差に関する研究 - 分別と有料化政策の効果 -, 中京大学国際学部紀要, 2号, 2021年. (査読無, 共著)</p>				
<b>上記以外の研究業績 (5点以内)</b>				
<p>① 琵琶湖保全政策に対する住民の選好分析, 日本環境共生学会誌, 27, 2015年. (査読付, 単著)</p> <p>② Environmental Tax Burden in a Vertical Relationship with Pollution abatement R&amp;D, <i>Journal of Management and Sustainability</i>, 4 (1), 2014. (査読付, 共著)</p> <p>③ Too Cheap to Eat: The Signaling Effect of Price on Food Safety, <i>International Journal of Economic Policy Studies</i>, 4, 2009. (査読付, 共著)</p> <p>④ 持続可能社会を支援するシステム分析, 環境科学会誌, 26 (6), 2013年. (査読付, 共著)</p> <p>⑤ リサイクル行動の規定要因とその社会的便益, 廃棄物資源循環学会論文誌, 20 (5), 2009年 (査読付, 単著)</p>				
所属学会	環境経済・政策学会			

ふりがな	わたべ まさひろ			
氏名	渡部 真弘			
職名	教授	学位	Ph.D. in Economics	
主な担当科目	【学部】産業組織論・ゲーム理論・特殊講義1・2 (Microeconomics with Calculus)・学修の基礎 【大学院】ミクロ経済学特論			
趣味・特技	音楽鑑賞（主にクラシック）			
学生に推薦する本	ショーペンハウエル『知性について 他四編』岩波文庫			
教員からのメッセージ	論理的かつ客観的に物事を捉える習慣を身につけましょう。			
略歴	慶應義塾大学経済学部卒業 Washington University in St. Louis 経済学研究科博士課程修了 明星大学経済学部 准教授 立正大学経済学部 教授			
専門分野	応用ミクロ経済学			
現在の研究テーマ	プラットフォームや非線形価格に関する基礎理論			
<b>過去5年間の主要研究業績</b>				
①Platform Competition in Two-Sided Markets with Single-Homing, 立正大学経済学季報, Vol.72(4), 83-105 (2023). [単著]				
<b>上記以外の研究業績（5点以内）</b>				
所属学会	日本経済学会 American Economic Association			



〔V〕 立正大学大学院経済学研究科  
申し合わせ・内規



# 立正大学大学院経済学研究科の 学位審査基準に関する申し合わせ

立正大学大学院経済学研究科における修士および博士の学位審査は、既定の学位審査に関する申し合わせを踏まえ、その結果を総合的に判断し、可否を判定する。

1. 博士論文の「審査委員会」の組織について  
審査委員会は、審査にあたり経済学研究科が必要と判断した場合には、学外（大学・研究所等）から適切な人物を審査委員（副査2名のうちの1名）として招聘することとする。
2. 博士「学位請求論文」提出条件について  
提出論文のほかに本人が筆頭（第1）著者となっている、公表論文が存在すること。

## 【修士学位審査の項目】

1. 論文の目的：研究テーマの課題と問題意識が明確であるか。
2. 論文の方法：研究目的を達成するための方法が適切であるか。
3. 論文の構成：結論にいたる章節構成が、論理的で首尾一貫したものになっているか。
4. 論文の形式：注、図・表・写真等の配置、引用文献、文章表現等が適切であるか。
5. 論文の結論：結論について適切なまとめがなされているか。
6. 口頭試問：①提出論文に対する口頭試問に適切な返答がなされたか。  
②経済学の学位に相応しい学識に対する口頭試問に適切な返答がなされたか。

## 【博士学位審査の項目】

1. 論文の目的：関連分野の研究史に関する適切なレビューをもとに、明確な研究目的と研究の意義が明示されているか。
2. 論文の方法：研究目的を達成するための調査、分析、考察方法が適切であるか。
3. 論文の構成：結論にいたる章節構成が、論理的で、首尾一貫したものになっているか。
4. 論文の形式：注、図・表・写真等の配置、引用文献、引用方法、文章表現等が適切であるか。
5. 論文の性格：理論的論文、実証的論文、手法開発に関する論文等、論文の性格が明確になっているか。
6. 論文の結論：研究の結果、新しい知見や発見、実証を行い、明確なまとめがなされ、残された課題にも言及されているか。
7. 口頭試問：①提出論文に対する口頭試問に適切な返答がなされたか。  
②経済学の学位に相応しい学識に対する口頭試問に適切な返答がなされたか。
8. 総合的判断：自立して研究活動を行い得る知識と能力を有すると判断できるか。

## 附 則

この申し合わせは、平成21年10月20日から施行する。

平成27年7月21日改正、平成27年7月21日施行

## 立正大学大学院経済学研究科における 修士の学位審査に関する申し合わせ

第 1 条 大学院学則第15条に基づき、経済学研究科では以下の通り申し合わせる。

- 1) 学位申請の期間:年度内に1回の申請・審議の期間を設ける。合否判定は2月とする。  
指導教授は、1月の研究科委員会までに申請論文の研究内容にあった副査候補1名を決め、内諾を得ておく。
- 2) 論文の受付:申請者は1月の指定された期日までに、別表1に示された必要書類を指定された方法で研究科事務室に提出する。事務室は論文を受け付けるとともに申請者に受領票を渡し、ただちに論文を指導教授に渡す。
- 3) 審査委員会の設置:研究科長は1月の研究科委員会において、主査1名、副査1名からなる審査委員会を研究科委員会に諮り設置する。
- 4) 口頭試問の実施:審査委員会は、申請者に対して論文に関する口頭試問を実施する。
- 5) 合否の判定:審査委員会は、論文と口頭試問の結果に基づいて審査報告書を作成し、研究科長に提出する。研究科長は2月の研究科委員会において合否の判定を行う。  
以上を別表第2に示す。

第 2 条 この申し合わせの改廃は研究科委員会にて行う。

### 附 則

本申し合わせは、令和4年4月1日から施行する。

令和6年11月12日改正、令和6年11月12日施行

### 別表1

No.	書 類 名	必要部数
1	修士論文	5部
2	論文要旨	5部
3	修士論文受領票	1部

### 別表2

月	申請者	審査委員会	研究科委員会	備 考
～1	必要書類一式を研究科事務室に提出			副査予定者の内諾を得ておく
1		審査開始	審査委員会の設置	事務室は申請者に受領票を渡し、指導教授に必要書類を渡す
～2	口頭試問	口頭試問、審査報告書の作成		
3				学位授与

# 立正大学大学院経済学研究科における 論文博士に関する内規

- 第 1 条 この内規は、本学大学院経済学研究科博士後期課程を修了しない者が請求する博士の学位（いわゆる論文博士）について、「立正大学大学院学位規則」に規定されていない事項に関して定めるものである。
- 第 2 条 論文博士を請求できるのは、大学卒業後7年以上の者とする。大学卒業者でない者もこれに準ずる。
- 第 3 条 「立正大学大学院学位規則」第5条による主査と副査（2名）のうちの1名とは学位請求論文に関連する専攻分野における博士後期課程担当教授であることを要する。
- 第 4 条 「立正大学大学院学位規則」第4条第3項の「筆記試験」は、専攻分野と2種類の外国語とについて行う。
- 2 外国語の種類については、論文提出者の希望および学位請求論文の研究分野との関連を参酌して、審査委員会が決定する。
  - 3 第1項の筆記試験は、論文審査に先立って、審査委員会が実施する。
- 第 5 条 「立正大学大学院学位規則」第4条第3項の「口頭試問」は、学位請求論文およびそれに関連のある分野に関して、審査委員会が論文審査の最終段階として行う。
- 第 6 条 研究科委員会は、学位申請者が次の各号のいずれかに該当するときは、その研究歴・学歴・職歴等を参考として第4条の筆記試験を免除することができる。
- (1) 大学院博士後期課程を担当する教授・准教授・専任講師（全部）
  - (2) 大学院博士前期課程（修士課程）を担当する教授・准教授・専任講師で、前号に準ずる者（一部または全部）
  - (3) 大学の教授・准教授・専任講師および権威ある研究所の所員で、第1号に準ずる者（一部または全部）
  - (4) 研究歴が12年以上で、その研究業績が専攻分野の学界で明白に認められている者（一部または全部）

## 附 則

この内規は、平成10年7月14日から実施する。

平成19年3月19日改正、平成19年4月1日施行



## 立正大学大学院経済学研究科における 課程博士の学位審査に関する申し合わせ

1. 大学院学則第15条に基づき、経済学研究科では以下の通り申し合わせる。
  - 1) 学位申請の期間:年度内に2回の申請・審議の期間を設ける。合否判定は2月および10月とする。主査となる指導教授は、予定される申請者を、前もって研究科委員会に報告しておく。指導教授はまた、申請論文の研究内容にあった副査候補2名を決め、内諾を得ておく。
  - 2) 論文の受付:申請者は10月末日(2月合否判定)または5月末日(10月合否判定)までに、申請論文3部(簡易綴じ可)を、申請書等必要書類(1.申請書1部、2.和文または英文の論文要旨各3部、3.論文題目3部、4.研究業績書3部、5.履歴書1部、6.副論文がある場合は各3部)とともに大学院事務室に提出する。事務室は論文を受け付けるとともに申請者に受領票を渡し、ただちに論文を指導教授に渡す。
  - 3) 指導教授は論文、申請書などの提出書類を確認し、研究科長に連絡する。
  - 4) 研究科長は11月(2月合否判定)または6月(10月合否判定)の研究科委員会において、審議依頼のあったことを報告して、受理の可否について審議をおこなう。受理が承認された場合は、主査1名、副査2名からなる審査委員会を研究科委員会に諮り設置する。
  - 5) 口頭試問の実施:審査委員会は、申請者に対して論文に関する口頭試問を実施する。
  - 6) 審査委員会は、論文と口頭試問の結果に基づいて審査報告書を作成し、研究科長に提出する。研究科長は2月または10月の研究科委員会において合否の判定をおこなう。同時に、審査委員会の判断が合格の場合は、申請論文1部を研究科委員会開催前の少なくとも3週間にわたって閲覧可能にする。ただし、審査の継続が必要な場合は、研究科委員会の議を経て、受理後1年以内限り審査期間を延長できる。申請者は合否判定時において本大学院に在学しなければならない。
  - 7) 研究科長は、合格者について必要書類を確認の上、学長に報告する。  
以上を別表第1および別表第2に示す。

### 附 則

本申し合わせは、平成20年4月1日から施行する。

平成29年2月9日改正、平成28年4月1日施行

別表第1 (2月合否判定のスケジュール)

月	申請者	審査委員会	研究科委員会	備考
4～7		指導教授による申請者の有無の確認		副査予定者の内諾を得ておく
～10	論文、申請書等一式を大学院事務室に提出			事務室は申請者に受領票を渡し、指導教授に必要な書類を渡す
11		審査開始	受理の可否について審議、審査委員会の設置	
～2		口頭試問、審査報告書の作成		論文閲読期間の設定
2	論文の製本		合否判定、学長への報告	
3				学位授与

別表第2 (10月合否判定のスケジュール)

月	申請者	審査委員会	研究科委員会	備考
1～4		指導教授による申請者の有無の確認		副査予定者の内諾を得ておく
～5	論文、申請書等一式を大学院事務室に提出			事務室は申請者に受領票を渡し、指導教授に必要な書類を渡す
6		審査開始	受理の可否について審議、審査委員会の設置	
～10		口頭試問、審査報告書の作成		論文閲読期間の設定
10	論文の製本		合否判定、学長への報告	
3				学位授与

## 立正大学大学院経済学研究科における 論文博士の学位審査に関する申し合わせ

1. 大学院学則第15条に基づき、経済学研究科では以下の通り申し合わせる。
  - 1) 学位申請の期間:年度内に2回の申請・審議の期間を設ける。合否判定は2月および10月とする。主査となる教授は、予定される申請者を、前もって研究科委員会に報告しておく。主査となる教授はまた、申請論文の研究内容にあった副査候補2名を決め、内諾を得ておく。
  - 2) 論文の受付:申請者は10月末日(2月合否判定)または5月末日(10月合否判定)までに、申請論文3部(簡易綴じ可)を、申請書等必要書類(1. 申請書1部、2. 和文または英文の論文要旨各3部、3. 論文題目3部、4. 研究業績書3部、5. 履歴書1部、6. 副論文がある場合は各3部)とともに大学院事務室に提出する。事務室は論文を受け付けるとともに申請者に受領票を渡し、ただちに論文を主査となる教授に渡す。
  - 3) 主査となる教授は論文、申請書などの提出書類を確認し、研究科長に連絡する。
  - 4) 研究科長は11月(2月合否判定)または6月(10月合否判定)の研究科委員会において、審議依頼のあったことを報告して、受理の可否について審議をおこなう。受理が承認された場合は、主査1名、副査2名からなる審査委員会を研究科委員会に諮り設置する。
  - 5) 口頭試問の実施:審査委員会は、申請者に対して論文に関する口頭試問を実施する。
  - 6) 審査委員会は、論文と口頭試問の結果に基づいて審査報告書を作成し、研究科長に提出する。研究科長は2月または10月の研究科委員会において合否の判定をおこなう。同時に、審査委員会の判断が合格の場合は、申請論文1部を研究科委員会開催前の少なくとも3週間にわたって閲覧可能にする。ただし、審査の継続が必要な場合は、研究科委員会の議を経て、受理後1年以内限り審査期間を延長できる。
  - 7) 研究科長は、合格者について必要書類を確認の上、学長に報告する。  
以上を別表第1および別表第2に示す。

### 附 則

本申し合わせは、平成20年4月1日から施行する。

平成29年2月9日改正、平成28年4月1日施行

別表第1 (2月合否判定のスケジュール)

月	申請者	審査委員会	研究科委員会	備考
4～7		申請者の有無の確認		主査となる教授は副査予定者の内諾を得ておく
～10	論文、申請書等一式を大学院事務室に提出			事務室は申請者に受領票を渡し、主査となる教授に必要な書類を渡す
11		審査開始	受理の可否について審議、審査委員会の設置	
～2		口頭試問、審査報告書の作成		論文閲読期間の設定
2	論文の製本		合否判定、学長への報告	
3				学位授与

別表第2 (10月合否判定のスケジュール)

月	申請者	審査委員会	研究科委員会	備考
1～4		申請者の有無の確認		主査となる教授は副査予定者の内諾を得ておく
～5	論文、申請書等一式を大学院事務室に提出			事務室は申請者に受領票を渡し、主査となる教授に必要な書類を渡す
6		審査開始	受理の可否について審議、審査委員会の設置	
～10		口頭試問、審査報告書の作成		論文閲読期間の設定
10	論文の製本		合否判定、学長への報告	
3				学位授与

# 立正大学大学院経済学研究科 単位先取履修制度に関する申し合わせ

立正大学大学院経済学研究科は、本学経済学部との連携の上に大学院の充実を図る一環として、大学院学則第8条の3に基づき、以下のとおり単位先取履修に関する申し合わせを定める。

## 1 (対象となる学生)

立正大学経済学部4年生で、下記の条件をみたす者。

- (1) 次年度(卒業後)において経済学研究科に入学を希望する者であること。
- (2) 先取履修時に指導教員となる教員(以下「先取履修指導教員」という。)の推薦を得られること。
- (3) 成績優秀者であること。
- (4) 先取履修指導教員が指定する経済学部開講科目を単位修得済であること(先取履修指導教員が指定している場合に限る)。

## 2 (先取履修指導教員)

- (1) 先取履修指導教員は、先取履修を許可された学生(以下「先取履修生」という。)の履修指導・論文作成指導を行う。
- (2) 先取履修指導教員は、先取履修生が経済学研究科に入学した場合、当該院生の指導教員となる。
- (3) 先取履修指導教員が、先取履修生の入学時に、退職等により在籍しない場合は、経済学研究科委員会が当該院生と相談の上、指導教員を決定する。
- (4) 経済学研究科委員会は、委員会が必要と認める場合、先取履修指導教員の変更を認めることができる。

## 3 (履修許可手続)

- (1) 単位先取履修希望者の募集は、4月と9月に行うことができる。募集期間、人数等の具体的条件・実施細目は、経済学研究科委員会で別に定める。
- (2) 先取履修の応募に必要な提出書類は以下のとおりとする。提出書類の書式については別に定める。
  - ① 経済学研究科先取履修志望書
  - ② 先取履修指導教員の推薦書
  - ③ 3年生までの(9月に応募する場合は、4年生1期までの)成績表
  - ④ 大学院入試受験確認書
- (3) 先取履修の許可については、3(2)の提出書類をもとに、経済学研究科委員会において、以下の基準に基づいて、総合的に判断する。なお、経済学研究科委員会が必要と認める場合、応募者に対して面接を行い、その結果も判定資料とすることができる。
  - ① 出願条件の適否
  - ② 研究計画の適否
  - ③ 研究能力の適否
  - ④ 先取履修指導教員の指導意思の有無
  - ⑤ 申請科目ごとの先取履修の適否

## 4 (履修できる科目)

- (1) 先取履修生が履修できる科目は、以下のとおりとする。
  - ① 大学院修士課程開設科目
  - ② 先取履修指導教員の指定する科目
- (2) 先取履修生の履修登録できる単位数は、10単位までとする。

5 (単位認定)

- (1) 先取履修制度により修得された単位については、経済学研究科委員会は、大学院学則第8条の3第2項に拠り、当該先取履修生が大学院経済学研究科入学後、当該院生の申請に基づき10単位まで単位認定をすることができる。
- (2) 先取履修制度により単位を修得および認定された学生が、次年度に経済学研究科への入学を辞退または不能になった場合の単位の取り扱いについては、以後2年間は有効とする。
- (3) この申し合わせの変更は、経済学研究科委員会の議決を必要とする。

附 則

この申し合わせは、平成24年4月1日から施行する。



## 個人情報の取扱い

立正大学では、入学手続き時その他大学所定の手続において収集した住所・氏名・電話番号等の個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。

[https://www.ris.ac.jp/rissho\\_school/release\\_information/  
compliance/index.html](https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/index.html)

